

# 下関市立市民病院 年報

第4巻

平成27年度



地方独立行政法人

下関市立市民病院

SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL

# 目次

はじめに	2	看護部	65
病院の沿革	3	放射線部	81
下関市立市民病院組織図	7	検査部	83
委員会組織図	8	臨床工学部	86
各部門の活動状況		リハビリテーション部	94
内科・リウマチ膠原病内科	9	栄養管理部	99
血液内科	10	薬剤部	103
腎臓内科	11	地域医療連携室	106
糖尿病内科	15	医療安全対策室	109
ペインクリニック内科	18	ドクターズクラーク室	114
循環器内科	20	審議会・委員会、部会活動報告	
消化器内科	22	薬事審議会	115
小児科	24	感染管理委員会	116
外科	28	保険委員会	120
呼吸器外科	33	輸血療法委員会	121
脳神経外科	35	治験審査委員会	125
心臓血管外科	37	検体検査管理委員会	127
小児外科	41	診療録管理委員会	129
整形外科	42	安全管理委員会	131
皮膚科	46	褥瘡対策委員会	136
泌尿器科	47	栄養管理委員会	137
産婦人科	49	広報年報委員会	139
耳鼻咽喉科	52	衛生委員会	141
放射線診断科	54	倫理委員会	142
放射線治療科	55	研修管理委員会	143
麻酔科	56	CS推進委員会	145
救急センター	57	クリニカルパス推進委員会	146
救命センター	58	NST運営委員会	149
病理診断科	60	緩和ケア委員会	150
歯科・歯科口腔外科	62	ボランティア活動	151
		出前講座	152

# はじめに

院長 田中雅夫

小柳前院長の任期を1年残してのご退任を受けて院長に就任し、早や1年が経過しました。積み残されていた課題をひとつひとつ解決するのに忙殺されながらも、次第に病院の置かれたこの医療圏の問題がわかるようになって来ました。人口減少と高齢化、研修医の不足、若い世代の医師の不足など福岡ではあまり考えなかった問題もあります。若い世代に「この病院で働いてみたい！」と思ってもらえる病院になるにはどうすればよいかを日々考えています。病院を新築移転するのが最高の策ですが、これは当然時間がかかります。ひとまず今はできることからやっていかないとはいけません。とかく批判的になっている専門医制度ですが、制度がある以上は認定施設にもならなければ若者は圏外に去ってしまいます。外科系の認定は以前から揃っていますが、私が指導医資格を持つ消化器病と消化器内視鏡はまだでしたので早速手続きを進め、専門医は消化器内科に規定を満たす2名がいますので消化器病は認定施設、内視鏡は指導施設（12月認定見込み）になることができました。患者さんが増えれば専門医を目指す若者を呼べるようになったわけです。各種の施設認定を取得するというのはそういった意味があるのです。

市民病院は2012年の法人化後2014年度に初めて小幅ですが黒字を達成しました。第1期中期計画が終了し、2016年4月から第2期の4年間に入ります。第1期が法人化に慣れて体制を整える期間ならば、次は発展させる期間です。黒字は勿論望ましいですが、やりがいのある働きやすい環境にするために医療資源への投資も重要と私は考えていますので、そのために必要な機材は揃えたいと思います。そのためにはより多くの市民の方々に頼ってもらえ、病診連携も進めてより多くの紹介をいただけるように職員全員が日夜努めることが大切です。

2016年3月に受審した最新バージョンの医療機能評価は、職員各位の周到的な準備と対策のおかげで無事合格評価をいただきました。これでかねて完成している20床の緩和ケア病棟が本格的に開設できます。担当医師は他の病院で緩和ケア病棟を担当していた九大の私の医局の後輩を招致したところ意気に感じて来てくれました。次は、本館を改装して整備される健診センターの規模拡大です。受診の要望は多くて2倍の設備にしてもいいという見込みだそうですから関連部署は今より忙しくなりますが、健全経営のためにはお願いしなければなりません。そのために必要なことがあれば申し出て下さい。できることはやります。さあ、発展のための次の4年の始まりです、皆で頑張りましょう！

## 病院の沿革

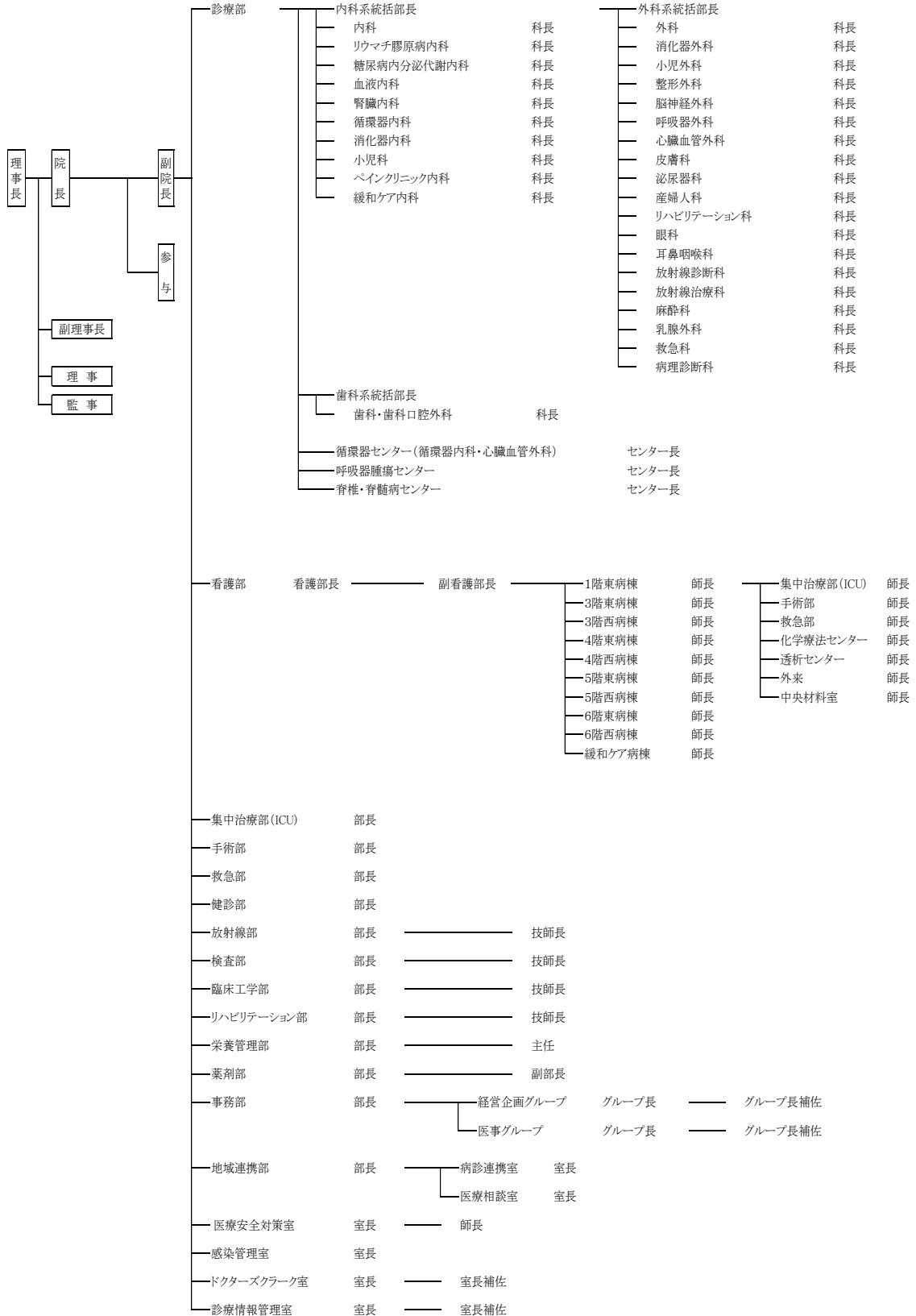
明治34年12月	下関市立高尾病院（伝染病院）開設
明治45年	衛生試験所
大正15年 4月	高尾病院改築
昭和 8年 5月	下関市立診療所併設
昭和22年 8月	下関市立診療所を病院に改める。（名称は以前の名称を使用 医師5名）
昭和23年 6月	下関市立診療所小月分院開設
昭和23年 6月	日本医療団下関病院を買収、下関市立病院として発足
昭和25年 1月	下関市立中央病院 初代院長 常松順介就任
昭和25年 3月	下関市立高尾病院、下関市立診療所と下関市立病院を統合し、下関市立中央病院として発足（医師9名） 一般 53 床、結核 51 床、伝染 50 床、下関市立病院を下関市立中央病院付属新町診療所に改称（13 床）
昭和25年 6月	長府診療所設置
昭和25年10月	耳鼻咽喉科新設
昭和26年 1月	第2代院長 浜崎邦夫就任
昭和26年 4月	弟子待仮診療所設置
昭和26年 8月	新町診療所病室設置（6室9床）
昭和28年 3月	弟子待仮診療所廃止
昭和28年 6月	小月（14床）、長府（8床）隔離病舎廃止
昭和29年12月	小月診療所廃止
昭和30年10月	吉田、王喜伝染病院隔離病舎廃止
昭和31年 1月	長府診療所廃止
昭和32年 7月	伝染病院2階建（53床）増築
昭和33年 1月	新町診療所を増設、下関市立中央病院新町分院として開設（30床）、基準給食実施
昭和33年10月	基準給食、基準看護実施2類 本院 医師12名 看護婦36名 新町分院 基準看護実施2類
昭和35年 3月	分院 医師3名 看護婦11名
昭和35年 7月	分院改築（2病棟）
昭和36年 3月	本院、分院保険医療機関指定、分院基準看護1類に変更
昭和36年 8月	新築（本院）190床（分院30床）、結核51床、伝染53床
昭和37年 4月	本院1類に変更（結核は2類）
昭和37年 4月	地方公営企業法の一部適用 結核44床に変更
昭和38年 1月	総合病院の名称使用許可（県）
昭和38年 4月	身体障害者福祉法に基づく指定（耳鼻科、眼科）
昭和38年11月	診療及び公衆衛生に関する実施修練病院の指定

昭和39年 4月	第3代院長 亀田五郎就任
昭和40年 1月	病院開設許可申請事項一部変更許可 一般 304 床、結核 36 床、伝染 53 床、合計 393 床、(76 床増床)
昭和40年 2月	救急病院指定 (救急専用優先病院 10 床)
昭和41年 3月	新町分院廃止
昭和41年 6月	健康保険法による基準寝具の実施について承認
昭和42年 3月	新館 150 床 (改築 74 床、増築 76 床) 増改築完成
昭和42年 4月	消化器科、循環器科、脳神経外科の3科を新設
昭和42年 9月	上田中町医師公舎 (16 戸) 完成
昭和44年 6月	人工腎臓室を設ける
昭和46年 3月	大学町医師公舎 (8 戸) 完成
昭和46年 4月	呼吸器科、神経精神科、理学診療科の3科を新設 19 科となる
昭和47年 5月	健康保険法による基準看護特類承認
昭和49年 7月	外科病棟 2 単位制実施
昭和49年 9月	内科病棟 2 単位制実施
昭和49年 9月	病院用地取得 71.96 m <sup>2</sup> (向洋町 2 丁目 10-53)
昭和50年 2月	院内保育所開設 (にこにこ保育園運営委員会)
昭和50年 4月	健康保険法による基準看護甲表特2類承認 (結核、甲表 2 類)
昭和50年 4月	診療科目 20 科となる。神経精神科を神経科、精神科に分ける。
昭和51年 4月	医師 30 名、医療技師 34 名、看護婦 195 名、事務 50 名、職員定数 309 名、病棟 2 - 8 体制実施
昭和52年 4月	医師 30 名、医療技師 35 名、看護婦 200 名、事務 50 名、職員定数 315 名
昭和54年 3月	呼吸器科外科、心臓血管外科、小児外科の3科を新設 23 科となる
昭和56年 1月	結核病床 36 床一般病床へ転床
昭和56年 7月	特定病床 15 床承認
昭和59年 5月	移転改築に係る新病院開設許可 (一般 430 床・伝染 30 床)
昭和60年 4月	第4代院長 四宮 衛就任
昭和61年 3月	新病院建設起工式
昭和63年 3月	新病院完成
昭和63年 4月	新病院における診療開始 (一般 430 床のうち 377 床・感染症 30 床)
平成元年 4月	第5代院長 徳永正晴就任
平成元年 4月	閉鎖部分の一般 53 床の診療開始
平成元年 6月	内科外来の予約診療制実施
平成元年 8月	登録医制度実施
平成元年 9月	基準看護 (特3類) 一般 6 棟 212 床、(特2類) 一般 248 床承認
平成 2年 7月	外科、整形外科外来の予約診療制実施
平成 4年 4月	臨床研修病院の指定
平成 4年 6月	基準看護 (特3類) 一般 7 棟 265 床、(特2類) 一般 195 床変更承認
平成 4年10月	外来全科の予約診療制実施
平成 5年 4月	週休 2 日制導入
平成 5年 7月	人間ドック受診者ホテル宿泊実施
平成 6年10月	中華人民共和国青島市市立医院と友好病院締結

平成 7年 6月	新看護（2対1看護A）体制実施 11単位 460床
平成 7年 7月	入院時食事療法特別管理加算実施
平成 8年 4月	第6代院長 赤尾元一就任
平成 8年 4月	夜間勤務看護加算実施
平成 8年 6月	MR棟（増築）完成
平成 8年 7月	MRを更新、CTを増設する。又、脳ドック、肺癌ドックを創設
平成 9年 2月	理学療法科をリハビリテーション科へ診療名を変更し歯科口腔外科を追加し 24科に
平成 9年 3月	透析センター（増築）完成
平成 9年 3月	外来駐車場を40台分増設
平成 9年 3月	旧NHK下関支局局舎取得
平成 9年 6月	新病院開設10周年記念講演会開催
平成10年 3月	新病院開設10周年記念誌発行
平成10年 4月	災害拠点病院の指定
平成10年10月	病院情報システム導入委員会の設置
平成11年 3月	心臓部血管連続撮影装置更新 無菌室完成
平成11年 4月	感染症医療機関（感染症2類）の指定 感染症病床数30床から6床へ減床 感染症病棟を1階東病棟へ変更（一般9床、感染症6床）
平成11年11月	中央採血室増築工事開始 1階東病棟へ普通個室4室増加
平成12年 3月	中央採血室増築工事完成 多目的血管連続撮影装置更新
平成12年10月	病院情報システム稼動（一次）
平成13年 3月	病院情報システム稼動（二・三次）
平成13年 4月	第7代院長 小柳信洋就任
平成13年 4月	外科、整形外科外来の予約診療制実施 院外処方開始
平成14年 4月	蓋井島診療開始
平成15年 1月	病院機能評価受審（平成15年8月認定）
平成16年 3月	救急センター改修（外来化学療法室の設置）
平成17年10月	CTを更新（64列マルチスライス）
平成18年 4月	看護職員配置基準 10対1体制（制度変更による）
平成18年 8月	地域がん診療連携拠点病院の指定
平成20年 2月	ESCO事業供用開始（ESCO事業：下関市立中央病院省エネルギー化事業）
平成20年 3月	リニアック室増築完成、リニアック装置更新
平成20年 6月	病院機能評価（Ver5.0）受審（平成20年8月認定）
平成23年 2月	電子カルテシステム稼動
平成23年 3月	地方独立行政法人下関市立市民病院定款議決
平成23年12月	地方独立行政法人化関連条例議決
平成24年 2月	法人認可取得

平成24年 4月	地方独立行政法人下関市立市民病院設立（下関市立市民病院開設）
平成24年 4月	D P C 準備病院、医療費預かり金制度開始
平成25年 3月	クレジットカード払制度開始
平成25年 3月	病棟改修工事（病室、ダイルーム等）開始
平成25年 7月	コンビニエンスストア（ローソン）オープン
平成25年11月	I C U 10 床運用開始
平成25年12月	病棟改修工事（病室、食堂ダイルーム等）完成
平成26年 6月	一般病棟入院基本料 7 対 1 入院基本料算定開始
平成26年 8月	地域医療センター（仮称）建設工事安全祈願祭
平成26年 8月	リハビリテーションセンター（改築）完成
平成27年 3月	地域がん診療連携拠点病院の指定終了
平成27年 4月	第 8 代院長 田中雅夫就任
平成27年 8月	院内改修工事（薬剤部、健診センター他）開始
平成27年10月	地域医療センター（仮称）建設工事完成
平成27年11月	新館にて化学療法センター12床、透析センター32床、医局の運用開始
平成28年 3月	病院機能評価(3rdG:Ver. 1. 1)受審

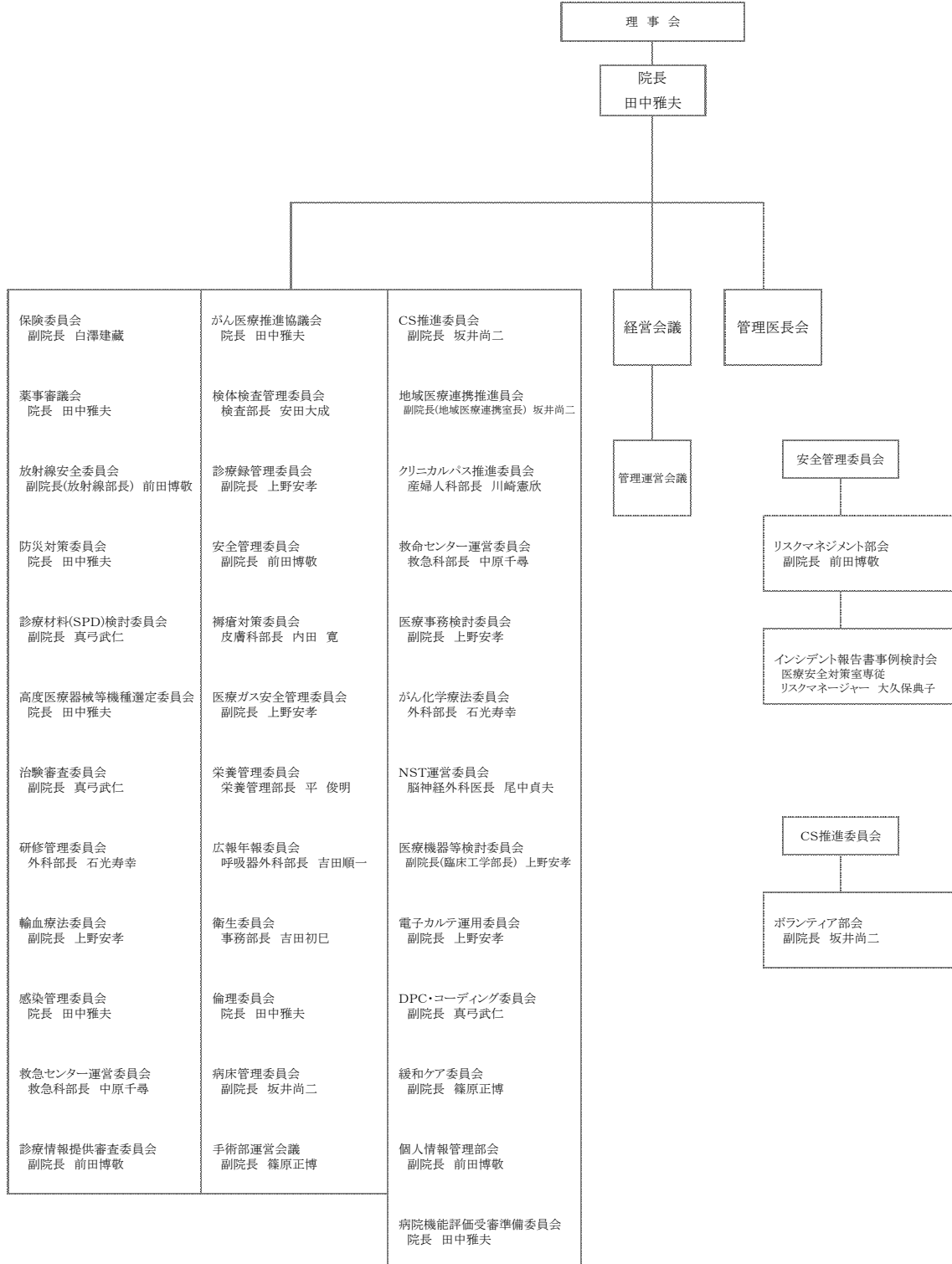
# 下関市立市民病院組織図



(平成28年4月1日 現在)



# 委員会組織図



(平成28年1月1日 現在)

## 内科・リウマチ膠原病内科

### 【スタッフ】

真弓 武仁 副院長 日本内科学会認定総合内科専門医 日本リウマチ学会専門医  
大田 俊一郎 医師 日本内科学会認定医、日本リウマチ学会専門医

### 【診療】

市内唯一のリウマチ専門医常勤施設として関節リウマチや全身性エリテマトーデスをはじめ下記のような様々な難治性自己免疫疾患の診察・診療を行った。また本年度より地域連携をより重要視し、院内開催の地域連携のための研究会を立ち上げ、2015年11月と2016年3月の計2回開催し、多くの先生にご参加いただいた。

### 【外来診療実績（平成27年度）】

関節リウマチ	186名	強皮症	35名
リウマチ性多発筋痛症	24名	混合性結合組織病	5名
RS3PE症候群	8名	血管炎	20名
悪性関節リウマチ	2名	Bheget病	9名
若年性関節リウマチ	2名	Sjogren症候群	41名
脊椎関節炎	6名	サルコイドーシス	5名
SAPHO症候群	1名	成人発症Still病	3名
全身性エリテマトーデス	46名	IgG4関連疾患	2名
多発性筋炎・皮膚筋炎	7名		

# 血液内科

## 【スタッフ】

久保 安孝 医長 日本内科学会認定内科医  
日本血液学会認定血液専門医

## 【診療実績】

入院疾患と患者数（平成 27 年 1 月～平成 27 年 12 月）

急性骨髄性白血病	3 人
悪性リンパ腫	27 人
再生不良性貧血	3 人
成人 T 細胞性白血病	1 人
多発性骨髄腫	10 人
骨髄異形成症候群	5 人
鉄欠乏性貧血	4 人
慢性骨髄性白血病	2 人
特発性血小板減少性紫斑病	1 人
骨髄増殖性疾患	2 人
その他	38 人
合 計	96 人

# 腎臓内科

## 【スタッフ】

坂井 尚二    吉水 秋子    乙咩 嵩臣    浦江 憲吾

## 【概要】

スタッフは吉村潤子医長が開業のため非常勤となり、田中洋澄医師が久留米大学腎臓内科に転任により診療体制は4名となった。

診療活動は腎疾患を中心とした専門内科として診療活動を行っているが、呼吸器内科など専門内科のない、また多臓器にわたる重症疾患や総合内科としての治療にも多く担当している。日常診療だけでなく教育面では、研究会・学会での発表を積極的に行い、研修医の指導にも力を注いでいる。糖尿病をはじめ生活習慣による疾患が増加しており、高齢社会を反映して高齢者の慢性腎不全が増加している。そのため福祉介護支援の重要性が増し、腎代替療法の血液透析では福祉介護スタッフによる通院援助など、在宅治療である CAPD（腹膜透析）では訪問看護師の協力と多方面と連携し地域医療を支えている。慢性腎臓病（CKD）の治療については全身疾患の一環として診るよう心がけており、早期からの予防のためには、患者様やかかりつけ医への啓蒙活動も腎臓内科の重要な責務と考えており、病診連携に力を入れている。診療には看護師、臨床工学技士、栄養士などのコ・メディカルとの協力を密にして高品質な治療をめざして行っている。

平成 27 年 11 月に新館に新しい透析センターがオープンした。規模の拡大だけでなく、個々の患者の病態に応じた治療ができるように設備が一新された。入院・外来維持透析の他に、種々の分野で必要となる急性血液浄化療法に対しても透析センター並びに ICU にて積極的に対応している。

## 【診療】

外来は週 4 日（火・水・金曜日午前、木曜日午前・午後）であるが、急性疾患や緊急時、院内外からの紹介には常時対応している。

透析センターでは、32 床を月・水・金曜日に午前・午後の 2 クール、火・木・土曜日は午前みの 1 クールで運営し、常時約 90 人の患者様が血液透析を受けている。

また総合病院としての使命で他の透析施設からの各科に入院となる患者様は積極的に受け入れている。整形・脳疾患はもとより、心・下肢血管のインターベンション治療目的の循環器疾患の患者が増加している。在宅治療である腹膜透析（CAPD）の導入も行っている。腎疾患はできるだけ腎生検を施行し、EBMに基づいて専門的治療を行うようにしている。IgA 腎症に対しては症例により治療法である扁桃腺摘出術ならびにステロイドパルス療法を積極的に行い腎炎の改善、寛解に取り組み、寛解例をはじめ良好な成績をあげている。遺伝性疾患である多発性嚢胞腎（PKD）も新たな薬物治療に取り組んでいる。腎不全の予防や治療に密接な関連のある高血圧、糖尿病の治療は、特に食事治療の重要性を考え栄養指導、自己管理指導を保存期より積極的に行っている。患者様だけでなく紹介先の先

生方の期待に応えるよう努めている。慢性腎臓病（CKD）の早期発見には、検診での尿異常など一般医と腎専門医との連携が必要である。特に高齢者においては潜在的に腎機能低下を有しており、わずかな誘因で急速に腎機能低下を招く危険性がある。早期診断治療には、今後とも病診連携を深めて治療にあたっていく必要があると考えている。

【腎臓内科 平成 27 年度 入院患者統計】

病 名	慢性腎不全	139
	急性腎不全	20
	慢性腎炎・ネフローゼ症候群	42
	電解質異常	19
	尿路感染症	16
	心不全	28
	糖尿病・糖尿病腎症	43
	シャントトラブル	46
	呼吸器感染症	66
	その他	104
	総症例数	523
治 療	内シャント造設術	34
	CAPD手術	5
	PTA	64
	経皮的腎生検	10
	血漿交換療法	1
	血球成分除去療法	6
	腹水濾過濃縮再静注法	15
	持続的血液透析濾過	17
	総件数	152

【業績集】

<学会・研修会>

開催年月日	演 題 名	演 者	共同演者	所 属	学 会 名	場 所
2015.06.26 ～28	Streptococcus agalactiae によるペースメーカーリード感染を発症した透析患者の 1 剖検例	乙咩崇臣 <sup>1</sup>	吉村潤子 <sup>1</sup> 浦江憲吾 <sup>1</sup> 田中洋澄 <sup>1</sup> 吉水秋子 <sup>1</sup> 安田大成 <sup>2</sup> 坂井尚二 <sup>1</sup>	下関市立市民病院 腎臓内科 <sup>1</sup> 病理診断科 <sup>2</sup>	第 60 回日本透析医学会 学術集会・総会	パシフィコ横浜

開催年月日	演題名	演者	共同演者	所属	学会名	場所
2015.06.26～28	当院透析室の足回診	村田由紀 <sup>1</sup>	松本和美 <sup>1</sup> 町野 彩 <sup>1</sup> 市川智春 <sup>1</sup> 松田愛子 <sup>1</sup> 藤田 忍 <sup>3</sup> 乙咩崇臣 <sup>2</sup> 吉村潤子 <sup>2</sup> 坂井尚二 <sup>2</sup>	下関市立市民病院 看護部 <sup>1</sup> 腎臓内科 <sup>2</sup> 臨床工学部 <sup>3</sup>	第60回日本透析医学会 学術集会・総会	パシフィコ横浜
〃	当院の RO 装置オーバーホール後の水質について	前田友美 <sup>1</sup>	佐々木毅 <sup>1</sup> 鈴木雄揮 <sup>1</sup> 藤田 忍 <sup>1</sup> 鈴木あゆみ <sup>1</sup> 吉村潤子 <sup>2</sup> 坂井尚二 <sup>2</sup>	下関市立市民病院 臨床工学部 <sup>1</sup> 腎臓内科 <sup>2</sup>	〃	〃
〃	門脈ガス血症を伴う腸管気腫性のう胞症を発症した血液透析患者に病理解剖を行った 1 症例	吉村潤子 <sup>1</sup>	浦江憲吾 <sup>1</sup> 乙咩崇臣 <sup>1</sup> 田中洋澄 <sup>1</sup> 吉水秋子 <sup>1</sup> 安田大成 <sup>2</sup> 坂井尚二 <sup>1</sup>	下関市立市民病院 腎臓内科 <sup>1</sup> 病理診断科 <sup>2</sup>	〃	〃
〃	腹膜透析カテーテル留置術と Kugel 法による鼠径ヘルニア修復術を同時に施行した 3 例報告	吉水秋子 <sup>1</sup>	吉村潤子 <sup>1</sup> 浦江憲吾 <sup>1</sup> 乙咩崇臣 <sup>1</sup> 田中洋澄 <sup>1</sup> 有川 誠 <sup>2</sup> 吉弘 悟 <sup>2</sup> 鈴木宏往 <sup>3</sup> 坂井尚二 <sup>1</sup>	下関市立市民病院 腎臓内科 <sup>1</sup> 泌尿器科 <sup>2</sup> 外科 <sup>3</sup>	〃	〃
〃	RPGN で血液透析を導入し肺胞出血及び日和見感染を伴い救命し得た MPO-ANCA 関連血管炎の 1 症例	浦江憲吾 <sup>1</sup>	吉村潤子 <sup>1</sup> 乙咩崇臣 <sup>1</sup> 田中洋澄 <sup>1</sup> 吉水秋子 <sup>1</sup> 真弓武仁 <sup>2</sup> 坂井尚二 <sup>1</sup>	下関市立市民病院 腎臓内科 <sup>1</sup> 膠原病内科 <sup>2</sup>	〃	〃
2015.11.12	当院の多発性嚢胞腎透析患者の臨床経過からの考察	(座長) 坂井尚二		下関市立市民病院 腎臓内科	下関医師会 学術講演会	下関グランドホテル

開催年月日	演題名	演者	共同演者	所属	学会名	場所
2015. 11.26	透析センター足回診の現状と問題点	村田由紀 <sup>1</sup>	松本和美 <sup>1</sup> 海野智枝 <sup>1</sup> 我如古めぐみ <sup>1</sup> 安井智恵 <sup>1</sup> 木村裕子 <sup>1</sup> 市川智春 <sup>1</sup> 松田愛子 <sup>1</sup> 佐々木毅 <sup>2</sup> 鈴木雄揮 <sup>2</sup> 前田友美 <sup>2</sup> 藤田 忍 <sup>2</sup> 浦江憲吾 <sup>3</sup> 乙咩崇臣 <sup>3</sup> 吉水秋子 <sup>3</sup> 吉村潤子 <sup>3</sup> 坂井尚二 <sup>3</sup>	下関市立市民病院 看護部 <sup>1</sup> 臨床工学部 <sup>2</sup> 腎臓内科 <sup>3</sup>	第29回山口 県西部透析 症例検討会	海峡メッ セ下関
2016. 01.21	高血圧と脳血管障害	(座長) 坂井尚二		下関市立市民病院 腎臓内科	STOP HYPERTE NSION Seminar in 下関	下関グラ ンドホテ ル

# 糖尿病内科

## 【スタッフ】

医師 江口 透

## 【概要】

当院の糖尿病診療は、内科、外科、眼科、泌尿器科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、歯科など関連各科と連携し、総合的診療を行っています。また、糖尿病の専門知識を有する看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士などのコメディカルスタッフとチームをつくり、専門的なケアを行っています。

高齢者、進行した合併症を有する症例、急性合併症の症例、他疾患の専門的治療に随伴する糖尿病症例など専門医でないと対応が困難な症例が増加しています。関連他科の先生方、コメディカルスタッフの方々の多大なご支援とご協力がなければ成り立たないということを日々実感しています。

地域の啓蒙のため、コメディカルスタッフと糖尿病教室、市民公開講座を行っています。また、内分泌診療は、甲状腺疾患、下垂体、副腎、性腺機能疾患などを、地域連携を進めながら幅広く診療しています。

## 【やまぐち糖尿病療養指導士】

看護部	3名
薬剤部	1名
検査部	3名
栄養管理部	3名

## 【診療実績】（2015年7月～12月）

入院

<糖尿病>

1型糖尿病	6名	糖尿病ケトアシドーシス	2名
2型糖尿病	35名	高血糖高浸透圧症候群	2名
その他の特定の機序、疾患によるもの	1名	低血糖	2名
妊娠糖尿病	0名	他科併診	58名

<内分泌代謝疾患>

慢性甲状腺炎	1名	原発性アルドステロン症	1名
非機能性副腎腫瘍	1名		

<感染症>

肺炎	15名
----	-----



外来

<糖尿病>

1 型糖尿病	15 名	その他の特定の機序、疾患によるもの	23 名
2 型糖尿病	253 名	妊娠糖尿病	0 名

<内分泌代謝疾患>

汎下垂体機能低下症	4 名	悪性リンパ腫	1 名
先端巨大症	1 名	原発性副甲状腺機能亢進症	1 名
ACTH 単独欠損症	1 名	副甲状腺嚢胞	1 名
バセドウ病	34 名	甲状腺腫瘍	18 名
慢性甲状腺炎	55 名	非機能性副腎腫瘍	4 名
亜急性甲状腺炎	1 名	原発性アルドステロン症	1 名
無痛性甲状腺炎	1 名		

<外来検査>

甲状腺エコー	77 名
甲状腺細胞診	8 名

【業績】

<学会・研究会>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2015.01.10 ～11	初回 R-CHOP 療法施行した悪性リンパ腫患者における経口摂取良好群と経口摂取不良群の栄養状態についての検討	大杉弘子	山崎幸、赤松貴代、岡崎真由美、藤井文子、清家 仁、丸田雅樹、江口 透、鹿田久治、金子政彦	第 18 回日本病態栄養学会年次学術集会	京都
2015.05.21 ～24	慢性甲状腺炎に自己免疫性 1 型糖尿病を合併し、糖尿病性ケトアシトスをきたした自己免疫性内分泌腺症候群 (APS)3 型の一例	宮崎万純	江口 透、宮内 省蔵	第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会	下関
2015.11.05 ～07	IgA 欠損症を合併したバセドウ病の 1 例	宮内省蔵	中川みく、宮崎万純、江口 透	第 58 回日本甲状腺学会学術集会	福島
2015.11.05 ～07	プロパジール、メルカゾールによる顆粒球減少を認め、治療に苦慮したバセドウ病の一例	宮崎万純	江口 透、宮内省蔵	第 58 回日本甲状腺学会学術集会	福島

<論文>

論文・症例・原著等	著者	共同著者等	雑誌名等	巻・号・頁	年度	発行所
A case of primary aldosteronism with secondary hyperparathyroidism and bilateral adrenal tumors	Tohru Eguchi	Shozo Miyauchi	Endocrinology, Diabetes & Metabolism Case Reports		2015	bioscientifica
男性 2 型糖尿病患者における血清テストステロンと血清亜鉛に関する検討(原著論文)	江口 透	宮内省蔵	日本性機能学会雑誌	30 巻 1 号 1~7 頁	2015	日本性機能学会
長期フォローにより診断可能であった原発性アルドステロン症の 1 例(原著論文/症例報告)	鈴木良輔	宮内省蔵, 江口 透	愛媛医学	34 巻 3 号 175~179 頁	2015	愛媛県医師会
糖尿病診療トレーニング問題集 内科医レベル(解説)	江口 透		糖尿病診療マスター	13 巻 2 号 183~184 頁	2015	医学書院

## ペインクリニック内科（疼痛外来）

ペインクリニックは多種多様な痛みの治療相談に応じる外来です。

特に難治性とされる神経そのものの損傷や機能異常で起こる痛みに対しての相談に力を入れています。最近は多くの種類の鎮痛薬が開発され治療成績も向上しつつあります。

当外来では患者様と粘り強く治療を進めてゆくことを心がけています。

近年、痛みの治療において漢方薬の効果も確認され、当外来においても積極的に応用し、確かな治療成績を認めています。

### 【担当医】

藤原義樹（日本麻酔科学会専門医）

### 【対象とする疾患】

帯状疱疹後神経痛

三叉神経痛

腰痛

偏頭痛

難治性の腰痛

線維筋痛症など

### 【診療日時】

毎週 月曜日、水曜日、金曜日（午前 11 時まで受け付け）

### 【診療実績】

平成 27（2015）年は新患数 99 名でした。

主な疾患としては、帯状疱疹後痛 46 例、三叉神経痛を含む顔面痛 15 例、頸椎症 7 例、腰椎症を含む腰下肢痛 11 例、胸壁痛 4 例、舌痛症 2 例、心因性全身痛 4 例などです。

治療方法としてトリガーポイント注射、硬膜外ブロック、星状神経節ブロック、キセノン光照射などの手技のほか、各種鎮痛薬、漢方薬などを併用しています。

近年、外来における神経ブロック（注射）が減少傾向ですが、疼痛管理のための内服薬の効能が向上しており、注射に頼らなくとも疼痛治療、管理が可能となってきています。

慢性の難治性疼痛に対する麻薬の貼付薬の処方が可能です。

### 【主な疾患とその症状】

帯状疱疹後神経痛：

帯状疱疹は水疱ができて皮膚科で治療を開始しますが、それが治癒した後も、その部分にピリピリと走る痛みが続く場合をいいます。通常の“鎮痛薬”は無効なことが多く、

特殊な薬剤が必要です。可能なら神経ブロックも行います。

頭痛：

頭痛には痛み方によりいくつかの診断があります。ドクドクと拍動するのは偏頭痛、目の周りがえぐられるように痛むのは群発頭痛、頭全体が締め付けられるように痛むのは緊張性頭痛、などです。脳の検査で異常がなく、たびたびの頭痛が起こる場合は、詳しく問診して適切な処方で行くことが多いです。

三叉神経痛：

世間で言うところの“顔面神経痛”のことです。目の周り、鼻の横、顎などに食事、歯磨き、ひげそりなどで誘発されるピリピリと電気が走るような痛みのことです。脳の検査も必要ですが、異常がなくて起こる方が多いです。

線維筋痛症：

原因不明の長引く全身痛です。あらゆる検査をしても“原因不明”の場合、その可能性もあります。慢性化しているためうつ状態が加味されていることも多いです。通常の痛み止めはなかなか効果がありません。

# 循環器内科

## 【スタッフ】

金子 武生 部長 日本循環器学会認定循環器専門医  
 辛島 詠士 医長 日本循環器学会認定循環器専門医  
 森山 祥平 医師  
 田中 洋光 医師

## 【概要】

4月より伊奈雄二郎医長から田中洋光医師に交代し4名体制で診療を行った。  
 心臓カテーテル検査件数、冠動脈の治療件数、末梢血管の治療件数とも昨年を上回った。  
 また、当科で引き続き禁煙外来を行った。

## 【診療実績】（平成27年1月～平成27年12月）

1日平均外来患者数は 25.2名（前年－1.4名）、年間入院総数は 863名（前年＋84名）  
 と外来患者数は減少したが入院総数は増加した。

心臓カテーテル検査（PCI含まず）	345件
血管内超音波検査件数	47件

冠動脈形成術（PCI）	計153件	合併症	成功率
緊急PCI（急性心筋梗塞など）	43件	1例	96%
待機PCI	110件	2例	94%

下肢等末梢血管造影（EVT含まず）	87件	合併症	成功率
下肢等末梢血管動脈形成術（EVT）	132件	1例	95%

ペースメーカー植込術 （心臓血管外科と共同）	計	30件
	新規	18件
	交換	12件

## 【業績集】（平成27年1月～平成27年12月）

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2015.6.19	クロスオーバーアプローチにより総腸骨動脈解離を来した1例	森山祥平	辛島詠士 田中洋光 金子武生	第106回日本循環器学会 中国・四国合同地方会	松山市総合コミュニティセンター
2015.7.19	匠に学ぶ EVT ～この治療戦略は正しかったですか？～	辛島詠士		CVIT2015, Coffee Break Seminar 4	ヒルトン福岡シーホーク

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2015.10.29	Iliac vein ompression syndrome after endovascular aneurysm repair	森山祥平	辛島詠士 田中洋光 金子武生	CCT2015	神戸ポートピアホテル

# 消化器内科

## 【スタッフ】

具嶋正樹、山口敢、吉田佳代

※平成 27 年 3 月で村上祐一が退職、同年 4 月より吉田佳代が就任しました。

## 【概要】

消化管領域を中心に、腫瘍や炎症性腸疾患などの消化器疾患全般に関する診断・治療にあたっています。

食道癌・胃癌に対しての内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を導入しており、ガイドラインに沿った加療を行っています。内視鏡的大腸ポリープ切除の他、胃瘻造設や消化管出血、異物除去などの内視鏡的処置も実施しています。

また、潰瘍性大腸炎やクローン病に関しては、病状に応じて免疫調整剤や白血球除去療法、抗 TNF $\alpha$  抗体製剤なども適宜併用し治療を行っています。

外科的加療の必要な消化器疾患については、当院外科と密に連携を取りながら適切な加療が円滑に行えるよう心がけています。

（尚、肝疾患に関しては肝臓専門医が不在のため、専門的な処置、診療を必要とする場合は他院の専門医と連携し診療を行っています。）

## 【診療実績】（平成 27 年 1 月～12 月）

### <内視鏡検査数>

上部消化管内視鏡検査	3,061 件
大腸内視鏡検査	1,038 件
上部消化管内視鏡的粘膜切除術（EMR）・ポリープ切除術	7 件
上部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	35 件
下部消化管内視鏡的粘膜切除術（EMR）・ポリープ切除術	194 件
内視鏡的消化管止血術	91 件
内視鏡的バルーン拡張術	14 件
内視鏡的ステント挿入術	5 件
内視鏡的異物除去術	12 件
胃瘻造設・交換	29 件

<入院診療疾患>

食道癌	5	感染性腸炎	37
食道良性疾患	9	S状結腸軸捻転	8
胃癌	29	クローン病	6
胃腺腫	3	潰瘍性大腸炎	8
胃ポリープ	1	その他小腸大腸良性疾患	34
出血性胃十二指腸潰瘍	22	急性膵炎	5
上部消化管出血	14	急性胆嚢炎 / 胆管炎	6
その他胃十二指腸良性疾患	16	急性肝炎	2
大腸癌	9	肝胆膵悪性腫瘍	4
大腸ポリープ	138	その他肝胆膵良性疾患	7
腸閉塞	21	腹膜炎	1
下部消化管出血（大腸憩室出血など）	26	貧血	10
虚血性腸炎	21	肺炎	28
結腸憩室炎	9	その他内科疾患	37

【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2015.01.23	抗血栓薬起因性消化管傷害の予防・治療戦略	具嶋正樹	〔座長〕	下関医師会学術講演会	下関グランドホテル
2015.07.29	大腸癌患者に合併した直腸病変の一例	具嶋正樹	山口敢 吉田佳代 鈴木宏往 安田大成	第13回 下関消化器病 フォーラム	下関グランドホテル
2015.07.29	直腸広範囲腫瘍や痔核上腫瘍に対するESDの有用性	具嶋正樹	〔座長〕	第13回 下関消化器病 フォーラム	下関グランドホテル
2015.08.06	妊娠中に増悪した潰瘍性大腸炎にサイトメガロウイルス腸炎を合併した1例	具嶋正樹	山口敢 吉田佳代 安田大成	第4回 大腸疾患研究会	下関グランドホテル



# 小児科

## 【スタッフ】

常勤医師：河野 祥二 坂田 恭史

非常勤：大賀 由紀（医師） 綿野 友美（医師） 永田 良隆（医師）  
河原 典子（医師） 東 良紘（医師） 鮎川 淳子（臨床心理士）

## 【診療実績】

### I 外来実績

#### (1) 外来総数

	延患者数	新患者数	紹介件数	1日平均	健診	定期予防接種	おたふくかぜ	ロタウイルス / B型肝炎
1月	693	136	45	36.5	9	85	4	8 / 11
2月	519	58	31	27.3	17	58	1	7 / 15
3月	754	90	51	34.3	17	65	3	10 / 12
4月	624	85	44	29.7	20	79	5	10 / 13
5月	549	74	34	30.5	13	88	9	15 / 12
6月	596	87	45	27.1	25	100	9	20 / 16
7月	625	90	54	28.4	20	110	12	19 / 17
8月	615	97	57	29.3	12	98	10	15 / 11
9月	526	88	53	27.7	19	86	2	9 / 9
10月	562	78	46	26.8	25	63	2	10 / 9
11月	511	75	43	26.9	14	63	3	8 / 14
12月	587	86	41	30.9	19	66	4	12 / 14
合計	7,161	1,044	544	29.6	210	961	64	143 / 153

インフルエンザの予防接種：206

#### (2) 専門外来

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アレルギー外来 (永田医師)	97	81	137	101	101	110	99	119	108	94	68	89	1,204
小児心身症外来 (大賀医師)	57	60	56	81	51	58	60	62	33	51	51	42	662
小児神経外来 (綿野医師)	36	30	48	43	44	36	55	47	41	45	29	38	492

Ⅱ 入院実績（入院疾患別分類）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
上気道炎(咽喉頭炎・扁桃炎)		3	2		2	2			1			1	11
気管支炎	3	1	3			2		1	2		3	1	16
肺炎	3	1	4	7	2	1	2	8	6	5	8	4	51
インフルエンザ	11	1											12
RSウイルス感染症	5	8	2	2	1		7	10	5	3	5	5	53
マイコプラズマ感染症				1	1	1	9	1	9	5	1	1	29
ロタウイルス胃腸炎				8	1							2	11
感染性胃腸炎 (含ノロウイルス)	7		3	2		2				2	1	1	18
気管支喘息	1	2	2	1	1		1	3	6	7	2		26
喘息性気管支炎			2		1	1	1	1		1			7
食物アレルギー (負荷試験)	1		1	1	1	1	3	1	1	2	4	3	19
熱性けいれん	2	1		3		3			1				10
未熟児新生児疾患	4	2	4	2	3	2	5	3	4	7	4	2	42
川崎病	1	3		1		1	1	1			1	1	10
X連鎖無ガンマグロブリン血症	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1		1	16
体重増加不良・低身長				1			1	1					3
小 計													334
ネフローゼ・糖尿病・肥満など 5 例、蜂窩織炎・リンパ節炎など 9 例、細菌性肺炎・呼吸器感染症 14 例、検査入院・社会的入院 10 例、アトピー性皮膚炎・皮膚疾患 8 例、手足口病・突発性発疹症など 7 例、潰瘍性大腸炎・消化器疾患 8 例、早発陰毛 2 例、胃腸炎・脱水症など 12 例、ヒトメタニューモウイルス気管支炎 14 例、虐待・溺水など 2 例、血球貧食症候群 2 例、ムンプス 3 例、腸重積・アレルギー性紫斑病 4 例、敗血症・細菌感染症など 5 例、不明熱・ウイルス感染症など 4 例、けいれん発作・てんかん 10 例、その他 3 例													122
合 計													456

### 【下関市イルカふれあい体験】

平成 15 年度より、自閉症児を対象に動物介在療法の一つである「イルカふれあい体験」を山口大学教育学部と海響館の協力を得て実施しています。このような事業を地域ぐるみで継続している例は他にはありません。

今年度はこれまで行ってきたことを一度まとめてみようという趣旨で、講演会・シンポジウムを行いました。平成 27 年 9 月 19 日（土）に当院講堂において、自閉症スペクトラム障害の特性に応じた地域支援への今後の課題 — 「下関市イルカふれあい体験」から学んだこと— というタイトルで開催、43 名の参加者があり、盛況でした。

平成 27 年度は、新規の参加者は 4 名、年長児オプション 1 名、経験者（前年度までの参加者）20 名の計 25 名で、5 月から 7 月にかけて実施しました。今年度は台風の影響により、残念ながら 1 回中止になりましたが、参加者全員が安全にセラピーを受けることができました。参加された子どもたちやご家族は笑顔で帰って行かれています。

ご協力頂いた皆様にこの場を借りまして御礼を申し上げます。

### 【業績集】

開催 年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名	場 所
H27. 5. 12	原因が確認できたウイルス性発疹症の紹介	河野祥二		第 42 回下関小児疾患カンファレンス	下関市立市民病院
H27. 5. 29	病気の子どもとその家族への心理的支援～「最小の苦痛で、最大の笑顔を・・・」を目指して～	大阪府立母子保健総合医療センター 臨床心理士 山本悦代	座長： 河野祥二	下関市小児科医会 学術講演会	東京第一 ホテル下関
H27. 7. 12	当科で経験した侵襲性肺炎球菌感染症 23 例の臨床的細菌学的検討	河野祥二	坂田恭史	第 126 回 日本小児科学会山口地方会	山口大学 医学部第 三講義室
H27. 7. 24	下関市内におけるロタウイルス胃腸炎入院医療費はどのくらいかかっているのか推計しました ～ロタウイルスワクチンの公費助成を請願する上で必要な資料～	河野祥二	坂田恭史	第 43 回下関小児疾患カンファレンス	下関市立市民病院
H27. 10. 21	最近当科で経験した腸重積の 2 例	坂田恭史	河野祥二	第 44 回下関小児疾患カンファレンス	下関市 医師会 看護学校

開催 年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名	場 所
H27. 11. 7	多発性脳梗塞で発症し、新規の IKBKG 遺伝子変異を認めた色素失調症の 1 例	坂田恭史		第 67 回 中国四国小児 科学会	ANA クラウン プラザ 萩 ル宇部
H27. 11. 8	下関市におけるロタウイルスワクチン接種率推計とロタウイルス胃腸炎	河野祥二	坂田恭史	第 127 回日本 小児科学会 山口地方会	ANA クラウン プラザ 萩 ル宇部
H27. 12. 13	予防接種をされるすべての先生方へ ～インフルエンザワクチンについて理解を深める。4 価ワクチンの導入など～	河野祥二		平成 27 年度 山口県医師会 予防接種医研 修会	山口 県 医 師 会 6 階 会 議 室

# 外 科

平成 27 年（2015）1－12 月

## 【暦に沿って】

特筆すべきは、対象年の 4 月、九州大学臨床・腫瘍外科 教授を退任して理事長・院長に田中雅夫が赴任したことです。同職は外科外来も担っており、当地区はもとより遠方から紹介の膵・胆道系の患者様を診療しています。

また同 4 月から宮崎大学医学部から大谷和広が外科医長として赴任しました。同職は山口県においては唯一の日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医であり、医師として活躍しています。

さらに 11 月 18 日、表 2 に第 27 回北九州がんセミナー【学術奨励賞】と示すように、若手医師が全国学会で発表した業績が受賞する栄誉を得ました。なお同じく表に示すように、吉田順一が、ラジオ日経に出演し、Web 上で 2 年間、収録が公開されています。

他方、10 月には新館が竣工し、化学療法センターと透析センターが直ちに稼働し、翌年 7 月から 20 床の緩和ケア病棟の新規オープンに向けて準備中です。副院長の篠原正博は、山口県緩和ケア講習の数少ないインストラクターであり、また緩和ケア病棟のオープンに向けて緩和ケアの医師を平成 28 年 4 月に招聘し、万全の体制で臨むようにしています。

また同年後半から、28 年度より募集が開始される新専門医制度について、吉田（日本外科学会認定施設代表、山口県医師会勤務医部会役員）が産業医科大学や九州大学のプログラムの提携病院として活動しています。手始めに、山口県で取れる外科専門医とその上のサブスペシャリティ（消化器外科専門医、小児外科専門医、呼吸器外科専門医など）について講演し、若手外科医にとって魅力ある病院となるよう努めています。

なお実績として当年、次頁に紹介する医師から 3 名の外科専門医が誕生しています。

## 【週間予定に沿って】

月曜、木曜：術後カンファレンスにて、内視鏡手術ビデオを編集したものを全医師で検討し、医療安全の面や認定資格取得に向けて研鑽しています。

火曜：診療科・部門横断的にキャンサーボードを行い、患者様中心に病院として最適な治療方針をたてるようにしています。

水曜：外科・呼吸器外科の総回診後、退院支援スタッフカンファレンスを看護師、相談員（MSW）や理学療法士と行き、患者様の継ぎ目無い（Seamless）退院や転院を図っています。

金曜：抄読会で最新文献から自己研鑽と全医師への還元を行っています。また緩和ケアラウンドとチーム会議にて症例検討を行っています。

随時：標準医療を忌避する例や終末期の倫理的な問題について倫理委員会 臨床部会で検討しています。また研究課題については、文部科学省・厚生労働省ガイドラインに従い、同 研究部会で審議を受けています。

【外科と関連科の医師と資格など、同年12月現在、\*厚労省広告許可】

●田中 雅夫 理事長・院長：

日本膵臓学会名誉理事長、日本外科学会・日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会 監事、アジアオセアニア膵臓学会プレジデント；外科専門医\*・指導医、消化器外科専門医\*・指導医・消化器がん治療認定医、消化器病専門医\*・指導医、消化器内視鏡専門医\*・指導医、日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医、日本がん治療認定医機構 暫定教育医、日本胆道学会 指導医、

●篠原 正博 副院長：

外科専門医\*、検診マンモグラフィ読影認定、日本がん治療認定医機構認定医

●石光 寿幸 外科部長：

外科専門医\*・指導医、消化器外科専門医\*・指導医・消化器がん外科治療認定医、がん治療認定医・指導医、日本乳癌学会 認定医、日本臨床腫瘍学会 暫定指導医、検診マンモグラフィ読影認定

●大谷 和広 外科医長：

外科専門医\*・指導医、消化器外科専門医\*・指導医、日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医、がん治療認定医

●宮竹 英志 外科医長：外科専門医\*

●鈴木 宏往 外科医長：外科専門医\*

●岡山 卓史 外科医師

<呼吸器外科>

吉田 順一 呼吸器外科部長（日本外科学会・日本消化器外科学会・日本臨床腫瘍学会・日本がん治療認定医機構・日本外科感染症学会 認定施設代表）、井上 政昭 呼吸器外科部長と名部 裕介 呼吸器外科医師は上記週間予定や手術において共に仕事を担っています。

<救急科>

中原 千尋 救急部長と奥村 幹生 救急科医師は、一般外科であれば緊急例の手術を担当しますが、その間、外来を外科などの医師が補っています。また患者様にとっては継ぎ目無い診療を受ける体制をとっています。

<小児外科>

大森 淳子 小児外科医師は上記の全医師と共同して業務を行いました。

以上、スタッフの布陣も充実し、患者様にとって安全で質の高い外科診療を目指し日夜、研鑽と教育に勤しんでいます。

【業績集】

表 1. 論文発表など

論文・症例・原著等	著者	雑誌名等	巻	号	頁始	頁終	年度
Tuberculosis in and after chest surgery: A-15patient study in a Japanese community hospital	Junichi Yoshida	日本外科感染症学会雑誌	12	1	1	8	2015
結核の外科治療、日本の現状と問題点	吉田順一	ラジオ NIKKEI 感染症 TODAY	2015年3月25日放送				2015
AGA 無症候性腭嚢胞ガイドライン 今必要なのはガイドラインの量産ではなくエビデンスの蓄積	田中雅夫	Medical Tribune	48	15	27	27	2015
Chapter 4.9 Cystic Tumors of the Pancreas. In: The Textbook of Surgical Gastroenterology,	Masao Tanaka	PK Mishraed, Jaypee Brothers Medical Publishers, New Delhi					2015

表 2. 学会発表など

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名
2015.01.23	特別講演	篠原正博	[座長]	下関チーム医療緩和ケア懇話会
2015.01.23	症例提示	新川智彦		第15回下関乳腺画像診断カンファレンス
2015.01.24	平成26年度下関ストーリーマケア学習会 ストーリーマケアのお悩み解消講座	篠原正博	杉村、山中、下田、藤重	平成26年度下関ストーリーマケア学習会
2015.02.06	特別講演	石光寿幸	[座長]	地域がん診療連携拠点病院 化学療法研修会
2015.02.20	浅在性乳癌の1例	新川智彦	石光寿幸、白井剛、友杉隆宏、金山雅俊、岡山卓史、鈴木宏往、宮竹英志、中原千尋、井上政昭、吉田順一、篠原正博	第117回北九州外科研究会

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名
2015.05.07	特別講演 2	篠原正博	[座長]	第 4 回下関大腸がん治療セミナー
2015.06.26	症例	宮竹英志	奥村幹夫、鈴木宏往、大谷和広、石光寿幸、篠原正博、田中雅夫	第 4 回下関肝胆膵カンファレンス
2015.07.15 ～ 2015.07.17	転移性肝腫瘍との鑑別が困難であった膵粘液性嚢胞線癌術後の肝偽腫瘍の 1 例	宮竹英志	鈴木宏往、中原千尋、石光寿幸、吉田順一、篠原正博、安田大成	第 70 回日本消化器外科学会総会
2015.07.18	Surgical site infection(SSI)について	吉田順一		九州大学病院グローバル感染症センター 人材育成プログラム
2015.07.29	第 13 回下関消化器病フォーラム	篠原正博	[座長]	第 13 回下関消化器病フォーラム
2015.08.04	下関チーム医療 緩和ケア懇話会 症例検討会	篠原正博	[企画責任者]	下関チーム医療緩和ケア懇話会 症例検討会
2015.11.14	腹膜播種が疑われ、腹腔鏡下生検等により診断された結核腹膜炎の 1 例	奥村幹夫	中原千尋、石光寿幸、篠原正博、鈴木宏往、宮竹英志、大谷和広、岡山卓史、大森淳子、名部裕介、井上政昭、吉田順一、安田大成、田中雅夫	第 24 回山口県内視鏡外科研究会
2015.11.14	一般演題	吉田順一	[座長]	第 24 回山口県内視鏡外科研究会
2015.11.18	多発する肝病変に対して長期制御してきた類上皮性血管内皮腫の一例	安藤陽平		第 27 回北九州がんセミナー【学術奨励賞】
2015.11.26 ～ 2015.11.28	(ポスター) 大腸癌術後に発症した後天性血友病の 1 例	岡山卓史	篠原正博、石光寿幸、宮竹英志、鈴木宏往、大谷和広、奥村幹夫、中原千尋、吉田順一、井上政昭、名部裕介、大森淳子	第 77 回日本臨床外科学会総会



開催年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名
2015.11.26 ～ 2015.11.28	(ポスター) FOLFOX-4 + Panitumumab 投与 で根治手術しえた Stage I V 大腸癌の1 例	友杉 隆宏		第 77 回日本臨床外 科学会総会

# 呼吸器外科

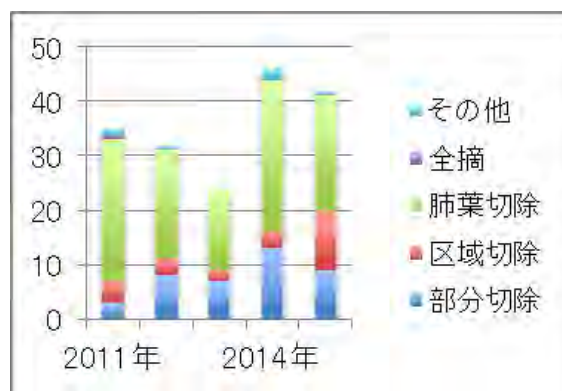
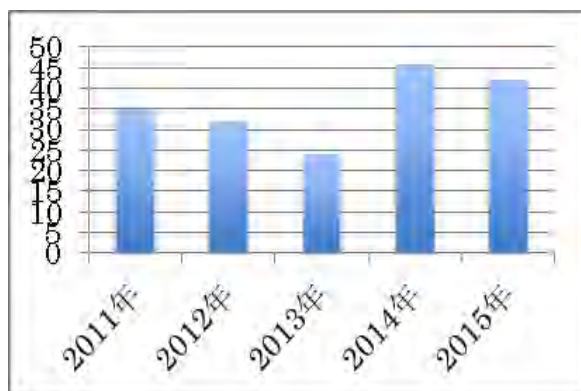
呼吸器外科では胸部悪性疾患（原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍、等）、良性疾患（気胸、肺嚢胞症、等）を呼吸器腫瘍センターで、感染性疾患の治療を呼吸器感染症センターで行っています。

2015年の全手術症例数は97例、原発性肺癌手術症例数は42例と前年度と同等の手術症例数でありました。当院での肺癌手術治療は多くの症例で内視鏡（胸腔鏡）を使用して手術を行いますが、進行肺癌に対しては開胸で拡大手術にも取り組んでいます。開胸手術は9例に行いました、その中には心臓血管外科と合同手術（縦隔正中切開にて右上葉切除+大動脈弁置換術）が含まれています。このように複雑な手術やリスクの高い手術に関しは胸腔鏡手術では対応できない症例があります。肺癌治療の基本は根治性を損なわない事が第一であります。

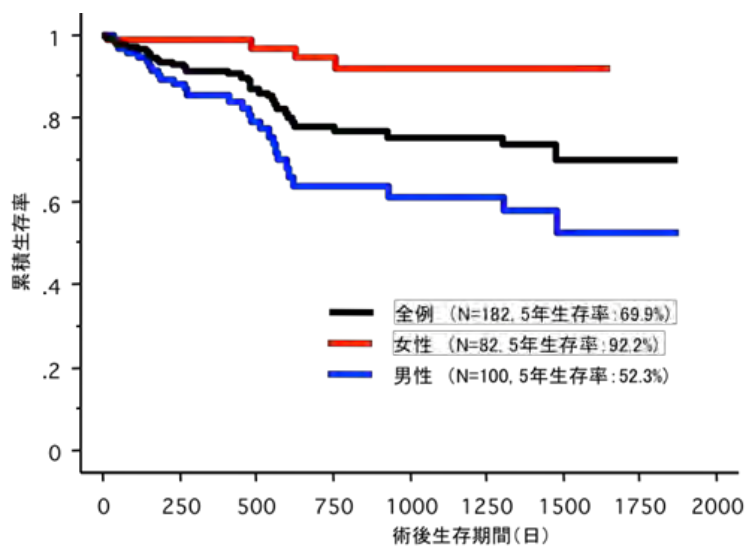
当科の基本的治療方針は、“患者様が受けたい治療施設となれるように、最良治療の提供”であり、患者様に満足して頂くように全力で治療を行います。本年もよろしくお願いたします。

## 【原発性肺癌手術症例数】

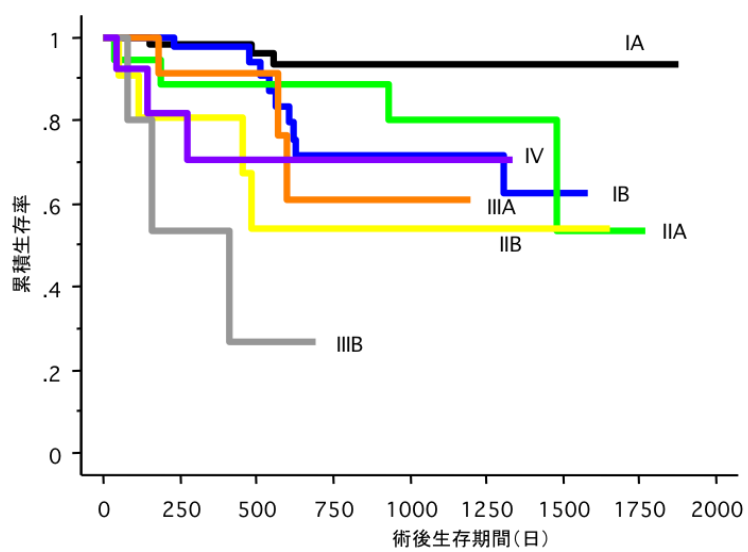
年度	2011	2012	2013	2014	2015
手術症例数	35	32	24	46	42



【原発性肺癌術後生存率】



病理病期	IA	IB	IIA	IIB	IIIA	IIIB	IV
症例数	69	47	18	11	13	6	13
5年生存率	93.6	62.5	53.3	53.6	61.1	26.7	70.3



# 脳神経外科

平成 27 年 1 月～12 月

【スタッフ】平成 27 年 3 月まで常勤 2 人 4 月より 3 人

部長 中村 隆治 (2010,04～)

医長 尾中 貞夫 (2012,04～)

医師 藤岡 寛 (2015,04～)

## 【概要】

4 月よりスタッフが 3 名になり余裕をもって日々の診療を行うことができました。

昨年と同様に外来日は予定手術日の木曜日以外は毎日行っております。木曜日でも可能であれば外来にも対応しております。急患にもできる限り対応しております。

脳神経外科での対象疾患は脳血管障害、脳腫瘍、外傷、機能的疾患、先天奇形等幅広く多岐にわたっております。最近が高齢者で物忘れ、歩行障害を訴え受診する患者さんが増えております。その中には慢性硬膜下血腫や正常圧水頭症の患者さんも含まれており積極的に物忘れの患者さんも診察しております。シャント手術後に物忘れや歩行障害が改善する患者がおられます。

下関市は高齢化の率が高く、手術となる症例は減少傾向にあります。入院患者の多くは脳梗塞患者であり、そのうち半数以上が 80 歳以上で、t-PA の適応にもなりにくい年齢層が多い状況です。その中で、適応があれば頸動脈内膜剥離術や頸動脈ステント留置など行っております。脳腫瘍症例では転移性脳腫瘍が多く放射線治療、特にガンマナイフと組み合わせ、侵襲の少ない治療を心がけています。

また、脳卒中後の痙縮に対しても、ボトックスやバクロフェンなどの使用により ADL 改善につなげたいと考えておりますのでご相談ください。

## 【診療実績】(2015.1 月～12 月)

1. 入院症例 約 300 例

2. 手術症例 77 例

(内訳) 脳腫瘍; 9 例 脳動脈瘤クリッピング; 14 例(破裂 10 例、未破裂 4 例)、  
脳動静脈奇形摘出術; 1 例 血腫除去術; 2 例 急性硬膜下および外血腫;  
2 例 慢性硬膜下血腫; 25 例 水頭症 (脳室腹腔シャント術等); 13 例  
その他; 11 例

## 【業績集】

<発表>

開催年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学会名	場 所
2015.6.18	イーケプラの使用経 験からの考察	中村隆治	尾中貞夫 藤岡 寛	エピレプシー カンファレンス	東京第一ホテル 下関

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2015.6.27	多様な分化を示した 高齢者前頭葉腫瘍の 1例	尾中貞夫	中村隆治 藤岡 寛	第 120 回日本脳 神経外科学会 九州支部会	おきなわ クリニカルコミュニケー ションセンター
2015.12.05	部分血栓化破裂後大 脳動脈瘤の 1 例	藤岡 寛	中村隆治 尾中貞男	第 80 回日本脳神 経外科学会中国 四国支部会	香川国際会議 場
2015.11.06	レベチラセタムの使 用経験からの考察	中村隆治	尾中貞夫 藤岡 寛	山口脳疾患学術 講演会	ホテルニュータカ 3 F 孔雀の間

<論文>

論文、症例、原著等	著者	共同著者	雑誌名	巻号頁	年度	発行所
A case of metastatic brain tumor in the perfusion territory of superficial temporal artery-middle cerebral artery anastomosis	Yutaka Fujioka	Nobuhiro Hata, Yuhei Sangatsuda, Daisuke Inoue, Sei Haga, Shinji Nagata	Surgical Neurology Internatio nal	25 巻 6 号 198 頁	2015	Wolters Kluwerl

# 心臓血管外科

## 【スタッフ】

上野 安孝 副院長、栗栖 和宏 部長、木村 聡 医長、山下 慶之 医師の4名体制で診療を行いました。

## 【診療概要】

心臓血管外科では、主として成人の心臓疾患（虚血性心臓病、弁膜症、重症心不全、不整脈など）や大血管疾患（胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、腹部大動脈瘤など）、末梢動静脈疾患などの手術を中心とした診療を行っています。

最近では患者さんの高齢化や重症化が進む一方ですが、できるだけ早期に日常生活に復帰できるように努めています。

狭心症に対する冠動脈バイパス術では、低侵襲で合併症も少ない心拍動下冠動脈バイパス術（人工心肺を使用しない手術）を第一選択として行っています。また、バイパスグラフトには長期開存性に優れる動脈グラフトを可能な限り用いています。

僧帽弁膜症に対する手術では心機能維持に優れる弁形成手術をできるだけ行う方針としています。

大動脈疾患に対する治療では、通常の手術（開胸・開腹下の手術）に加えてステントグラフト内挿術を行っています。この治療は手技の面でも時間の面でも低侵襲で、これまで手術が困難と思われてきた患者さんにも治療ができるようになると期待されます。また胸部大動脈瘤において、通常の手術時にステントグラフト内挿を組み合わせる方法（オーブンステントグラフト法）を取り入れ、数例の患者さんに行い良好な結果を得ています。患者さんの病態に応じて適切な治療法を選択しています。

末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞症など）に対しては、血行再建（血管内治療やバイパス手術）を行っています。また、下肢の静脈瘤に対する治療は、静脈抜去術が一般的ですが、血管内焼灼治療（いわゆるレーザー治療）を始めました。治療後の経過も良好で、適応のある患者さんには積極的に行っていく予定です。

心臓大血管疾患では、突然病態が悪化し緊急手術が必要となる疾患（急性冠症候群、大動脈瘤破裂や急性大動脈解離、急性動脈閉塞症など）があり、このような疾患に対しては積極的に緊急手術を行って救命に努めています。

## 【診療実績】

心臓血管外科の平成27年度（平成27年4月～平成28年3月）の、外来患者延数は2,427人、初診265人、紹介率77%、逆紹介率159%でした。入院延数は3,506人・日、平均在院日数17.2日でした。

心臓血管外科における平成27年（平成27年1月から平成27年12月）の手術実績は下記の通りであり、手術室における手術件数は212件でした。

#### A.心臓大血管手術

開心術症例数(人工心肺症例＋人工心肺非使用冠動脈バイパス症例＋胸部ステントグラフト症例)は 71 例でした。冠動脈バイパス術は動脈グラフトを用いた心拍動下手術(人工心肺を使用しない手術)を標準術式としており、26 例に行って良好な成績が得られました。弁膜症手術は 19 例でした。高齢者の大動脈弁狭窄症例の増加傾向を認めます。胸部大動脈手術は 24 例でした。うち 9 例に対してステントグラフト内挿術を行い、良好な結果が得られました。

#### B.腹部大動脈瘤

腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術を 10 例に、ステントグラフトによる治療を 12 例に行いました。

#### C.末梢動脈手術

大動脈閉塞に対するバイパス術及び下肢動脈閉塞に対するバイパス術を 18 症例に施行しました。緊急の血栓除去術を 12 例に施行しました。

#### D.下肢静脈疾患

血管内焼灼治療を含む下肢静脈瘤手術を 64 例に行ないました。また、外来手術にて高位結紮術または静脈瘤切除術を併せて 17 例に行いました。

#### <心臓血管外科手術統計>

心臓手術 49 例

冠動脈疾患手術	冠動脈バイパス術 26 例 (体外循環非使用心拍動下手術 17 例)
弁膜症手術	19 例 大動脈弁置換術 11 例 (+冠動脈バイパス術 6 例、+不整脈手術 2 例) 大動脈弁置換術＋僧帽弁形成術 1 例 (+不整脈手術 1 例) 僧帽弁置換術 1 例 僧帽弁置換術＋三尖弁輪形成術 4 例 (+不整脈手術 3 例) 僧帽弁形成術＋三尖弁輪形成術 2 例
心臓・心膜腫瘍手術	4 例

大血管手術 46 例

上行弓部大動脈置換術	5 例 (急性 A 型大動脈解離 1 例)
部分弓部大動脈置換術	4 例 (急性 A 型大動脈解離 3 例)
上行大動脈置換術	3 例 (急性 A 型大動脈解離 2 例)
下行大動脈置換術	2 例
胸腹部大動脈置換術	1 例
胸部大動脈ステントグラフト内挿術	9 例
腹部大動脈置換術	10 例 (破裂 4 例)
腹部大動脈ステントグラフト内挿術	12 例

末梢血管手術 117 例

腋窩-大腿動脈バイパス術	3 例
大腿-大腿動脈バイパス術	4 例
大腿-膝上膝窩動脈バイパス術	5 例 (+ 大腿-大腿動脈バイパス術 1 例)
大腿-膝下膝窩動脈バイパス術	6 例
血栓除去術±血管形成術	12 例
血管パッチ形成術	2 例
上腕動脈瘤切除・再建	1 例
内シャント造設術 (人工血管)	3 例
下肢静脈瘤手術	64 例 (血管内焼灼 2 例)
下肢静脈瘤高位結紮術	17 例

【業績集】

< 学会・研究会 >

開催年月日	演題名	演 者	学会名	場 所
2015.5.29	OPCAB 術中の突然発症の難治性心室細動の一例	木村 聡	第 21 回福岡心臓血管外科懇話会	二日市 (大丸別荘)
2015.6.3-5	下肢バイパス術後人工血管感染の 3 例	山下慶之 恩塚龍士 栗栖和宏 上野安孝	第 43 回日本血管外科学会学術総会	横浜 (パシフィコ横浜)
2015.7.16	(一般演題座長)	上野安孝	下関循環器カンファレンス	下関 (海峡メッセ下関)
2015.7.16	当院の大動脈治療の現状	木村 聡	下関循環器カンファレンス	下関 (海峡メッセ下関)
2015.7.30	左椎骨動脈大動脈起始を伴う遠位弓部大動脈瘤の 1 例	山下慶之 栗栖和宏 木村 聡 上野安孝	第 107 回山口県循環器談話会	山口 (山口グランドホテル)
2015.8.6-7	Case Report Award 審査員 (心臓・大血管)	栗栖和宏	第 48 回日本胸部外科学会九州地方会総会	佐賀 (佐賀市文化会館)
2015.8.6-7	繰り返す転移性心臓腫瘍、どこまで手術しますか？	栗栖和宏 山下慶之 木村 聡 上野安孝	第 48 回日本胸部外科学会九州地方会総会	佐賀 (佐賀市文化会館)
2015.8.6-7	左椎骨動脈大動脈起始に対する弓部置換術の 1 例	山下慶之 栗栖和宏 木村 聡 上野安孝	第 48 回日本胸部外科学会九州地方会総会	佐賀 (佐賀市文化会館)



<論文>

雑誌名	著者	論文
Surgical Case Reports 1 74 2015	Yoshiyuki Yamashita Kazuhiro Kurisu, Satoshi Kimura, Yasutaka Ueno	Successful resection of a huge metastatic liposarcoma in the pericardium resulting in improvement of diastolic heart failure: a case report
Ann Thorac Surg 100(3) 1114 2015	Satoshi Kimura Ryusuke Yonekura Masayoshi Umesue	Angiosarcoma mimicking an infected pseudoaneurysm after graft replacement

# 小児外科

## 【スタッフ】

医師：大森 淳子

## 【外来患者数】（平成 27 年 1 月～平成 27 年 12 月）

新患：102 名、再来：376 名 計 478 名

## 【入院症例】（平成 27 年 1 月～平成 27 年 12 月）

男：27 名、女：10 名 計 37 名

急性虫垂炎	2	停留精巣	8
腸間膜リンパ節炎	1	陰嚢・精索水腫	8
臍ヘルニア	2	その他	4
鼠径ヘルニア	12	計	37

# 整形外科

## 【スタッフ（専門、認定）】

副院長 白澤建藏（脊椎脊髄疾患・関節疾患、日本整形外科学会専門医・脊椎内視鏡下手術技術認定医・脊椎脊髄病医・リウマチ医・スポーツ医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、日本リウマチ財団リウマチ医）

整形外科部長 山下彰久（脊椎脊髄疾患・関節疾患、日本整形外科学会専門医・脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医）

医長 原田岳（リウマチ・膝関節・股関節疾患）

医長 渡邊哲也（脊椎脊髄疾患・足の外科）

橋川和弘医師、千住隆博医師、上原慎平医師、矢野良平医師、嶋勇一郎医師の 9 名が勤務した。

## 【治療現況】

骨折等の骨関節の救急外傷の治療、脊椎脊髄疾患の診断と外科的治療、変形性関節症及び関節リウマチの薬物治療及び外科治療、小児の整形外科疾患、足の外科等を主体に治療を行っている。なかでも脊椎脊髄疾患では、内視鏡を使用した内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術や腰椎変性疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症）に対する経皮的手術や最小侵襲手術（経皮的椎弓根スクリューによる脊椎固定術、側方進入前方固定術）、成人脊柱変形いわゆる腰曲がりに対する脊柱再建手術（側方アプローチによる前方固定術と仙腸骨 SAI スクリューも使用した脊柱変形の矯正固定手術）、思春期特発性脊柱側弯症に対する側弯矯正手術、骨粗鬆性脊椎椎体（圧迫）骨折に対する椎体形成術や BKP（バルーンカイフォプラスチック）、前側方アプローチによる椎体置換術、頸椎変性疾患（頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア）に対する椎弓形成術、透析やリウマチに伴う頸椎病変（環軸椎脱臼、軸椎下垂脱臼）の手術、脳性麻痺に伴う頸髄症手術、脊髄腫瘍や転移性脊椎腫瘍の手術等多岐にわたる実績を持っている。

また、関節疾患では変形性関節症やリウマチに対する人工関節手術が多く特に人工膝関節は県内でも有数の症例数を誇っている。骨切り術、スポーツ外傷やリウマチ、膝変性疾患に対する関節鏡手術（膝半月板手術、膝前十字靭帯再建術、滑膜切除術）等幅広く行っている。

## 【業績集】＜論文＞

雑誌名	著者	表題	年	Volume	Page 始	Page 終
整形外科と災害外科	富永冬樹	特徴的な MRI 像を呈した大腿骨頸部不顕性骨折の 2 例	2015	64	312	315
整形外科と災害外科	伊東孝浩	高齢者の肘関節脱臼骨折の 1 例	2015	64	109	113

雑誌名	著者	表題	年	Volume	Page 始	Page 終
整形外科	富永冬樹	経験と考察 軸椎歯突起後方偽腫瘍に対して手術的治療を施行した経験	2015	66	311	314
整形外科と災害外科	富永冬樹	Sacral alar-iliac screw を用いた脊柱後方再建手術	2015	64	9	12
Eur J Orthop Surg Traumatol.	Ueda K	Three-dimensional analyses of proximal humeral fractures using computed tomography with multiplanar reconstruction: early stability of fixation after osteosynthesis in relation to preoperative bone quality.	2014	24	1389	1394
基礎と臨床	山下彰久	PPS 術後感染 in 日本 MISt 研究会監修:MISt 手技における経皮的椎弓根スクリュウ法	2015		235	239

【業績集】 <学会発表等>

学会回数	学会名	著者	発表年月日	表題
8	下関疼痛研究会	山下彰久	2015. 4. 7	症例を紐解く 脊椎疾患における ترامセットの有効性
	感染管理委員会講演会	山下彰久	2015. 5. 7	脊椎術後感染症 経験を生かした予防と治療のストラテジー
	下関整形外科レントゲンカンファレンス	白澤建蔵	2015. 6. 3	成人脊柱変形の診断と治療
129	西日本整形災害外科学会	山下彰久	2015. 06. 14	骨粗鬆症性椎体骨折に対する変形矯正術の検討
129	西日本整形災害外科学会	廣瀬毅	2015. 06. 13	当科における MIS-TLIF/PLIF の検討 従来法との比較
129	西日本整形災害外科学会	橋川和弘	2015. 06. 13	青壮年者の大腿骨頸部骨折に対して骨接合術を施行した症例の骨頭温存に関する検討
129	西日本整形災害外科学会	山下彰久	2015. 06. 13	積極的監視培養に始まる、一連の脊椎術後感染症予防戦略
1	下関骨粗鬆症性椎体骨折セミナー	山下彰久	2015. 6. 24	骨粗鬆症性椎体骨折に対する治療の進歩 低侵襲手術からテリパラチドまで

学会回数	学会名	著者	発表年月日	表題
28	日本臨床整形外科学会	山下彰久	2015. 7. 19	胸腰椎骨粗鬆症性椎体骨折に対する BKP の限界：脊柱矢状面バランスとの関連
28	日本臨床整形外科学会	坂本和也	2015. 7. 19	骨粗鬆性椎体骨折のピットフォールー当科で経験した Chance 骨折の亜型についてー
	沖縄 Spine Symposium	山下彰久	2015. 8. 1	脊椎インストゥルメンテーションのトレンド
3	九州 MISt 研究会	山下彰久	2015. 9. 5	MISt を支える医療連携：テリパラチドを中心に
4	九州大学大分脊椎外科研究会	山下彰久	2015. 12. 4	特別講演：MISt の実際ー安全性と成績向上のノウハウー
4	九州大学大分脊椎外科研究会	白澤建蔵	2015. 12. 4	特別講演：成人脊柱変形の診断と治療ー過去 20 年を振り返ってー
130	西日本整形災害外科学会	山下彰久	2015. 11. 14	骨粗鬆症性椎体骨折に対する Balloon Kyphoplasty 最小侵襲で最大効果を得るための留意点
130	西日本整形災害外科学会	上原慎平	2015. 11. 15	頸椎椎弓形成術後に水頭症をきたした一例
130	西日本整形災害外科学会	渡邊哲也	2015. 11. 14	高齢者椎体骨折に対する低侵襲側方椎体置換術による治療法の検討
130	西日本整形災害外科学会	嶋勇一郎	2015. 11. 14	高齢者の脊柱後彎を伴う椎体骨折に対する BKP の成績
130	西日本整形災害外科学会	千住隆博	2015. 11. 14	感染性脊椎炎に対する MISt を活かした治療戦略
130	西日本整形災害外科学会	矢野良平	2015. 11. 14	最小侵襲腰椎椎体間固定術による脊柱管・椎間孔拡大に関する画像的検討
	下関整形外科医会	山下彰久	2015. 11. 25	脊椎骨粗鬆症に対するデノスマブの有効性と留意点
28	日本外科感染症学会	山下彰久	2015. 12. 1	入門講座：整形外科における術後感染予防抗菌薬

【整形外科手術症例数】

手 術 法			手術件数
脊 椎			304
四肢外傷	大腿骨近位部骨折		125
	骨折・脱臼		150
	腱損傷・その他		61
骨軟部腫瘍	良性		4
	悪性		0
上肢・手	人工関節（骨頭）置換術 （外傷を除く）	肩	1
		肘	0
		手指	0
	関節鏡視下手術	肩	1
		肘	0
		手	0
	関節形成術（骨切り他）		1
	神経、筋腱		16
その他		11	
下 肢	人工関節（骨頭）置換術 （外傷を除く）	股	81
		膝	118
	関節鏡視下手術	股	0
		膝	56
		足	2
	関節形成術（骨切り他）		16
	神経、筋腱		5
	その他		39
合 計			991

# 皮膚科

(平成27年4月～平成28年3月)

平成元年4月から皮膚科専門医である内田が一人で担当している。

## 【外来】

患者数 7,961人 新患者数 906人

外来手術 32件

皮膚生検 50件

強皮症 7例

SLE 3例

シェーグレン症候群 1例

皮膚筋炎 1例

有棘細胞癌 1例

基底細胞癌 3例

ボーエン病 1例

血管平滑筋腫 3例

アナフィラクトイド紫斑 6例

水疱性類天疱瘡 4例

## 【入院】

ウイルス感染症 18例

細菌感染症 8例

皮膚潰瘍 3例

中毒疹 3例

アトピー性皮膚炎 3例

熱傷 1例

水疱性類天疱瘡 2例

アナフィラクトイド紫斑 2例

紅皮症 2例

結節性紅斑 1例

中毒疹 1例

研修医3名、および山口大学医学部6年生学生1名が、それぞれ1カ月皮膚科で研修された。

# 泌尿器科

## 【概要・診療】

泌尿器科は、日本泌尿器科学会専門医教育施設としての認定を受け、医師2名（吉弘 悟；日本泌尿器科学会専門医・指導医、有川 誠(2015年3月まで)；同 専門医・指導医、山内雅文(2015年4月より)；同 専門医・指導医）で診療を行った。外来は、二診は再診予約のみの二診体制である。

## 【手術】

2015年も悪性腫瘍に対する手術が大多数を占め、手術件数は83件と例年より若干減少し、TUR-Pの減少が目立った。

今年度の特徴として、腎癌が12例（全摘6例、部分切除6例）と多く、膀胱全摘は3例と例年並みであった。低リスク前立腺癌のActive Surveillanceの影響で根治的前立腺全摘術は6例と例年より減少した。比較的稀な精索捻転症を1例経験し、発症より5時間で手術を行い、精巣を温存することができた。ESWL（体外衝撃波結石破砕）機器の撤去以来、尿路結石関連の手術が減少していたが、今年度は下部尿管結石に対して2例のTUL（経尿道的尿管結石破砕）が行われた。間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術を2例に行い、2016年からの手術施設基準を達成した。

<手術実績>（総数 83件）2015年1月～12月

主な手術	件数	主な手術	件数
TURP（経尿道的前立腺切除）	7	腎尿管全摘術	2
TURBT（経尿道的膀胱腫瘍切除）	3	精索捻転手術	1
腎悪性腫瘍手術	6	TUL（経尿道的尿管結石破砕）	2
腎部分切除術	7	精巣摘除術	1
根治的前立腺全摘術	6	尿道狭窄内視鏡手術	3
膀胱全摘術	3	膀胱水圧拡張術	2
膀胱部分切除術	1	その他	9

## 【検査】

前立腺生検は75件と例年と同等で、42例（56%）が前立腺癌であり、発見率は例年と同等であった。5例がActive Surveillanceとなった。

<検査> 2015年1月～12月

主な検査	件数	主な検査	件数
膀胱ファイバー	227	前立腺生検	75



【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2015.12.5	前立腺小細胞癌の 1例	吉弘 悟	山内雅文 岸 弓景	第99回 日本泌尿器科学 会山口地方会	山口大学医学 部附属病院

<論文>

論文・症例・原著等	著者	共同 著者等	雑誌名等	巻・号・頁	年度	発行所
Impact of variant histology on disease aggressiveness and outcome after nephroureterectomy in Japanese patients with upper tract urothelial carcinoma	Shigeru Sakano	Hideyasu Matsuyama, Yoriaki Kamiryo, Satoru Yoshihiro et al.	International Journal of Clinical Oncology	20巻 362～368頁	2015	Japan Society of Clinical Oncology
Molecular-targeted therapy may benefit Japanese renal-cell carcinoma patients who have Memorial Sloan Kettering Cancer Center intermediate-risk classification : A multi-institutional cooperative study	Tomoyuki Shimabukuro	Kazuhiro Nagao, Hideyasu Matsuyama, Satoru Yoshihiro et al.	西日本泌尿器科	77巻 12号 436～445頁	2015	西日本泌尿器科学会

# 産婦人科

## 【スタッフ】

副院長：前田博敬 九州大学卒（昭和 54 年）

産婦人科部長：川崎憲欣 熊本大学卒（昭和 56 年）

## 【診療の概要】

全国的な産婦人科医不足のため、数多くの病院で産婦人科医療、とくに周産期医療からの撤退が社会問題となっています。今年度も常勤医師 2 人体制、産婦人科医療の高度性や緊急性に安全に対応することに限界を感じています。一方、九大産婦人科教室からは非常勤医師を派遣いただき感謝しています。

診療実績は数字で表わせる手術統計および分娩統計を下記に示しています。

手術に関しては総数 68 例（良性疾患 63 例、悪性疾患 5 例）でした。

分娩に関しては分娩総数 99 例でやや減少、帝王切開率 26%、早産率 5%、周産期死亡率 0%でした。

「少子化」とは、新旧時代の間で 1 対 1 の人口の置き換えができないために生じる現象であり、都市部に比べ地方では出生数の減少に歯止めがきかない状態が持続、一産婦人科医として実に寂しく感じています。

## 【手術統計】（平成 27 年 4 月～28 年 3 月）

○良性疾患・・・手術総数 63 例

子宮全摘術(同時に行っ た付属器摘除術も含む)	腹式	10	子宮外妊娠の手術	0
	膣式	0	胞状奇胎の手術	1
性器脱の手術	膣式子宮全摘 術＋膣形成術	3	帝王切開術	26
			子宮切開術	0
	膣閉鎖術	0	頸管無力症の手術	0
子宮筋腫核出術		3	人工妊娠中絶術	0
子宮筋腫の動脈塞栓術		0	流産手術（妊娠 16 週・IUFD）	1
付属器切除術・卵巣腫瘍摘出術		5	子宮内膜ポリープ切除術	0
腹腔鏡補助下卵巣腫瘍摘出術		11	腹壁癒痕ヘルニア手術	0
卵巣出血止血術		0	後腹膜腫瘍摘出術	0
卵管結紮術		1	卵巣動脈塞栓術（動脈瘤破裂）	0
外陰部腫瘍切除術		1	腹壁腫瘍摘出術	1
バルトリン腺の手術		0	膣内異物除去術	0

○悪性疾患・・・手術総数 5 例

子宮頸癌(上皮内腫瘍を含む)	準広汎子宮全摘術	0
	単純子宮全摘術 (腹式・腔式)	0
	円錐切除術+部位別搔爬術	3
子宮体癌(子宮肉腫・子宮内膜増殖症を含む)	子宮全摘・付属器切除・骨盤リンパ節・傍大動脈リンパ節郭清	1
	子宮内膜全面搔爬術	0
悪性卵巣腫瘍(卵管癌・腹膜癌を含む)	子宮全摘・付属器切除・虫垂切除・大網切除・骨盤リンパ節郭清・傍大動脈リンパ節郭清	1
	化学療法後の上記手術	0
	試験開腹・生検	0

※化学療法・・・0名、放射線療法・・・0名

【分娩統計】(平成 27 年 4 月～28 年 3 月)

○分娩総数・・・99 例 (単胎 99、双胎 0 例)

経膈分娩	72 例	単胎頭位 自然分娩	32
		誘導分娩	29
		吸引分娩	11
		単胎骨盤位経膈分娩 (死産例)	0
		多胎経膈分娩	0
帝王切開分娩	26 例	適応	
		胎児機能不全	0
		CPD・回旋異常・遷延分娩	8
		既往帝切あるいは子宮切開	15
		常位胎盤早期剥離	0
		骨盤位	3
		前置胎盤	0
		糖尿病合併	0
		その他	0
妊娠 16 週・子宮内胎児死亡は D & C で娩出		1	

緊急搬送	母体搬送	1
	新生児搬送	0
	母体搬送受け入れ	0
妊娠帰結週数	28 週未満 (妊娠 16 週・子宮内胎児死亡)	1
	28-36 週	4
	37-41 週	94
	42 週以降	0

新生児体重	499g 以下 (妊娠 16 週・子宮内胎児死亡)	1
	500-999g	0
	1000-1499g	0
	1500-2499g	13
	2500-3999g	85
	4000g 以上	0

死産 (妊娠 16 週・子宮内胎児死亡) ……1

早期新生児死亡……0

形態異常 (口蓋裂) ……0

羊水穿刺……0

# 耳鼻咽喉科

## 【スタッフ】

平成27年度は、平 俊明部長と、西山 和郎医師の常勤医2名体制の診療でした。

## 【スケジュール】

月曜から金曜の毎日、午前中は外来診療を行いました。手術日は火曜、水曜、金曜の午後でした。手術日以外の午後は、外来での小手術など予約診療を行いました。

## 【診療実績】

手術名	件数	手術名	件数
扁桃摘出術・アデノイド切除術	61例	鼓膜形成術	4例
鼓膜チューブ留置術	37例	鼻中隔矯正術	4例
ラリンゴマイクロサージャリー	23例	鼻甲介切除術	4例
鼓室形成術	16例	甲状腺悪性腫瘍摘出術	3例
乳突洞削開術	12例	顎下腺摘出手術	3例
リンパ節摘出術	10例	甲状腺良性腫瘍摘出術	2例
気管切開術	8例	咽後膿瘍切開術	2例
内視鏡下副鼻腔手術	8例	耳瘻孔摘出術	2例
鼻茸摘出術	5例	その他	5例
—	—	合 計	209例

注) その他は1例のみの手術。外来手術は含まず。

## 【月別入院患者数】

	延数	入院	退院
4月	262	25	20
5月	402	26	22
6月	380	22	30
7月	216	23	23
8月	249	28	25
9月	202	22	23
10月	246	28	26
11月	267	27	24
12月	296	29	33
1月	247	28	31
2月	159	20	18
3月	278	36	32
合 計	3,204	314	307

【月別外来患者数】

	延数	新患
4月	605	103
5月	542	73
6月	624	95
7月	627	109
8月	611	103
9月	590	114
10月	621	95
11月	622	102
12月	646	94
1月	562	96
2月	535	86
3月	666	110
合計	7,251	1,180

今年度は手術数、入院患者数、外来患者数ともに増加しました。これからも地域医療の中核病院として、より質の高い医療を目指して努力してまいりたいと思います。

# 放射線診断科

## 【スタッフ】

箕田 俊文 日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本 I V R 学会専門医  
瀬戸 明香 日本医学放射線学会放射線診断専門医

## 【診療】

放射線診断科は単純 X 線写真、C T、M R I、R I の画像診断を主に行っています。

各種の検査装置から作成された画像データを、サーバーを経由して画像読影システムで読影、診断しています。読影、診断結果は報告書の形で電子カルテ上に掲載され、各診療科担当医に報告されます。また病診連携を介して、院外からの画像診断の紹介も受け付けています。現在の医療では画像診断は重要な位置にあり、正確で迅速な読影を心がけています。主に放射線診断専門医 2 名により読影され、大部分は検査当日のうちに読影レポートが確定されます。

また X 線を用いた血管内治療（インターベンショナルラジオロジー：I V R）も行っています。主に動脈内にカテーテルを挿入し、血管撮影装置の X 線透視下に目的の臓器、血管まで誘導し治療を行います。対象疾患は肝臓癌、頭頸部癌などの悪性腫瘍、喀血、消化管出血、子宮出血、外傷性出血、動脈血栓塞栓症など多岐にわたり、院内の各診療科からの依頼を受けて施行しています。

## 【H27 年 4 月～H28 年 3 月の画像診断レポート・I V R 件数】

C T（2 台：64 列、16 列）：13,780 件

M R I（1 台 1.5T）：4,928 件

R I：285 件

単純写真：4,928 件

I V R：38 件

# 放射線治療科

## 放射線治療：

日本医学放射線学会専門医による質の高い放射線治療を行っています。各種悪性腫瘍への根治治療、症状・疼痛緩和目的の対症療法を行っています。

平成 20 年 7 月より Varian 社製 CLINAC iX による診療を開始し、定位放射線治療をはじめとした、より精密・正確・高度な放射線治療が可能になりました。

また平成 21 年 4 月より、医師・診療放射線技師(注 1)・看護師とも女性スタッフによる診療を開始しました。放射線治療は、肌を露出して診察・セッティング・治療を行うことが多いため、女性患者さんにご好評をいただいています。

(注 1；診療放射線技師は、女性 1 名、男性 3 名でのローテーション勤務のため、毎日女性放射線技師が担当するものではありません。男性放射線技師が担当する日もあります。)

## 【放射線治療専任スタッフ】

役職名	氏名	卒業年次	所属学会・資格
医師	有賀美佐子	平成 6 年	放射線治療専門医 日本医学放射線学会会員 日本放射線腫瘍学会会員
看護師	廣田知子	平成 6 年	
診療放射線技師	森田浩正 森本健治 佐藤秀喜 菊池友紀	昭和 62 年 平成 1 年 平成 9 年 平成 21 年	

## 【平成 27 年放射線治療数】(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

部位別照射総数：184 例			
脳・脊髄	13	生殖器・婦人科系	0
頭頸部	29	泌尿器・男性性器	21
食道	4	造血器・リンパ系腫瘍	8
肺癌・気管・縦隔	41	皮膚・骨・軟部腫瘍	25
乳房・胸壁	27	その他(悪性腫瘍)	0
肝・胆・膵	4	良性疾患	0
胃・小腸・結腸・直腸	12	15 才以下の小児	0

\*うち 定位放射線治療 6

\*うち 他院よりの紹介 21



# 麻酔科

## 【スタッフ】

坂 康雄      平田 孝夫      佐藤 尚子      長畑 佐和子

## 【概要】

人の動きとしては坂医師が 27 年 3 月末で退職。27 年 4 月より佐藤医師が山口大学より当院に赴任した。平成 27 年 1 月から麻酔科マンパワー不足が決定的となった。手術症例をどうこなしていくか？慢性的に手術が午後 10 時前後まで行われ、手術室スタッフの疲労も極限までに達しているこの状況をどう改善するか？大きな問題に直面しました。

27 年 1 月 14 日、異例ではありますが午前中の全ての手術をストップして、麻酔科医師と手術室スタッフ全員が参加した手術部運営会議が開催され、これからの麻酔科・手術室運営について話し合いを行いました。麻酔科責任者としては「手術室で働く全ての人が、自信を持って、誇らしく働ける環境、そしてお互いを尊重し、助け合っていく精神」を大切にするように心がけました。全ての手術室スタッフをはじめ、外来、病棟スタッフまでが手術室の運営を支えていただきました。

結果、27 年の麻酔管理症例は 1871 例と昨年比-96 例となったが、25 年比+54 例を達成することができました。また、18 時 30 分以降に行われる手術症例を約 25%削減できました。人員面では山口大学麻酔科からの麻酔科応援、九州歯科大学からの歯科麻酔研修、加えて非常勤麻酔専門医の応援態勢を確立しました。手術室安全チェックリストも導入しました。

「患者一人ひとりに安全で優しい、安心できる麻酔の提供」を心がけるといふ当科の目標のもと個々の症例に対し、麻酔方法、周術期管理について検討しております。

## 【活動内容】麻酔科管理症例 2015 年 1 月～12 月

全身麻酔（吸入）	892 例
全身麻酔（完全静脈麻酔）	571 例
全身麻酔（吸入）＋硬膜外麻酔	320 例
全身麻酔（静脈）＋硬膜外麻酔	57 例
硬膜外＋脊椎麻酔	16 例
脊椎くも膜下麻酔	15 例
計	1,871 例

（前年 1,967 例）

教育・指導面ではスーパーローテーション研修の安元医師、辰元医師を 2 ヶ月、池田医師を 1 ヶ月研修指導しました。

## 救急センター（救急科）

2015年度の救急センターは4月に師長が交替したことから始まりました。

前任の重永師長も不眠不休で働いても何事もないように顔色一つ変えず、先頭を切っている姿がやりりしい人でしたが、後任の山口師長は前任の師長にも増して精力的な人物で、周りのどの人より明るく先頭を切って仕事をします。

救急車の搬送台数も徐々に増え、年間2500台に達するほどとなってきました。

救急外来からの入院患者数も増え、少しずつ救急センターとしての機能を充実させていきます。

2016年4月からは救急科所属の専任医がこれまでの2人から4人となりました。これにより、急患対応できる能力があがり、重傷者を複数人同時に対応できるようになりました。

昨年10月からは岡山に代わり奥村が救急科に専属医師として配置されました。8年を経験した外科医で、口数は少なくやや寡黙な男ですが、最大の特徴はその体力と、心の平静さをいかなる時も保てるその忍耐強い性格です。まだまだ医療人として伸びしろも十分で、将来が期待される少し年をとったホープです。尾中は、私が当科に勤務してからずっと脳外科医として、また多忙な時は救急医として私を陰ながら支えてきてくれた人物です。熱い魂の持ち主ですが、冷静な判断力と行動力は当初から頼りになるものでしたが、2016年4月から救急科への所属となり、脳外科を見ながら正式に救急も見てくれることとなりました。私としましては、大変心強く頼りにし、様々な改革にも取り組むことができるようになりました。江口は、JCHO九州病院から異動となり、優秀な外科医でありまた救急専門医を持った救急医でもあります。性格はマイペースですが、すでにDMAT隊員資格も有しており同じ外科医としても内視鏡手術にも精通した冷静で頼りになる人物です。私を含め、経験豊富な4人の構成は、他の救急センターに引けを取らない体制であると確信しております。

また2016年度からは所見の取り方などにも改善を加え、より高度な診療を目指し、週一回の症例検討会など様々な取り組みを行っています。

救急専従の医師が4人もいるのは下関では当院のみです。その特性を生かしつつ、下関に起きた救急事例に対し先頭に立って取り組むべく努力していく所存です。

これまで同様、重症な症例を含めお困りの際は、救急外来までご連絡ください。

救急科 部長 中原 千尋

## 救命センター

救命センター、いわゆる ICU はこれまで同様、不夜城として 24 時間 365 日休む間もなく活動を続けております。2015 年度の平均在室日数は 3.6 日、入室者数の平均は定員 8 人の中、7.03 人となっています。

救命センター便りとしましては、まず 2016 年 4 月から師長が石田から麻野に交替しました。口数は少なかつたものの、スタッフからの人望も厚く冷静沈着な石田が病院機能評価などで一仕事を終え新たに整形病棟に異動となり、主任から麻野が新師長となりました。麻野は石田とは全く違うタイプで、物おじしない性格で判断力・決断力に優れた人物で、静の石田とすれば動の麻野だと評価できます。4 月からはそのリーダーシップを発揮しスタッフを引っ張っており、益々救命センターは活性化していくものと思われます。

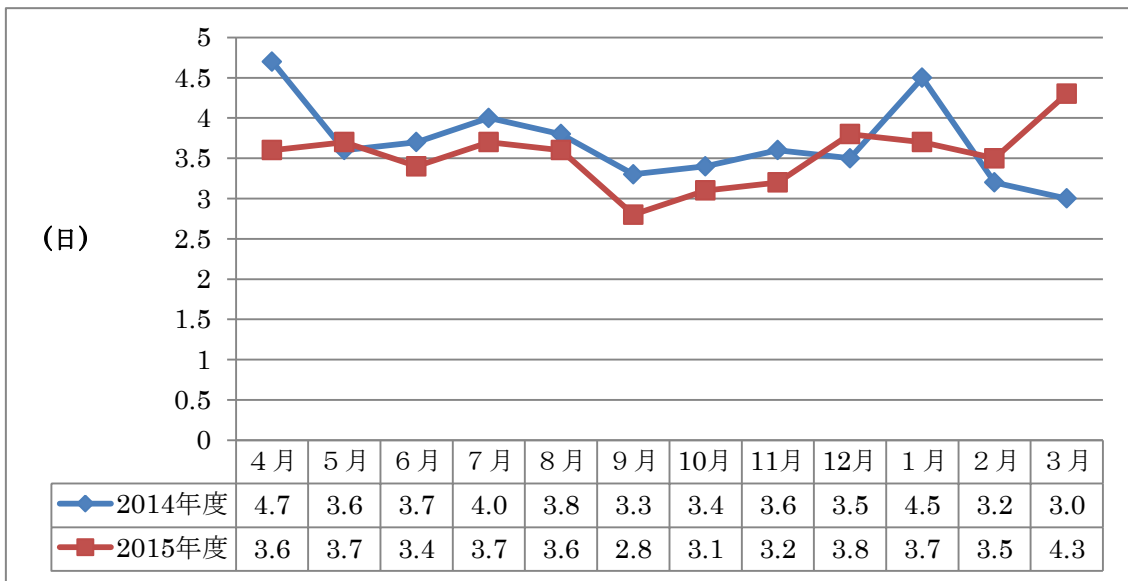
また、保村が半年の研修を終え、2016 年 7 月に集中ケア認定看護師の資格を有することができました。保村は、もともと様々な専門的知識に優れた男であり特に呼吸関連では我々医師の治療戦略を支えてくれる大きな存在です。DMAT 隊員としても 4 月に熊本地震の際は出動し、精力的な人物です。認定看護師として大きく ICU に貢献してくれることを楽しみにしています。

このように救命センターはその力を充実させ日々患者のため治療を行っております。何かありましたらいつでもご紹介いただけるようお待ちしております。

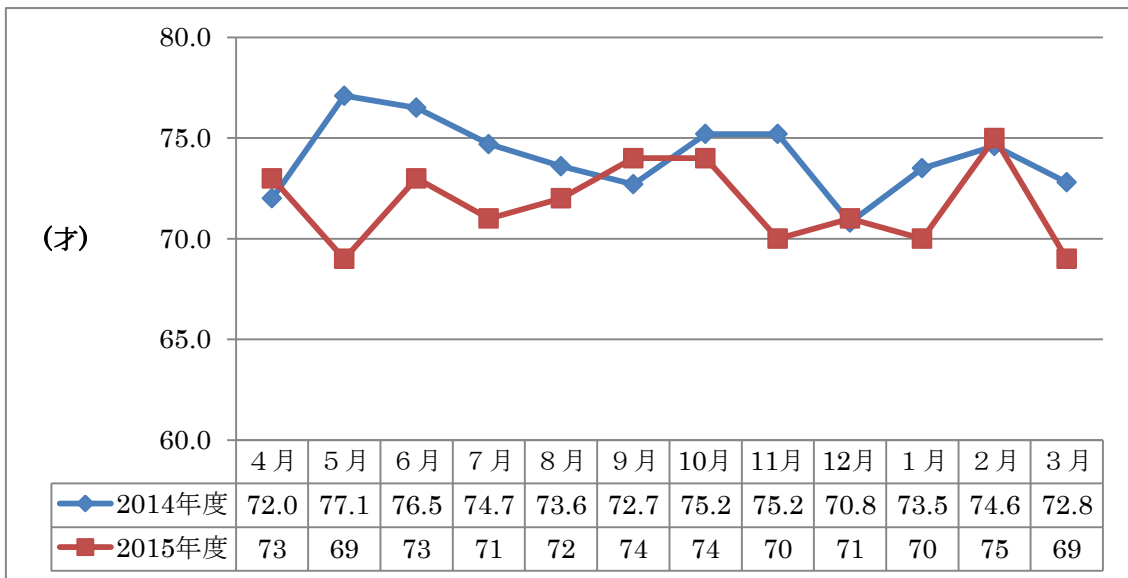
### 【平成 27 年度 救命センター統計】

	入院者数	延入院者数	入室者／日	延入室者／日	平均年齢
4 月	68	244	2.3	8.1	73
5 月	56	208	1.8	6.7	69
6 月	60	205	2.0	6.8	73
7 月	66	243	2.1	7.8	71
8 月	51	186	1.6	6.0	72
9 月	65	185	2.2	6.2	74
10 月	65	202	2.1	6.5	74
11 月	58	186	1.9	6.2	70
12 月	59	223	1.9	7.2	71
1 月	67	249	2.2	8.0	70
2 月	60	210	2.1	7.2	75
3 月	56	243	1.8	7.8	69
平均	60.9	215.3	—	—	—

【2015年度 平均在室日数】



【2015年度 救命センター入室者平均年齢】



# 病理診断科

## 【概要】

適切な治療の基礎に適切な診断があり、適切な診断の要となるのが病理診断である。日々高度化する臨床サイドの要求に応えるべく、臨床医との緊密な意思疎通を図り、新たな疾患分類に即応し、免疫染色等の付加的手法を積極的に導入しつつ、正確で迅速な病理診断に努めている。

当院は、日本病理学会登録施設および日本細胞学会認定施設として認証取得している。

免疫染色においては、全自動免疫染色装置が導入されて、染色の安定性・再現性が図られ、特に乳腺では、HER2、ER、PgR、MIB1(Ki-67)を、胃癌摘出例ではHER2免疫検査を、全例においてルーティン化して実施し、他にも、リンパ腫、中皮腫、転移癌の原発巣推定が行えるよう、多くの抗体を保有し、診断に役立てている。肺癌EGFR、ALK、大腸癌EGFR、K-RAS検査は外注している。

迅速組織診、迅速細胞診は、日中での時間、数量を制限することなく実施しており、迅速標本作製においては川本法を導入することで、脂肪を含む検体の薄切が比較的容易に実施されるようになり、診断の質が向上した。またギョータックを用いたリアルサイズでの病変マッピングがルーティンになされており、臨床側から評価されている。加えて、診断のスキルアップとしては、College of American pathologistsの病理診断生涯教育プログラムに参加して診断レベルの向上に努め、細胞診は、日臨技、日本臨床細胞学会、山口臨技等の精度管理調査に参加、また、週1回実施の呼吸器カンファレンス、月1回の乳腺カンファレンスに参加し、臨床との整合性を図り、他にも多くの研修会や学会に参加するよう心掛けている。

部門システムとしては、Dr.ヘルパー（西日本旅客鉄道株式会社）を導入し、電子カルテ（富士通）との連携を図っている。

リスクマネジメント対策として、部門システムにある機能を活用し、臨床側が報告書を閲覧したかどうかを適宜チェックし、閲覧されていない報告は一覧表にして各臨床医に配布し、確認するよう促している。

ホルマリン対策としては、換気を見直し改良したことで、切り出し室のホルマリン濃度が軽減しているが、低レベルを維持するべく常に改善を図っている。

病理医 2名（1名は非常勤嘱託医）

臨床検査技師 3名（1名は病理専属の細胞検査士、1名は午前中外来検査兼務、1名は生化学検査兼務）

常勤病理医：安田大成\*1

非常勤嘱託病理医：谷村晃\*2

技師：川元博之\*3、佐々木真理\*4、山本美奈\*5

【所属学会および資格】

*1	日本病理学会認定病理専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医
*2	日本病理学会認定病理専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診指導医、 日本病院病理学会、日本臨床病理学会
*3	細胞検査士、認定病理検査技師、山口県糖尿病療養指導士、 日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会、日本乳癌学会、 特化物・四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者
*4	細胞検査士、日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会、 認定一般検査技師、認定病理検査技師、山口県糖尿病療養指導士 特化物・四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者
*5	日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会 特化物・四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者

【病理業務】（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）

組織診（生検、手術）	2,510 例
術中迅速診断	138 例
細胞診	2,809 例
病理解剖	5 例

## 歯科・歯科口腔外科

### 【スタッフ】

歯科部長：入学陽一

歯科医長：長畑佐和子（歯科麻酔専門医）

非常勤歯科医師：笹栗正明（口腔外科専門医）、宮本郁也（口腔外科指導医・専門医）、  
高橋理（口腔外科専修医）、金氏毅（口腔外科専修医）  
河野通直（口腔外科専修医）、坂口修（口腔外科認定医）

臨床研修歯科医師：林花凜、富永孝典

歯科衛生士：奈須本理恵、浜崎朋美

歯科技工士：高林潤吏、須藤公啓

歯科助手：竹本美保（H28年2月から）

受付：岡田志津代

### 【概要】

常勤歯科医師2名、非常勤歯科医師（九州歯科大学 口腔外科より応援）6名（毎週月・水・金曜日）、歯科衛生士2名、歯科技工士2名、受付1名の計12名で、一般歯科と歯科口腔外科および周術期口腔ケアの診療を行っている。（H27年8月よりH28年3月まで4ヶ月交代で臨床研修歯科医師が在籍）

下関市民病院として、また地域の2次医療機関として、その役割を果たせるように、他科との連携、充実した検査内容、入院治療など、総合病院ならではの特色を生かし、患者全体の診療を行っている。

### 【診療内容】

外来患者数 約31.4人/日、紹介36人/月

<内訳> 一般歯科 15人/日

歯科口腔外科 8人/日

周術期口腔ケア 7.64人/日

外来手術 185例/年

入院患者 62件/年

全麻症例 30例/年

周術期口腔管理 820例/年

下顎埋伏歯智歯抜歯が138例と最も多く、外来での抜歯が増加していた。

前年より紹介患者が24→36人と増加。入院患者、全麻手術は昨年と同様。

高齢者の顎骨骨髓炎、腐骨除去の症例が10例とまだ多く見られた。

歯科技工物は昨年より減少している。（702→580件）

周術期口腔ケアは外科、整形外科、心臓血管外科、耳鼻科などが手術前の依頼が多く、820件/年と昨年とほぼ同様であった。

H27年8月から臨床研修歯科医師が2名着任し、歯科が活性化された。

【活動報告】

北九州・下関地区および山口県病院歯科協議会に出席。

下関看護学校講師。

九州歯科大学歯科医師臨床研修管理委員会に出席。

院内 医長会・NST 委員会（入学） MRM 委員会（長畑）

【診療実績】

<入院手術症例>

埋伏歯抜歯	22 例	歯肉腫瘍・舌腫瘍手術	4 例
有病者の抜歯	11 例	下顎骨・口蓋隆起形成術	1 例
炎症・腐骨除去	10 例	含歯性嚢胞摘出術	1 例
歯根嚢胞摘出術	7 例	歯根端切除術	1 例
外傷（骨折等）	5 例	合 計	62 例

<外来手術症例>

下顎埋伏智歯抜歯	119 例	腐骨除去手術	3 例
上顎埋伏智歯抜歯	31 例	歯根端切除術	3 例
歯根嚢胞摘出術	11 例	がま腫開窓術	3 例
良性腫瘍摘出術	4 例	パンピングマニピュレーション	1 例
下顎骨隆起形成術	4 例	歯槽骨骨折整復術	1 例
粘液嚢胞摘出術	4 例	上顎洞陥入歯除去術	1 例
—	—	合 計	185 例

<周術期口腔機能管理患者数>（H27.4～H28.3）

	H27										H28			合計 (人)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
外科	14	19	19	24	24	18	32	18	13	20	16	20	237	
呼吸器外科	8	7	7	9	9	10	5	4	4	9	3	7	82	
整形外科	25	22	30	28	16	14	27	19	20	21	25	26	273	
心臓血管外科	12	8	6	8	6	10	7	6	10	5	8	5	91	
耳鼻咽喉科	10	12	4	5	4	4	14	9	5	8	1	9	85	
泌尿器科	4	2	2	3	1	0	0	1	3	2	0	3	21	
歯科	1	1	5	2	4	1	2	2	0	0	2	1	21	
脳神経外科	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4	
消化器内科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	
血液内科	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	4	
合計(人)	76	72	73	81	64	59	88	59	55	65	55	73	820	



【歯科技工物内訳】(H27.4～H28.3)

クラウン	57	義歯新製	98
インレー	52	義歯修理	81
前装冠	56	スプリント	13
メタルコア	121	ブリッジ	34
仮歯	68	合計	580件

【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2015.6.27	下関市立市民病院における周術期口腔機能管理の現状と医師、看護師の意識調査	奈須本理恵	浜崎朋美 長畑佐和子 入学陽一	日本口腔ケア学会総会・学術大会	海峡メッセ下関

# 看護部

## 【看護部の概要】

平成 27 年度は、病院機能評価受審に向けて 1 年間準備に取り組み、3 月に無事受審を終えることが出来た。

看護部の目標は「チーム医療の一員として質の高い看護を提供しよう」とし、① 5 S の徹底（整理・整頓・清掃・清潔・躰）② チームカンファレンスの徹底③ マニュアル・記録の見直し整備について取り組んだ。結果、各部署が整理整頓され、業務の効率化にも繋がった。また、他職種でのカンファレンスは定期的に行えるようになった。1 年間病院機能評価受審に向けて準備したことで良い効果を出すことができた。今後、これを持続させ、更に課題として出たことは、継続的に取り組んでいくことが必要である。

重点事業としては、昨年と同様 4 つの事① 重症度、医療・看護必要度（教育、記録、監査）② 退院調整（退院支援カンファレンスの充実、高齢者総合評価の推進）③ 看護体制（チームリーダー業務の改善）④ P N S（モデル病棟で施行する）に取り組んだが十分な効果を出すところまで至らなかった。

看護教育面では、学会での看護研究発表を 12 題に増やすことができた。このことは、看護研究への意欲にも繋がり、大きな成果を得ることができた。今後、更に多方面で発表出来るよう引き続き取り組んでいきたい。

また、「市民の保健室」は、第 3 回を 9 月に「市民公開講座」と同時に開催し「市民フェスタ」として実施した。約 270 名の方の参加を頂き、好評を得ることができた。今後も市民病院として地域の健康増進に寄与する活動を続けていきたいと考える。

11 月には新棟が完成し、透析センターと化学療法センターを移設した。ベッド数も増え、療養環境も整備された。快適な環境で安心して治療、ケアが受けられるよう配慮している。来年度は、緩和ケア病棟を開棟予定であり、その為の準備も進めてきた。

以上の成果・課題を踏まえた上で、引き続き働きやすい環境作りをめざし、看護師ひとりひとりがやりがいを持ち、患者さんへ「安心・安全の看護」を提供出来るよう努力したい。

## 【1. 看護部の理念と方針】

病院の基本理念に従い、心のこもった安全で質の高い看護を提供します。

- 1、患者様の立場に立ち、信頼される看護を提供いたします
- 1、安全で心の通った看護に努めます
- 1、常に自己研鑽し、組織の一員として経営に貢献いたします
- 1、職務に責任を持ち、協調の姿勢で取り組みます

## 【2. 看護部の目標】

チーム医療の一員として質の高い看護を提供しよう

- ・ 5 Sの徹底（整理・整頓・清掃・清潔・躰）
- ・ チームカンファレンスの徹底
- ・ マニュアル・記録の見直し整備

## 【3. 院内教育計画プラネット】

### 教育理念

高い倫理観と誇りのもと、患者中心の看護を展開でき、なおかつ他者（患者、職場の同僚）を思いやる「ハート」を兼ね添え、「ひとりひとりがやり甲斐を感じ輝く」看護師を育成する

### 教育目的

- ①患者中心の看護を展開するため、倫理、エビデンスに基づいた自律した専門職業人としての成長を図る
- ②患者のみならず、組織の仲間に対する「思いやり」を兼ね備えた「人」としての成長を図る
- ③ひとりひとりが「やり甲斐」を持続するための自己研鑽を図る

### 当院教育システムの特徴

- ①クリニカル・ラダー制導入
  - ・ 教育システムを系統化
  - ・ 組織に於ける「自分の役割」を明確化
  - ・ 興味を持続化→「やり甲斐」を感じられる
- ②ポートフォリオ作成＝「自分の履歴書」
  - ・ 教育システム、役割、目標が明確化され身近になる
  - ・ 「いつでも」「過去・現在・未来の自分」と出会える
- ③年間計画
- ④ポイント制導入
  - ・ 「自分の努力」が可視化される
  - ・ 頑張った分、他者からも評価を受けることができる

### □院内教育

教育委員会が1年間の教育計画を作成・企画・運営・評価する

- ・ 経年別研修（必須）
  - ラダー1－1は毎月研修
- ・ 実践能力開発研修
- ・ その他、研修会など

### □院外研修

認定看護師研修 ファーストレベル看護管理者研修

セカンドレベル看護管理者研修

日本看護協会主催研修

各学会

#### 【4. 看護部が開催する会議】

名 称	目 的	構 成	開 催 日
師長会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護部の業務・教育等運営について協議、連絡調整及び伝達</li> <li>看護の質の向上を図る</li> </ul>	看護部長 副看護部長 師 長	第2・4月曜日 15:30～17:00
主任会	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護の知識を広く求めて、看護職員の指導・模範となるよう情報交換をして看護実践に取り組む</li> <li>C Sと看護サービス評価を行う</li> </ul>	看護部長 副看護部長 主 任	第4水曜日 16:15～17:00
感染管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>院内の清潔を保持し、感染防止の徹底を図る</li> </ul>	院内感染管理 副委員長 各部署1名	第1木曜日 16:00～17:00
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>下関市立市民病院に勤務する看護職員の教育を行い、専門職としての知識の向上を図る</li> <li>教育委員会、委員としてのあり方を再構築する</li> <li>教育ニーズに沿って、教育の計画・運営を行う</li> </ul>	師 長 主 任 各部署1名	第2・4金曜日 16:00～17:00
看護記録検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>下関市立市民病院の看護記録等について検討・修正をし、看護の質の向上を図る</li> </ul>	同上	第1・3金曜日 16:00～17:00
業務改善委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>下関市立市民病院の看護業務に関して調査研究をし、業務の改善・資質の向上を図る</li> <li>変化する医療に対応して、基準・手順の管理をする</li> </ul>	同上	第2・4木曜日 16:00～17:00
看護部MRM委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護部の理念である、安全で質の高い看護を保証するために、医療事故防止に努める</li> <li>再発防止のための事例検討・学習と防止策の策定・実践・評価を行う</li> </ul>	副看護部長 医療安全対室 副室長 各部署リスク マネージャー	第2水曜日 16:00～17:00
看護の日企画委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護週間の行事を企画・実施する</li> <li>看護のPRをする「看護の心をみんなの心に」</li> </ul>	師 長 各部署1名	第2・4火曜日 前年3月より 10月まで開催
TQM委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護の質の向上を図る</li> </ul>	師 長 各部署1名	第3月曜日 16:00～17:00

### 【5. コース別院外研修】

受講研修会名	受講者数	主 催
認定看護師教育課程 (急性期看護)	1名	西南女学院大学
(感染管理)	1名	山口県立大学
平成27年度医療安全管理者養成研修	1名	山口県看護協会
平成27年度 精神看護研修	1名	国立病院機構肥前精神医療センター
15重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修	16名	山口県看護協会
第26回中国ストーリーナビリテーション 講習会	1名	中国ストーリーナビリテーション 講習会
看護管理者のための「重症度、医療・看護 必要度」のあり方	2名	S-QUE研究会 日本臨床看護マネジメント学会
認定看護管理者ファーストレベル研修	1名 2名	西南女学院大学 山口県看護協会
認定看護管理者セカンドレベル研修	3名 1名	西南女学院大学 山口県看護協会
平成27年度新人看護職員研修事業 研修責任者研修 教育担当者研修 実地指導者研修	3名	山口県看護協会
平成27年度山口県実習指導者養成講習会	1名	山口県看護協会
日本災害看護学会 第17回年次大会	1名	日本災害看護学会
平成27年度院内感染対策講演会	1名	厚生労働省医政局
第4回日本感染管理ネットワーク学術 集会	1名	日本感染管理ネットワーク学会
第60回日本透析医学会学術集会・総会	1名	日本透析医学会
第20回日本緩和医療学会学術集会	2名	日本緩和医療学会
第19回日本看護管理学会学術集会	1名	日本看護管理学会
第12回日本口腔ケア学会総会学術集会	16名	日本口腔ケア学会
第17回日本褥瘡学会学術集会	1名	日本褥瘡学会
第20回日本糖尿病教育・看護学会学術 集会	1名	日本糖尿病教育・看護学会
第16回日本クリニカルパス学会学術集会	2名	日本クリニカルパス学会
第31回日本環境感染学会総会・学術集会	1名	日本環境感染学会
第30回日本がん看護学会学術集会	2名	日本がん看護学会
第14回山口看護学会学術集会	1名	山口県立大学
第21回日本摂食嚥下リハビリテーション 学会学術大会	1名	日本摂食嚥下リハビリテーション学 会
第46回日本看護学会急性期看護学術集会	2名	日本看護協会

第 43 回日本救急医学会総会・学術集会	4 名	日本救急医学会
第 53 回日本癌治療学会学術集会	2 名	日本癌治療学会
第 14 回日本フットケア学会年次学術集会	1 名	日本フットケア学会
第 43 回日本集中治療医学会学術集会	1 名	日本集中治療医学会
第 16 回日本褥瘡学会中国四国地方学術集会	2 名	日本褥瘡学会
第 94 回放射線看護課程	1 名	国立研究開発法人 放射線医学総合研究所

## 【6. 研修生・職場体験の受け入れ・院内外活動について】(平成 27 年度)

### 実習受け入れ状況

- ・ウエストジャパン看護専門学校
- ・下関看護リハビリテーション学校
- ・下関看護専門学校
- ・西南女学院大学
- ・早鞆高等学校

### 職場体験

- ・山口県立長府高等学校 3 名
- ・山口県立下関中等教育学校 3 名

### 市民の保健室を開催(平成 27 年より市民公開講座と同時に開催)

- 健康相談・血圧・体脂肪測定・骨密度測定・・・下関市立市民病院  
血管年齢・お薬相談・自己血糖測定体験・医療器機体験  
ニコカフェ・体力測定と運動指導・注意力チェック・知って得する乳房のこと  
むせこみの仕組みと予防法・放射線部探検ツアー  
コンサート・バザー・ヨーヨー釣り  
平成 27 年 9 月 26 日(土) 13:00~16:00 参加者 約 270 名

### 院外活動“市民健康のつどい”に参加

- 健康相談・血圧・体脂肪測定・栄養相談・・・彦島保健センター  
平成 27 年 10 月 24 日(土) 10:00~12:00 参加者 29 名

### ●行事救護班

- しものせき海峡祭り 1 名
- ねんりんピックおいでませ!山口 2015 2 名
- 豊かなこころの園児を育てる親の学習会 2 名
- 夏休み子供水道教室 1 名
- 下関市小学校体育大会 1 名
- 海響マラソン 2 名
- 第 10 回市民スポーツフェスタ 2 名
- 下関成人の日記念事業 1 名
- 下関市幼稚園・小学校・中学校 P T A 研修会 1 名

出前講座・・・ 1件 職業講話・・・ 1件

- ・ 下関市立安岡小学校
  - ・・・ “親と子のかかわり” 思春期保健相談士（看護師） 1名 参加者 46名
- ・ 下関市薬剤師会「薬剤師に必要な褥瘡対策の知識」・・・皮膚、排泄ケア認定看護師 1名
- ・ 下関がんチーム医療を考える会「エルプラット複数回投与によりアレルギーを発症した症例」・・・がん化学療法認定看護師 1名
- ・ 山口県看護協会「訪問看護研修ステップⅠ、排泄ケア」・・・皮膚、排泄ケア認定看護師 1名
- ・ 久留米大学認定看護師教育センター「薬剤の投与管理とリスクマネジメント」
  - ・・・がん化学療法認定看護師 1名
- ・ 山口県看護協会下関支部「冬に流行る感染症予防・対策」・・・感染管理認定看護師 1名
- ・ 特別養護老人ホーム寿海荘「死後の処置・逝去時の対応について」
  - ・・・緩和ケア認定看護師 1名
- ・ キッセイ薬品工業株式会社「排尿トラブルに関する市民公開講座」
  - ・・・皮膚、排泄ケア認定看護師 1名
- ・ 山の田中学校 1年生・・・職業講話 看護師 1名
- ・ ウエストジャパン看護専門学校講師・・・看護師 7名
- ・ 下関看護リハビリテーション学校講師・・・看護師 1名
- ・ 下関看護専門学校講師・・・看護師 4名

【7. 学会発表、院外研究会などでの活動報告】

開催年月日	演 題 名	演 者	学 会 名
H27.6.6 ～7	人工膝関節全置換術後の後期高齢者の回復過程に於ける患者心理	救急センター師長 山口香世	第 15 回日本運動器看護学会
H27.6.26 ～28	当院透析室の足回診	透析センター 村田由紀、市川智春 松本和美、松田愛子 町野 彩	第 60 回日本透析医学会学術集会・総会
H27.6.27 ～28	看護師の意識の向上の取り組みにOAG表を使用した一考察	摂食・嚥下障害認定看護師 高橋理恵	第 12 回日本口腔ケア学会総会
H27.9.29	家族看護に関する看護師の意識変容	救命センター 福田正子、酒井節子 吉中美和、小濱江里子 石田清子	第 46 回日本看護学会、急性期看護
H27.10.3	ICU看護師の口腔粘膜ケアに対する意識調査	救命センター 村上 歩	第 14 回山口看護学会学術集会

開催年月日	演 題 名	演 者	学 会 名
H27.10.3	新生児蘇生法における病棟スタッフの理解度と意識に関する調査	産科病棟 渡邊明子	第 14 回山口看護学会学術集会
〃	在院日数短縮につながったチーム医療への取り組み	4 階東病棟 原田紘志 小戸美智子	〃
H27.10.21 ～23	救急外来の時間外における電話対応の実態	救急センター 松島仁美、米元浩美 近藤友恵、重永洋子	第 43 回日本救急医学会・学術集会
H27.11.26	透析センター足回診の現状と問題点	透析センター 村田由紀、松本和美 海野智枝 我如古めぐみ 安井智恵、木村裕子 市川智春、松田愛子	第 29 回山口県西部透析症例研究会
H27.12.11	自己血輸血に関する院内での取り組み	救急センター 田村将子	平成 27 年度山口県輸血療法委員会
H28.2.19 ～20	当院の 4 種ウイルス性疾患の抗体獲得状況およびワクチン接種後の結果に関する調査報告	感染管理認定看護師 浅野郁代	第 31 回日本環境感染学会総会・学術集会
H28.3.5	整形外科手術時の医療者への放射線被曝に関する実態調査	手術室 福間 亮 池井友佳子 吉富京子、中村陽子 轟木友里	第 15 回山口県看護研究学会

#### 【 8. 院内看護研究発表会】

日 時：平成 26 年 6 月 17 日（水） 17 時 30 分～19 時

平成 27 年 11 月 18 日（水） 17 時 30 分～19 時

場 所：講堂

方 式：学会方式

講評者：竹末加奈

演 題	発表病棟	座 長
介達牽引中の体位のちがいによる踵部・仙骨部体圧の比較	5 階西病棟	高橋主任
救急外来の時間外における電話対応の実態	救急センター	永井主任



演 題	発表病棟	座 長
薬剤師の病棟常駐による効果 ～医師、看護師、薬剤師へのインタビューの質的解析～	6階東病棟	原田主任
BPSを使用した看護師の客観的評価が患者の鎮痛・ 鎮静管理にもたらす変化	救命センター	野村主任

### 【9. 病棟別疾患の特殊性】

病 棟 名	疾 患 名
6階東病棟	消化器内科疾患 血液内科疾患 内科一般
6階西病棟	休床
5階東病棟	消化器外科疾患 胸部外科疾患
5階西病棟	整形外科疾患 消化器外科疾患
4階東病棟	脳神経外科疾患 泌尿器科疾患 耳鼻咽喉科疾患
4階西病棟	整形外科疾患
3階東病棟	循環器疾患 心臓血管外科疾患 腎臓内科疾患
3階西病棟	産科（分娩） 婦人科疾患、15才までの子供の疾患
1階東病棟	二類感染症・SARS など新感染症

※ 1階東病棟閉鎖中、稼動時は出向メンバーが看護にあたる

### 【10. 各部署紹介】

#### ○ 6階東病棟

<スタッフ>

師長 1名                      主任看護師 2名                      看護師 20名                      准看護師 3名  
 看護助手 4名                      クラーク 1名

<概要>

当病棟は、病床数 49 床（独立換気設備を備えた有料個室 3 床・特定病床 2 床・HCU4 床を含む）の血液内科・消化器内科・膠原病内科・糖尿病内科・腎臓内科を主体とした混合内科病棟です。

「よい環境づくり・よい職場づくりをしよう」という目標のもと、スタッフ一丸となって病棟内の整理整頓を行い、接遇の向上に努めました。病院機能評価受審を契機に開始した各科での 1 回/週の多職種カンファレンスも定着し、職種の垣根を越えて様々な視点から意見を述べあえる場となっています。複数科で様々な疾患とかわかりませんが、血液内科・腎臓内科・消化器内科・糖尿病内科の医師の協力による勉強会も開催し、スタッフの知識を深めていきました。これらは、今後も継続していきたいと考えています。

血液内科においては化学療法の種類や件数が増し、日々の輸血件数も多く、繁忙な中でも安全な実施を心がけました。また、7月～3月は常時クリーンルームが稼動しており、感染予防には十分留意し看護に取り組みました。

今年度は新たに糖尿病内科の医師が着任され、新しい薬の使用も始まり、これまでに行っていなかった副腎静脈のサンプリングも 2 件行いました。

検査・治療の多様化や日々進歩する医療に追従すべく、今後も知識と技術の習得に励んでいきます。

<平成 27 年度実績>

クリーンルームの稼動	12 件	胃・食道 ESD	37 件
化学療法	329 件	PEG 造設	8 件
輸血	560 件	気管支動脈塞栓術	1 件
透析シャント PTA	19 件	硝子体・白内障手術	20 件
内シャント造設	4 件	下肢アンギオ・CAG	5 件
腎生検	7 件	下肢 PTA	2 件
G-CAP	23 件	副腎静脈サンプリング	2 件
血漿交換	8 件	人工呼吸器管理	3 件
上部・下部消化管ステント	4 件		

## ○5 階東病棟

<概要>

52 床の病床数を持つ外科病棟です。

治療の中心は、がん治療。主に消化器、呼吸器、乳腺の患者さんの医療を担う病棟です。本年度は特に肝臓や膵臓疾患の患者さんに多く関わっています。手術は患者さんの QOL を考えた『低侵襲手術』が普及しています。内視鏡の手術で術創は小さくなり、傷もドレッシング管理を行っています。入院化学療法、終末期ケアも行っています。術後疼痛管理やがん性疼痛のコントロール目的として、院内で一番医療用麻薬を使用しています。

看護の内容も大きく変わってきています。看護は手術前後のケア、化学療法ケア、がん性疼痛ケア、終末期ケア、家族ケアと多岐にわたり、専門知識を要求されています。化学療法看護認定看護師、緩和ケア看護認定看護師を中心にケアの質の向上を目指しています。

また、疾患の治療上、皮膚・排泄ケア認定看護師、摂食・嚥下障害認定看護師とも連携を取りながら看護を行っています。

病棟の名物は、『朝のタッチコール』を行い、安全な業務、チームワーク、笑顔の意識づけを行っています。

<平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日>

入院数	989 人
死亡数	31 人
手術数	315 人
化学療法（のべ人数）	561 人

<主な研修 学会参加>

1. 日本がん看護学会
2. 日本緩和医療学会
3. 山口県医療安全研修会

4. 第 53 回日本がん治療学会集会
5. 山口県がんリハビリテーション研修会
6. 山口県がんリハビリテーション研修会 フォローアップ研修
7. 日本クリニカルパス学会
8. 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
9. 山口県緩和ケア研究会
10. 下関医療圏緩和ケア看護師ネットワーク 世話人会出席

## ○5 階西病棟

病棟主任医：石光 寿幸

病棟師長：小戸 美智子

### <概要>

当病棟は、病床数 53 床（独立換気設備のある個室・有料個室・特定病床 3 床を含む）を有す、外科・呼吸器外科・整形外科を中心とした混合病棟です。

今年度は、3 月の病院機能評価受審合格を目標に、退院支援を見据えた他職種との連携に力を入れました。月曜日の呼吸器外科・退院支援スタッフカンファレンス、火曜日のリハビリカンファレンス、水曜日の整形外科・外科の退院支援スタッフカンファレンス・褥瘡ハイリスクカンファレンス、木曜日の栄養カンファレンスなど定着してきています。

また、高齢化に伴い、転倒による骨折患者さんも多いため、寝たきりにならないように大腿骨頸部骨折地域連携パスの運用等も積極的に行い、担当の MSW とも連携をとり、在院日数の短縮を目指しました。また、安心・安全な看護の提供という点においては、離床センサー付きベッドの導入で、インシデントの発生件数の減少につながりました。

病棟全体の看護のレベルアップに取り組み、患者さんから信頼される看護の提供に役立てばよいと思います。

### <平成 27 年 4 月－平成 28 年 3 月 手術件数>

整形外科手術件数	296 件
外科手術件数（救急科含む）	81 件
呼吸器外科手術件数	18 件
眼科手術件数	31 件
その他（歯科、心臓血管外科）	3 件

### <病棟の取り組み>

1. 院内看護研究発表会（6 月 17 日）  
「介達牽引中の体位の違いによる踵部・仙骨部の体圧の比較」  
小濱ゆかり・田村理恵・長谷川査予子・田口桂子
2. クリニカルパス学会参加（11 月 14 日～15 日 福井県芦原温泉）  
小戸美智子
3. 平成 27 年度実習指導者と看護教員の相互研修会（12 月 17 日 山口県看護協会）  
小濱ゆかり
4. 院内 TQM 発表会 「快適 NO.1 病棟を目指して 見回り隊を解散したい」

岩下み保・幸 裕美

5. 認定管理者研修 セカンドレベル受講 (5月～10月 山口県看護協会)

小戸美智子

#### ○4階東病棟

病棟主任医：中村 隆治

病棟師長：平田 理枝

##### <概要>

当病棟は、脳神経外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科を主とした混合病棟です。

51床のうち約半数は脳神経外科の患者で、残りの半数を泌尿器科と耳鼻咽喉科の患者で占める構成になっています。看護スタッフは看護師26名・准看護師4名・看護補助者5名からなり、全員で協力しながら患者さんの早期回復に向けて努力をしています。今年度は病棟目標に他職種間での情報共有を挙げ、各担当科との1回/週のカンファレンスを計画しました。耳鼻咽喉科に関しては1回/2週のカンファレンスにとどまっていますが、脳神経外科と泌尿器科とは1回/週のカンファレンスを実施しています。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・PT・OT・ST・MSWが集まり、患者さんにとってより良い療養生活がおくれるよう意見を出し合っています。また、看護部としては早期離床を目標に掲げました。PT・OT・STとのカンファレンスをもとに、土日でも可能な限りリハビリに取り組みました。今後も他職種と協力しあい患者さんの療養生活を多方面から支えていきたいと考えています。

##### <平成27年実績>

化学療法	219件	(泌尿器科・耳鼻咽喉科・脳神経外科)
手術	脳神経外科	65件
	泌尿器科	89件
	耳鼻咽喉科	121件

#### ○4階西病棟

##### <概要>

病床数 53床 整形外科病棟

整形外科症例のうち、脊椎系・関節外科系を主とした病棟です。1日3～5例の手術があり、術前術後を通しての周術期看護を行っています。術後は理学療法士などの他職種と協同し、早期離床を目指して積極的な援助・指導に努めています。また、清潔ケアなどにも力を入れています。地域連携パスの運用によって、地域の回復期病院との連携も行っています。

当病棟は2交代制の勤務体制をとっており、スタッフに好評です。これからもスタッフのワークライフバランスに考慮していけるよう心がけていきます。

##### <平成27年度 主な手術件数>

脊椎系：298例 関節外科系：260例 骨接合術：73例 等

### ○3階東病棟

#### <概要>

当病棟は、52床（有料個室2床・特定病床2床・HCU4床を含む）、循環器・心臓血管外科・腎臓内科を主とした病棟です。また、複数科（内科・整形・外科）も受け入れ、24時間モニター監視を行い、急変の予見・回避に努め迅速な対応をしております。

H27年度の病棟目標は“チーム医療を根づかせよう”です。多職種で入院から退院後まで、患者様の支援を重点に考えて、ケア・カンファレンス・回診ができました。また現代では、フットケアが必須となっています。昨年よりもフットケアを充実し、異常の早期発見につとめています。今後も患者様の個別性を考えた、医療・看護を提供していきます。

#### <平成27年度 症例件数>

開心術：33例	F・F・F・P：25例	ストリッピング術：80例
CAG：345例	PCI：152例	PMI：18例（T-PM42例）
EVT：132例	下肢PTA：87例	シャントPTA：30例
PET：5例		

人工呼吸器管理：4例	ASV管理：50例	VAC管理：2例
------------	-----------	----------

### ○3階西病棟

#### <概要>

3階西病棟は「女性と子どもの病棟」として、平成27年12月1日より新しくスタートしました。これまでの産科病棟と、小児病棟を合併し、妊娠・出産・子育て期にわたり、継続的に支援できる体制作りをしています。コンセプトは「患者さんを中心として家族単位で療養できる安全で快適な病棟」で、「女性と子どもの病棟」の理想形を目指しています。

病床数は32床で、入院対象は、女性と子ども（新生児～中学3年生まで）です。看護スタッフは、助産師9名、看護師17名と看護助手2名の合計28名で、助産師5名はアドバンス助産師の資格取得者です。

妊娠・出産期では、助産師による外来保健指導、母親学級、両親学級を開催しています。出産後は分娩に立ち会った助産師が、母乳ケアを中心に継続看護を行い、退院後も相談できる電話窓口を設けています。子育て期においては、小児の入院は全科受け入れを行っています。対象となる新生児～中学3年生までは、心身の成長発達が著しいため、年齢に応じたコミュニケーションを図り、患児の頑張る力を引き出せるように支援しています。また、お子様の入院で心痛されているご両親への配慮も心がけています。

課題は感染の問題で、新生児と妊産婦、感染症疾患で入院している患児が混在します。そのため、病棟内を非感染、感染でゾーン分けを行い、感染管理しています。感染予防のため制限していた面会も、合併を機会に緩和し、個室を増やし、家族単位で療養できるように改善しました。

<基本方針>

1. 母子同室として、産婦が安心して子どもと愛着形成ができる
2. 入院した子どもや女性が家族と一緒に過ごすことで安心して療養できる
3. 妊娠期から子育てまでの連続した支援システムを導入する

<科別患者数> 〈H27年4月～H28年3月〉

※( )主な疾患科のH26年とH27年度の比較

産科[出産 98 件]	婦人科	小児科	小児外科
114 名(-15) ↓	36 名(-30) ↓	431 名(+25) ↑	32 名(-2) ↓

整形外科	耳鼻科	歯科
88 名(-25) ↓	68 名(+19) ↑	15 名(+8) ↑

眼科 31 名	外科 10 名	救急科 8 名	呼吸器外科 8 名
脳外科 2 名	心臓外科 2 名	泌尿器科 1 名	皮膚科 1 名

腎臓内科 9 名	消化器内科 9 名	循環器内科 8 名	内科 3 名
血液内科 3 名	糖尿病内科 2 名		

○救命センター

病床数：8時30分から24時まで10床運用、0時から8時30分まで8床運用

病棟専任医：中原 千尋

病棟師長：石田 清子

<概要>

救命センターは中原専任医のもと、師長1名、主任看護師2名、看護師26名、看護助手1名で、2：1看護体制をとっています。夜勤帯は、準夜勤務者5名、深夜勤務者4名が業務に従事し、救急初期治療後の患者と共に、心臓血管外科をはじめとする術後や、PCI 後などの患者の受け入れを行っています。また、臨床工学部の協力のもと、人工呼吸、血液浄化、体外循環管理を行っています。全身麻酔手術症例や合併症を有する高リスク症例は、術後安全に当該病棟へ移動できるように、救命センター内で数時間術後管理を行う体制をとっています。

平成27年度の年間入室者数は731人(前年730人)、平均延べ入室患者数216人/月、平均在室日数3.6日でした。集中治療管理は各科の主治医が行い、入退室基準に基づき、医師や救急センター、連携室、他病棟の師長との連携を密にして、スムーズに入退室が行われるようにしています。

日々、変化していく医療体制の中、最新の情報を取り入れ、病院の理念でもある、安心して安全な医療・看護を提供できるように、スタッフ全員で取り組んでいます。

<平成 27 年度 ICU科別入室患者数>

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
外科	22	18	26	25	25	25	29	23	14	22	19	21	269
脳神経外科	10	10	3	4	4	6	6	5	7	13	11	10	89
循環器内科	8	9	7	13	7	7	5	9	8	9	9	9	100
心臓血管外科	15	8	7	10	12	15	10	11	14	7	12	7	128
整形外科	5	7	11	6	2	9	8	4	8	5	3	2	70
内科	6	2	3	2	0	0	3	2	3	2	5	2	30
救急科	2	1	0	2	1	2	1	1	2	2	1	2	17
泌尿器科	0	1	3	2	0	1	3	2	3	5	0	3	23
その他	0	0	0	2	0	0	0	1	0	2	0	0	5
計	68	56	60	66	51	65	65	58	59	67	60	56	731

○救急センター

<救急センター基本方針>

- (1) 夜間、休日の受診患者さんに対しても「安心の優しい医療」を提供する
- (2) 4病院による輪番制 2次救急体制での責務を果たす
- (3) 飛び込み、紹介、救急搬送患者さんのいずれも原則として断らない

<概要>

当部署は上記の救急センター基本方針に則り、救急部長である中原医師を中心に下関市内の二次救急医療機関としての役割を果たしている。平成 27 年度の救急センターにおける受診の内訳は以下に示す。

救急外来受診件数 8,414 件

救急車搬送件数 2,561 件

また、救急センターは救急外来診療の他に種々の業務を行っている。各外来経由の点滴・輸血・処置件数は 1,843 件で、自己血採血件数は 442 件であった。救急車搬送だけでも昨年度より 443 件の増加となっており、救急センターにおける看護業務は厳しい状況である。

今年度は MERS 流行に対応し、救急センターを中心に感染症に対応できる該当病棟および感染症外来の整備を行った。感染管理部を中心に、保健所とも連絡を取りながら、最新の MERS 対処情報を入手し、24 時間体制で受診に備えた。MERS 疑いの受診者は 5 名で、結果は全て陰性であったが、チームの共働による安全な受診の展開ができたと評価する。

<院外研究発表>

「救急外来の時間外における電話対応の実態」

第 43 回日本救急医学会総会学術集会（会場：東京国際フォーラム）で発表

近藤友恵 副主任看護師・米元浩美 副主任看護師

<資格取得>

## ○化学療法センター

### <概要>

全診療科の外来で実施可能な化学療法を受ける患者を対象とし、がん化学療法および、炎症性腸疾患やリウマチ、ベーチェット病などの生物学的製剤による治療を実施している。

化学療法センターでは、患者様が安全に安心して治療を受けることができるよう、医師、看護師、薬剤師等の多職種がチームとなって、多方面から患者様をサポートする体制を整えている。毎週 1 回、多職種で外来化学療法カンファレンスを実施し、最新のガイドラインやエビデンスをもとに、患者様に応じた最適なレジメンを検討し、治療方針等の情報共有や、有害事象に対する対処方法の検討等を行っている。また、毎朝、曜日別の専任医師と、看護師、薬剤師によるショートミーティングを行い、過敏症発生時にはすぐに対応できる体制としている。

### \*平成 27 年 11 月より新館 1 階へ移転\*

ベッド数：12 床（リクライニングチェア 4 床＋ベッド 8 床：うち個室 1 室）

スタッフ：師長 1 名（救急センター兼務）、主任・がん化学療法看護認定看護師 1 名  
看護師 1 名、パート看護師 1 名

### <平成 27 年度 外来化学療法件数>

総件数：1,525 件（平成 26 年度より 388 件増）

内訳 がん化学療法：1,065 件 生物学的製剤：460 件

### <研修実績及び業績等>

- ・「下関がんチーム医療を考える会」発表（場所：海峡メッセ下関）演者：上野妙子
- ・久留米大学認定看護師教育課程 がん化学療法看護分野 非常勤講師：上野妙子
- ・北海道テレビ出演 医 TV～わたしたちの医療「医療のチカラ」がん薬物療法におけるチーム医療について考える

## ○透析センター

### <概要>

透析センターは、腎臓内科医師 4 名、看護師 14 名、臨床工学士 5 名で組織しています。「安全で、質の高い心の通った医療を提供致します」を理念に、血液透析及び腹膜透析をはじめとして血漿交換・白血球除去など幅広い血液浄化を行っています。平成 27 年 11 月、新館へ移設し、透析ベッド 20 床から 32 床にリニューアルしました。血液透析は月曜日～土曜日まで毎日行っており、他施設からの紹介も柔軟に対応しています。夜間透析は行っていません。維持透析患者数は約 85 名前後で、平成 27 年 透析件数は 11,918 件でした。専門的知識と技術を用いて、安全で安心できる治療・ケアを提供するとともに、透析を継続していく上で抱える様々な問題に対し、相談、助言、調整を行っています。腹膜透析における訪問看護ステーションとの連携、患者さまが大切な足を守り、いつまでも自分の足で歩けるようにとフットケア・足回診などセルフケア確立と促進への支援に取り組んでいます。また、保存期の患者さまに、少しでも将来の透析に対する不



安を軽減するように腎代替療法の説明をしています。スタッフの知識の向上を図るために、日本透析学会や近隣施設における研修・勉強会などにも積極的に参加しています。

## ○手術室

<理念> 『安心』『安全』『ハートフル』

<概要>

手術室 6室 術前診察室 1室

(人員構成) 看護師長 1名、主任 3名、スタッフ 16名、委託業務者数名

(勤務体制) 日勤+遅出の変則勤務

土・日・祝祭日 2名の8時間オンコール体制

大型連休等 救急輪番日 24時間オンコール体制

全ての手術患者が安全な治療を受けられるように、質の高い医療・看護の提供を心がけています。麻酔科医・臨床工学技師・放射線技師や他部門のスタッフ・中央材料室・委託業者など医療従事者以外の多職種とも連携をとり、チーム医療を実践している部門です。

<平成 27 年 1 月～12 月 手術件数>

外科	416	泌尿器科	89	小児外科	28
整形外科	992	耳鼻科	121	腎臓内科	51
心臓血管外科	220	眼科	376	ペイン (麻)	5
脳神経外科	65	歯科口腔外科	32	合 計	2,544 件
呼吸器外科	85	産婦人科	64		

平成 27 年の手術件数は、年度途中で眼科手術が休止となり前年に比べ件数は減少しました。しかし全身麻酔症例は年々増加傾向で推移しています。

安全で質の高い医療サービスが提供できることを目的に、今年度から WHO 手術安全チェックリストを導入し、『麻酔導入前』・『皮膚切開前』・『患者の手術室退室前』の3つのフェーズで、手術の安全に必要な項目について多職種間でのチェックを実施、情報を共有しています。また電子カルテ上で、術中看護計画を立案・評価する取り組みを始めたところ、看護師の術前・術後訪問率が飛躍的に向上しました。

手術機器については、耳鼻咽喉科・泌尿器科で内視鏡用ハイビジョンカメラシステムを更新しました。また症例が増加・多様化する脊椎手術に対して、手術台を増台して複数の術者に同時に対応できる体制となりました。

# 放射線部

## 【概要】

平成 27 年度放射線部は、1 名の退職により総勢 20 名のスタッフで「安全で安心な検査と治療への取り組み」を目標に掲げました。病院機能評価受審の年でもあり、部内全体で合格に向け取り組んだ 1 年でもあります。

次年度からは健診事業も始まるため一般撮影装置 1 台の増設に加え、FPD カセット 5 枚増設・FPD 乳房撮影装置（トモシンセシス機能搭載）の更新をおこない、健診及び診療にも活用できるように準備をいたしました。技師の認定につきましては、健診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師に 1 名の合格・胃がん X 線検診技術部門 B 資格に 2 名が合格しました。今後も認定技師資格所得を目指し、努力してまいります。

## 【主な放射線機器装置】 ☆は平成 27 年度追加・更新機器

一般撮影装置	☆追加	4	泌尿器・婦人科専用 X 線 TV 装置(DR)	1
FPD 一体型撮影装置		1	64 MDCT 装置	1
乳房撮影装置	☆更新	1	16 MDCT 装置	1
パノラマ撮影装置		1	1.5 T MR 装置	1
骨密度測定装置		1	デジタルガンマカメラ装置	1
ポータブル撮影装置		4	バイプレーン血管撮影装置	1
CR システム		4	多目的血管撮影装置 (IVR-CT)	1
FPD・カセット型パネル	☆追加	8	ヘリカル CT 装置	1
外科用イメージ		3	ライナック装置	1
X 線 TV 装置 (FPD)		2		

## 【関連学会等の認定資格所得など】 ☆は平成 27 年度新規取得

認定などの名称	人数	認定などの名称	人数
第一種放射線取扱主任者	1	救急撮影認定技師	1
第一種作業環境測定士	1	放射線機器管理士	2
消化器内視鏡技師	1	医療画像情報精度管理士	1
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師 ☆	3	Ai 認定診療放射線技師	1
医療情報技師	1	胃がん X 線検診技術部門 B 資格 ☆	2

## 【代表的な参加学会・研究会等】 \*は役員有

日本放射線技術学会	山口 CT UPDATE セミナー
日本診療放射線技師会	21 世紀山口核医学セミナー
* 山口県診療放射線技師会	* 山口乳腺画像研究会
* 山口 MR 撮影技術研究会	* 山口 IVR 懇話会

山口放射線治療研究会	* 下関乳腺画像診断カンファランス
山口核医学技術検討会	九州循環器撮影技術研究会
CTテクノロジーセミナー	九州放射線治療システム研究会
山口 MRI UPDATE	

【検査数】

項 目		件 数	合 計
一般撮影系	一般撮影	37,237	43,856
	病棟撮影	5,003	
	手術室撮影	1,616	
CT 検査	単純	9,890	13,787
	造影	3,897	
MR 検査	単純	4,499	4,929
	造影	430	
透視下内視鏡検査	消化器系	16	274
	気管支系	89	
	ERCP 関係	169	
	その他	0	
DR 検査	上部消化管	651	1,429
	下部消化管	88	
	肝・胆・膵	43	
	泌尿器系	192	
	脊椎骨関係	360	
	その他	95	
核医学検査	脳神経系	38	286
	循環器系	23	
	全身検索系	210	
	その他	15	
血管造影検査		1,020	1,020
放射線治療		124	124
86Sr 治療		0	0

【業績集】 <発表>

開催年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名	場 所
2015.05.17	「イメージングプレートとフラットパネルディテクタの物理特性の比較」	菊地友紀	秋竹祐里 濱本友里江 高山裕健	第71回（一社）山口県診療放射線技師会総会学術大会	下関市

# 検査部

## 【概要】

検査部は、検査部長 1 名、臨床検査技師 30 名（職員 15 名、臨時職員 15 名、事務職員 0.5 人）で構成されている。職場は、建物の構造上、外来検査室（一般検査、血液検査、血液管理センター）、生理検査室、免疫血清・生化学検査室、細菌検査室、病理検査室の 5 部門に分かれている。

当院は、地域拠点病院としての責務を担い、24 時間救急体制に伴う日当直による迅速検査業務を実施している。日常検査は、正確なデータを臨床側に提供することを常に念頭におき、検査項目の見直しにも心掛けている。また検査の効率化を図る目的で、機器および検査内容の検討を引き続き行った。日本臨床衛生検査技師会認定の施設認証施設を取得し、来年度も更新され、確実なる検査室運営に努めている。

生理部門においては、心臓・腹部・体表などほとんどのルーチンでの超音波検査は、技師が行っている。

日当直は通常 1 名で、救急指定日は 1 名待機とし、血液、生化学、凝固、感染、免疫等、様々な検査に加え、輸血業務やノロウイルス、ロタウイルス、レジオネラ、肺炎球菌、マイコプラズマ抗原の迅速検査を実施している。グラム染色や結核菌染色も依頼があれば実施し、また心電図検査も技師が行っている。血液培養は 24 時間受付、陽性反応が出た場合は、時間外でも分離培養し、1 日でも早く結果を報告し、臨床に役立つよう努めている。

検査内容として、出血時間、血沈検査の見直し、BNP の 24 時間実施、トロポニン I の定量を開始した。

病院の電子カルテ（富士通）に関連し、検体検査部門システム（富士通社製、HOPE/LAINS-GX）、輸血システム（バイオ・ラッド）、生理検査システム（富士通）、細菌システム（シスメックス）、病理システム（JR 西日本）を接続させ、各々連携を図り、随時情勢にあわせ、使い勝手が良くなるよう改良している。

院内活動では、輸血療法委員会、病院情報化委員会、感染管理委員会、リスクマネジメント委員会など多くの委員会、また院内講演、学習支援活動等へ参加し、チーム医療の一員としての活動に努めている。糖尿病教室では、1 コマを検査部が担当し、検査の意義、検査値の解釈について講義している。検査部内の勉強会としては、不定期ながら実施し、スキルアップを図っている。

資格、院外活動としては、臨床検査技師会、専門学会をはじめ、多くの研修会、勉強会などに積極的に参加し、能力の向上に努力している。

【検査実績】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	前年比(%)
一般検査														
便検査	95	155	233	247	198	204	239	260	170	185	208	129	2,323	98.9%
尿検査	2,251	2,037	2,333	2,612	2,201	2,247	2,347	2,141	2,579	2,177	2,293	2,418	27,636	98.9%
穿刺液・採取液	49	49	34	35	34	43	29	24	36	39	21	36	429	115.0%
ピロリ菌検査	17	12	10	10	17	9	10	14	14	15	16	17	161	78.2%
小計	2,412	2,253	2,610	2,904	2,450	2,503	2,625	2,439	2,799	2,416	2,538	2,600	30,549	99.0%
血液学検査														
血液形態/機能	5,281	4,797	5,274	5,587	5,021	4,989	5,266	4,947	5,126	4,917	5,042	5,262	61,509	100.5%
出血凝固検査	1,253	1,155	1,224	1,340	1,113	1,154	1,203	1,129	1,125	1,254	1,229	1,256	14,435	100.9%
小計	6,534	5,952	6,498	6,927	6,134	6,143	6,469	6,076	6,251	6,171	6,271	6,518	75,944	100.6%
生化学検査														
生化学	5,409	4,917	5,350	5,704	5,142	5,087	5,372	5,100	5,283	5,117	5,237	5,440	63,158	102.3%
糖尿病検査	757	788	909	982	862	906	969	869	1,133	903	935	930	10,943	105.4%
血液ガス分析	450	339	372	402	309	284	344	285	295	360	314	385	4,139	70.9%
尿生化学	379	288	350	391	337	334	346	315	319	333	366	420	4,178	95.3%
小計	6,995	6,332	6,981	7,479	6,650	6,611	7,031	6,569	7,030	6,713	6,852	7,175	82,418	100.1%
血清学検査														
血清検査	1,933	1,844	1,854	2,025	1,728	1,765	1,955	1,914	1,699	1,730	1,761	1,896	22,104	—
血中薬物検査	63	47	55	55	58	56	53	49	53	67	54	63	673	108.0%
小計	1,996	1,891	1,909	2,080	1,786	1,821	2,008	1,963	1,752	1,797	1,815	1,959	22,777	95.6%
輸血関連検査														
血液型検査	241	266	299	338	266	298	282	286	236	294	305	252	3,363	92.5%
不規則性抗体	190	193	202	227	193	205	207	202	168	228	211	196	2,422	95.9%
直接クームス試験	3	2	5	11	1	3	2	1	5	2	3	3	41	117.1%
交差試験	190	197	230	237	197	195	228	195	198	223	173	179	2,442	111.2%
小計	624	658	736	813	657	701	719	684	607	747	692	630	8,268	98.5%
その他検査														
ピロリ菌検査	17	12	10	10	17	9	10	14	14	15	16	17	161	78.2%
心筋マーカ検査	34	42	31	47	39	45	35	51	194	363	374	372	1,627	—
小計	51	54	41	57	56	54	45	65	208	378	390	389	1,788	
細菌学検査														
一般細菌検査	728	643	706	808	655	616	646	712	647	769	717	734	8,381	105.2%
抗酸菌検査	65	56	78	81	64	65	69	71	58	80	68	86	841	129.4%
迅速検査	246	182	227	197	189	162	178	216	217	267	263	253	2,597	99.0%
小計	1,039	881	1,011	1,086	908	843	893	999	922	1,116	1,048	1,073	11,819	105.2%
病理検査														
組織検査	207	208	242	230	232	201	232	208	184	182	180	198	2,504	101.9%
組織迅速検査	18	9	10	10	11	12	13	11	8	18	8	10	138	90.2%
細胞診検査	218	197	232	265	224	230	268	279	233	214	214	234	2,808	102.3%
細胞診迅速検査	9	4	10	8	9	11	8	7	3	10	5	8	92	117.9%
小計	452	418	494	513	476	454	521	505	428	424	407	450	5,542	102.0%
生理学検査														
心電図検査	1,022	948	1,053	1,164	967	1,034	1,021	988	1,210	1,054	1,097	1,011	12,569	98.8%
脳波検査	21	16	12	32	21	10	10	14	12	6	14	19	187	106.3%
脈波検査	173	142	172	186	149	163	191	157	181	221	205	199	2,139	116.1%
肺機能検査	117	159	206	213	185	176	215	198	150	179	198	133	2,129	106.0%
超音波検査	740	677	867	955	865	799	925	885	826	860	864	836	10,099	109.9%
その他	18	12	7	11	11	10	12	9	14	5	9	8	126	114.5%
小計	2,091	1,954	2,317	2,561	2,198	2,192	2,374	2,251	2,393	2,325	2,387	2,206	27,249	104.6%
合計	22,194	20,393	22,597	24,420	21,315	21,322	22,685	21,551	22,390	22,087	22,400	23,000	266,354	100.8%

【資格取得】

資格等	人数	認定団体
認定輸血検査技師	1	日本輸血学会
超音波検査士（腹部領域）	2	日本超音波学会
超音波検査士（体表領域）	1	日本超音波学会
超音波検査士（循環器領域）	3	日本超音波学会
細胞検査士（国際細胞検査士）	2	日本細胞学会
認定一般検査技師	1	日本臨床衛生検査技師会
認定病理検査技師	2	日本臨床衛生検査技師会
毒物劇物取扱者	2	厚生労働省
特化物・四アルキル鉛等作業主任者	3	厚生労働省
有機溶剤作業主任者	3	厚生労働省
山口県糖尿病療養指導士	3	山口県医師会

【院外活動】

院外活動役職名	人数
山口県臨床検査技師会会長	1
山口県臨床検査技師会臨床化学部門実務委員	1
山口県臨床検査技師会臨床生理画像部門実務委員	1
日本試料分析学会評議委員	1

【講師・座長】

年月日	研修名	開催場所	役目	氏名
H27.05.26	感染管理研修会「結核の基礎」	下関市	演者	菊池哲也
H27.08.08	日本試料分析学会中国支部	岡山市	座長	川元博之
H27.10.28	山口県臨床検査技師会下関支部研修会「結核」	下関市	演者	菊池哲也
H27.11.15	感染管理ネットワーク下関 学術集会	下関市	演者	菊池哲也
H28.01.30	山口県造血器腫瘍検査セミナー	宇部市	座長	川元博之

# 臨床工学部

## 【理念】

〔質の高い臨床技術の提供と安全かつ効率的な医療機器の運用に寄与します〕

## 【基本方針】

1. 医療機器の専門家としての自覚を持ち、チーム医療に参画し良質で安全な医療を目指します。
2. 医療の高度化に対応するために、常に自己研鑽に励みます。
3. 医療機器の安全確保と有効性維持のための保守・管理・教育に努め安全・安心の医療に貢献します。

## 【スタッフ】

臨床工学部部長：上野安孝

臨床工学部技師長：松原伸夫

臨床工学技士：技師長を含め8人（内パート職員1人）

委託職員：2人

## 【概要】

平成24年4月1日、病院の地方独立行政法人化と同時に医療器材部の名称を臨床工学部へと変更。平成24年、25年に臨床工学技士計3名を増員し業務の拡張・充実を図った。臨床工学部の理念と基本方針は、市民から信頼される病院である事に寄与することを目標とする。

近年の医療及び医用機器の高度化においては、臨床工学技士の果たす役割は大きく、技士の活躍の場は広がりつつある。ますます高度化、複雑化する医療機械を専門的知識のある臨床工学技士が保守・点検・操作することにより診療の安全性を増し、他の医療スタッフとの連携を図りながら、より安全で質の高い医療の提供ができるよう日々努力している。

業務は、臨床技術支援業務（手術部業務、心臓カテーテル関連業務、血液浄化業務、内視鏡室）とME機器中央管理業務の2つに大きく分けられ、専属の臨床工学技士8名（内1名はパート）、委託職員2名で、院内の生命維持管理装置や医療機器の操作及び保守点検を行っている。また、部門を血液浄化業務部門、内視鏡室と手術室関連業務・医療機器管理業務部門に分け血液浄化業務部門に4人（臨床工学技士職員3人、パート1人）と内視鏡室に1人、手術室関連業務・医療機器管理業務部門に5人（臨床工学技士3人、委託職員2人）を配置し、血液浄化と手術室部門の技士2人を1日交代でローテーションしている。また糖尿病患者における血糖測定器使用説明を39名の患者様に実施した。

平成27年度は、新たに在宅医療に係わる医療機器の管理を開始した。また新館透析センターに6階西で使用していたセントラルモニター1台と送信機7台を整備配置して透析中の患者

管理に活用できる様にした。機器では、I A B Pをシステム97から最新の光ファイバーが使用できる機種（2台）に更新した。

平成28年3月の病院機能評価受審にむけて各種マニュアルの作成や改訂、医療機器保管庫や作業場の整備、医療機器保守点検の見直しなどを行った。特に点検整備した機器に点検済シールを貼るようにした。評価は良質な医療の実践で臨床工学部が主体の「医療機器管理機能を適切に発揮している」では「A」評価であったが、「医療機器を安全に使用している」で「B」判定であった。これは医療機器の使用者と共同で対策を取る事が必要であり次回の更新にむけて今後の課題である。

院内活動としては、医療機器等検討委員会、感染管理委員会、リスクマネジメント部会、広報年報委員会、CS推進委員会など多くの委員会、各種院内講演会への参加、新入職員に対する教育講演の講師、院内職員に対する医療機器研修の企画立案、医療機器安全情報の広報などを通してチーム医療への参画・業務支援に努めてきた。院外活動としては、臨床工学技士会、専門学会などの学術集会、研修会、勉強会などに積極的に参加し最新知識・技術の向上に努めてきた。また今年度は、東亜大学医療工学科学生2名の1ヶ月間の病院実習を受け入れ、教育指導した。

#### 【業務内容・動向】

##### 1. ME機器中央管理業務

院内での汎用性の高い医療器材部中央管理機器13機種の中央貸出・返却業務と各種医療機器の定期点検、保守点検、修理は主に臨床工学技士の監督のもとに委託職員が担当している。臨床技術支援が伴う生命維持管理装置・術中モニタリング装置の保守・定期点検、医療機器管理台帳管理は臨床工学技士が担当し、さらに医療機器を安全かつ効率的に運用できるように保守点検・計画的購入を行っている。また、院内での医療機器セミナー及び他職種向けの医療機器取扱いに関する研修会を開催したり、医療機器安全情報を広報しており、患者様に安全かつ有用な医療を提供できるように努めている。

##### 2015年

- 8月1日 在宅医療に係る医療機器の管理を始める
- 8月13日 電子血圧計レジーナ2台を4階東に設置
- 9月29日 パラマウント新ベッド88台(内離床センサー付き18台)納入
- 10月6日 パルスオキシメータ、サーフィンPO(下看寄贈)を3階東、産科病棟に配置
- 10月19日 医療用圧力調節器2個を化学療法室に増設
- 10月20日 当院で採用の自己血糖測定器をアキュチェックモバイル(ロッシュ)、メディセーフフィットスマイル(テルモ)、ワンタッチベリオビュー(J&J)の3機種に選定
- 10月29日 新館化学療法センターにドリップアイ8台、レジーナ電子血圧計2台増設
- 10月30日 新館透析センターに酸素流量計3台を増設



- 11月9日 自己血回収装置1台を（株）ソーリン、エレクトラからエクストラに変更  
 11月10日 新館化学療法センターに酸素流量計3台、テルモ流量制御輸液ポンプTE161Sを4台配置  
 臨床工学部に貸出し機としてテルモ流量制御輸液ポンプTE161Sを2台追加  
 12月24日 フクダ電子ベッドサイドモニタDS8100の短時間バックアップ電池を9台全てリコールにより交換。  
 12月25日 内科外来、自動血圧計1台を日本光電、ハートステーションSMPV5500に更新  
 12月28日 手術室にGE超音波画像診断装置Venue50を配置、内科外来にレギュレータ1台設置

## 2016年

- 1月12日 エアーマット ネクサス（83cm幅）5台納入管理、除圧マットナツソ（83cm幅）5台納入管理  
 1月18日 清拭車に代わりタオルウォーマー7台を病棟に設置。  
 1月21日 IABPのシステム97を廃棄してCARDIOSAVE-Hと光ファイバー付のCS-100に更新  
 1月22日 新館透析センターに6階西（休床）のセントラルモニターと送信機（7台）を整備設置  
 1月25日 救急外来に血糖測定器テルモ、J&Jを1台ずつ設置、取扱説明。  
 3月25日 パラマウント離床センサー付き新ベッドのナースコール中継ユニット44台登録

## 2. 管理機器

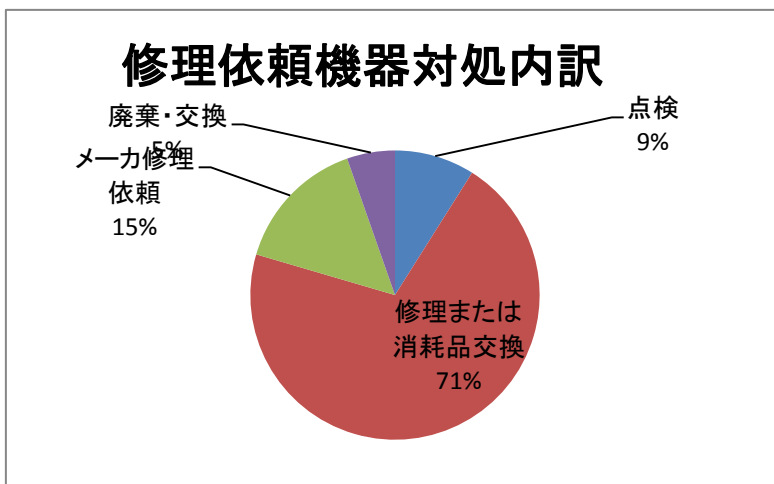
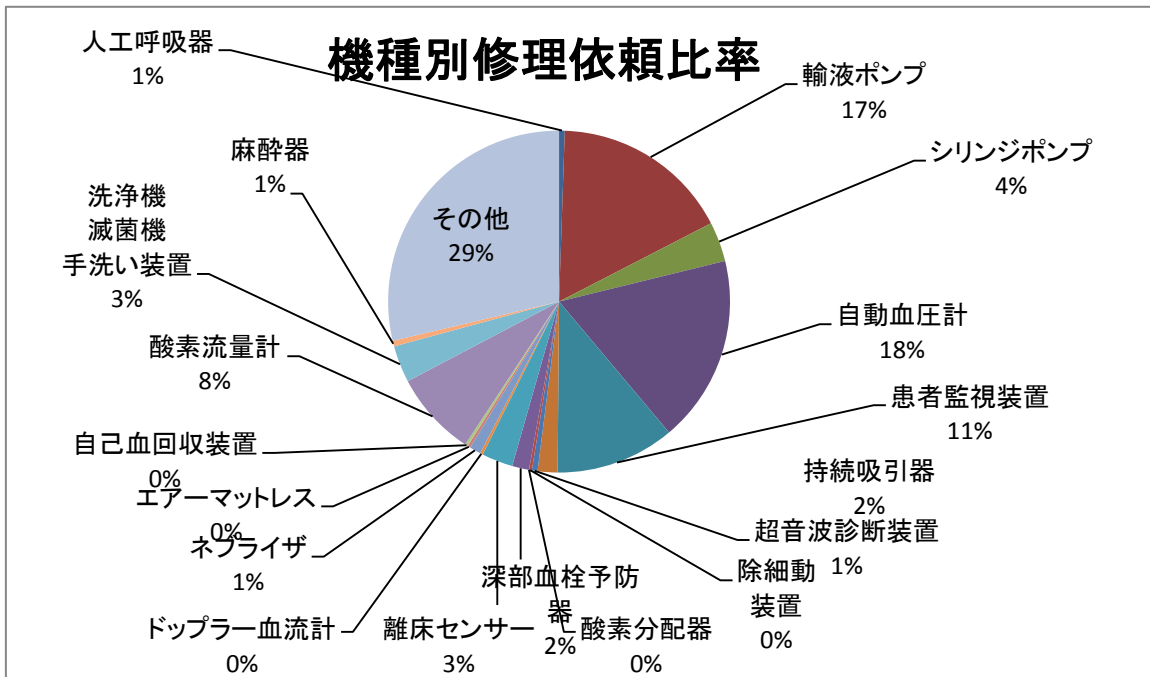
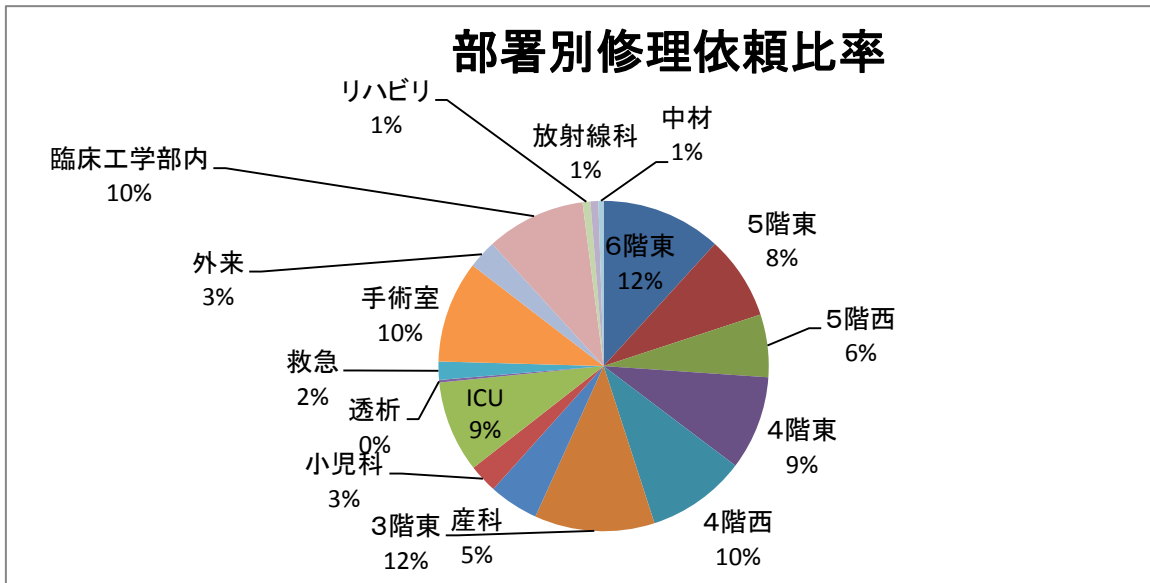
### 生命維持管理・モニタリング装置

機器名	台数
人工心肺装置	1
PCPS	1
IABP	3
除細動器	10
体外式ペースメーカー	15
人工呼吸器	14
透析装置	33
CHDF	1
血漿交換装置	1
神経機能検査装置	2
連続心拍出量測定装置	3
自己血回収装置	3

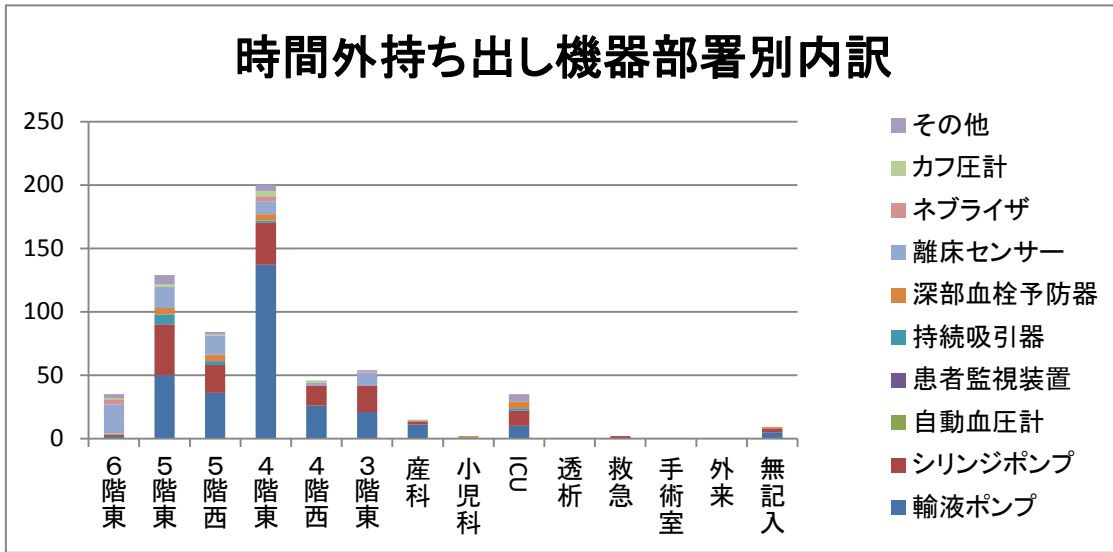
### 医療器材部中央管理機器

機器名	台数	機器名	台数
AED	6	二又アウトレット	40
輸液ポンプ	178	離床センサー	33
シリンジポンプ	130	自動点滴装置	14
自動血圧計	191	超音波ネブライザー	16
セントラルモニタ	19	経腸栄養ポンプ	4
ベッドサイドモニタ	66	酸素流量計	138
ポータブル吸引機	7	圧力調整器付酸素流量計	39
持続吸引機	12	パルスオキシメーター	119
低圧持続吸引機	17	超音波ドップラー血流計	13
IPC装置	34	カフ圧計	9
自己採血回収装置	1	超音波診断装置	2
空気清浄機	12		

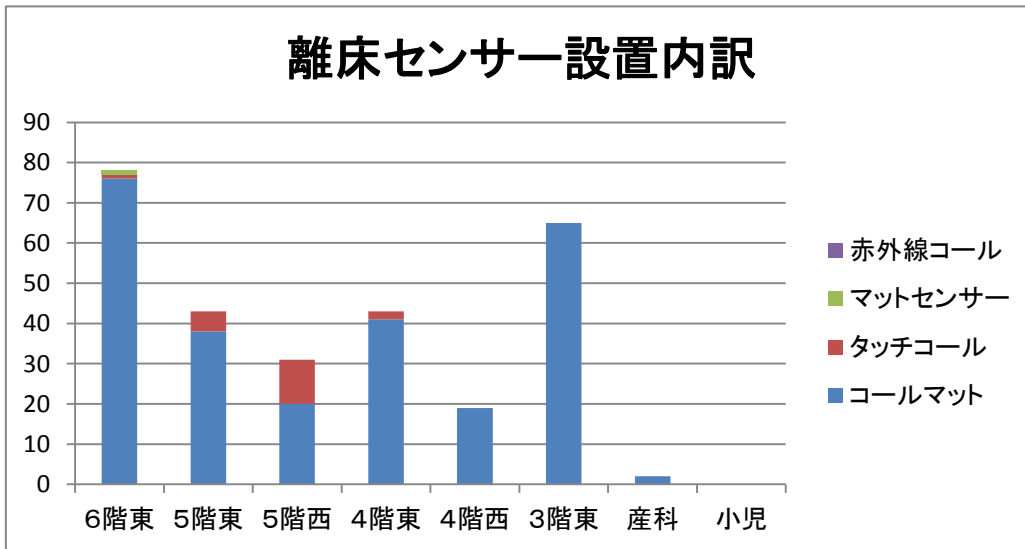
### 3. 修理関連統計



4. 時間外持ち出し統計



5. 離床センサー設置統計



6. 手術室業務

人工心肺装置、補助循環装置である PCPS (経皮的心肺補助装置) や IABP (大動脈内バルーンポンピング)、術中自己血回収装置の操作及び保守点検、心臓血管外科・整形外科・脳神経外科分野での SEP (体性感覚誘発電位)、経頭蓋高電圧電気刺激による MEP (運動誘発電位)、SCEP (脊髄誘発電位)、SSEP による中心溝の同定、ABR (聴覚誘発電位) の測定および Facial の術中モニタリング業務を行っている。時間外呼出は 6 回であった。

平成 27 年度実績

項目	件数
人工心肺	43
OFF-PUMP	16
IABP	16
PCPS	2
術中自己血回収	167
誘発電位測定	290

## 7. 心臓カテーテル関連業務

平成27年度実績

平成24年2月より、検査部が行っていた心臓カテーテル検査・治療業務を開始した。心臓カテーテル検査・治療が安全で正確に行われるようにポリグラフによるモニタリングを行っている。急変時にはPCPS（経皮的心肺補助装置）やIABP（大動脈内バルーンポンピング）などの補助循環装置の組み立て・操作を行っている。またH25年11月より下肢アンギオ、下肢EVTの症例の立会い業務を開始。平成26年度より下肢治療件数が山口県最多になった。

昨年度は症例数100件を超えた137件に立ち会った。時間外呼出は39回であった。

ペースメーカ植込み時交換時の立会いも行い、患者の定期フォローや遠隔フォロー、MRI撮像時のモード変更も行っている。

患者数	663
緊急PCI数	46
CAG	497
PCI	164
LVG	8
右心	38
PMI	20
PME（G交換）	9
EVT	137
IABP（カテ中導入）	8
PCPS（カテ中導入）	2
体外式ペースメーカ	45

## 8. 血液浄化業務

### ・人工透析

平成27年度実績

平成27年11月より新館1階に移転した透析センターがオープンした。ベッド数を20床から32床に増床し、その内25床をon-line HDF対応の全自動透析装置に入れ替えた。また、オーダーメイドの処方透析の増加を見据え、個人透析装置を1台から3台に増設した。透析液作成室も水処理装置・透析液供給装置等の設備を一新し、透析液清浄化対策に週1回の熱水消毒を取り入れた。

項目	患者数
持続緩徐式血液濾過透析	17
単純血漿交換	1
白血球除去療法	6
腹水濾過濃縮再静注法	15

設備が拡充され、多くの機器でon-line HDFが行えるようになり、積極的に多くの患者様の痒みや透析中の血圧低下などの合併症を軽減する事が出来るようになった。併せて、震災対策として免震装置の設置や、透析用水・透析液のエンドトキシン測定検査、生菌数検査が当センターで出来るようになり、患者様に、より安全で優しい透析治療を行えるようになった。アフェレシス分野では癌性腹水に対する腹水ろ過濃縮再静注法（KM-CART）の依頼が増加した。

新機種を紹介：RO（熱水）、個人機、コンソール、免震台

## 9. 内視鏡室業務

平成27年度実績

内視鏡室で使用する全機器の保守管理を担当。また内視鏡検査や治療での介助業務や、スコープの洗浄・消毒を行い消毒薬濃度判定の実施を含め洗浄・消毒の履歴管理など感染管理も行っている。

上部内視鏡検査	2991件
下部内視鏡検査	968件

平成28年3月に、超音波内視鏡装置一式を新規導入。消化器や呼吸器分野における超音波内視鏡を使用した検査や、EUS-FNA（超音波内視鏡下穿刺吸引生検）、EBUS-TBNA（超

音波気管支鏡ガイド下針生検) も行うことができ、より高度で安全な内視鏡検査・治療が可能になった。

【学術実績】

(1) 学会・研修会

年月日	学会・研修会	開催地	参加者
2015/4/12	平成27年度山口県臨床工学技師会学術大会・総会	山口市	松原、佐々木、鈴木雄揮、前田、藤田、原田、篠田
5/23~24	第25回日本臨床工学会・総会	福岡市	佐々木、篠田
5/23	第25回日本臨床工学会・総会	福岡市	松原、原田
5/24	第25回日本臨床工学会・総会	福岡市	鈴木、藤田、前田
5/30	第74回日本内視鏡技師学会	北九州市	篠田
6/7	第15回心電図基礎セミナー	山口市	松原
6/25~6/27	第60回(社)日本透析医学会学術集会・総会	横浜市	前田
7/5	第18回ME機器セミナー	宇部市	松原
9/13	第12回中国地区消化器内視鏡技師研究会及び機器取扱い講習会	下関市	篠田
10/4	第4回山口県臨床工学技士会ペースメーカー講習会	山口市	松原、佐々木、鈴木雄揮
11/22	第5回中四国臨床工学会	広島市	松原、佐々木、鈴木、藤田、前田
2016/1/21	北九州透析懇話会	北九州市	佐々木
2/21	第15回山口県臨床工学技士会主催呼吸器セミナー	山口市	松原、佐々木、鈴木雄揮、篠田、藤田
3/14~15	第76回日本消化器内視鏡技師学会	大阪府	篠田
3/18~3/19	第35回消化器内視鏡技師認定試験	東京都	篠田

(2) 学会発表

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2014年6月13日 ~15日	間歇型血液濾過透析(I-HDF)の補液設定と臨床効果の検討 ポスター発表	鈴木雄揮	藤田忍, 鈴木あゆみ, 前田友美, 佐々木毅, 乙咩崇臣, 田中洋澄, 吉水秋子, 吉村潤子, 坂井尚二	第59回日本透析医学会学術集会・総会	神戸国際会議場
2015年6月25日 ~27日	当院のRO装置オーバーホール後の水質について ポスター発表	前田友美	藤田忍, 鈴木あゆみ, 鈴木雄揮, 佐々木毅, 吉村潤子, 坂井尚二	第60回日本透析医学会学術集会・総会	パシフィコ横浜
2015年9月13日	当院での内視鏡業務における臨床工学技士の介入について	篠田直子	河野典子、松原伸夫	第12回中国地区消化器内視鏡技師研究会	下関市生涯学習プラザ

(3) 院内医療機器講習会

年月日	テーマ	参加者
2015/4/1	マスク換気V60の取扱い説明	ICU看護師5名、臨床工学技士3名
2015/4/2	TCI TE-371 ポンプ使用説明	手術室勤務看護師9名
2015/4/10	TE-351、TE161S ポンプ使用説明(1回目)	看護部:12名 リハビリ:1名 臨床工学部:3名
2015/4/13	TE-351、TE161S ポンプ使用説明(2回目)	看護部25名、リハビリ9名、臨床工学部2名、薬局1名
2015/4/16	TE-351、TE161S ポンプ使用説明(3回目)	看護部:25名 臨床工学部:3名
2015/5/1	平成27年度 新規採用者研修	新人看護師25名
2015/5/22	人工呼吸器Trilogy200の使用説明 (ICUで3回目)	ICU看護師9名
2015/6/6	ACH Σ (CHDF)装置 取り扱い研修会 (1回目)	看護師10名、臨床工学技士3名
2015/6/9	CPMマンソン取り扱い説明会	4階西病棟看護師19名
2015/6/17	サーボベンチレータ900C点検、使用方法研修会(2回目)	看護師11名、臨床工学技士1名
2015/6/19	サーボベンチレータ900C点検、使用方法研修会(3回目)	看護師11名、臨床工学技士1名
2015/6/19	ACH Σ (CHDF)装置 取り扱い研修会 (2回目)	看護師6名、臨床工学技士2名
2015/6/24	ACH Σ (CHDF)装置 取り扱い研修会 (3回目)	看護師8名、臨床工学技士1名
2015/7/3	生体情報モニターの基礎研修(新人看護師対象)	新人看護師19名、他看護師3名、臨床工学技士3名
2015/8/7	呼吸器の基礎(新人看護職員研修)	5階西看護師6名、臨床工学技士2名
2015/7/27	血液ガスの基礎、血ガス測定器ラピッドポイント500の説明(1回目)	ICU看護師8名、臨床工学技士2名
2015/7/15	人工呼吸器Trilogy200の使用説明 3E	3階東看護師10名
2015/7/28	血液ガスの基礎、血ガス測定器ラピッドポイント500の説明(2回目)	ICU看護師10名、臨床工学技士1名
2015/8/7	カテ室心電図勉強会	看護師:9名 放射線技師:2名 臨床工学技士:1名
2015/8/11	人工呼吸器Trilogy200の使用説明 5W	5階西看護師10名
2015/8/18	透析装置GC-110Nについて (JMS社)	医師2名、看護師12名、臨床工学技士2名
2015/8/21	ICU看護師向けACH-Σ 説明会	看護師5名
2015/8/26	人工呼吸器Trilogy200の使用説明 5W (2回目)	5階西看護師1名
2015/9/15	人工呼吸器Trilogy200の使用説明 5W (3回目)	5階西看護師1名
2015/10/13	各種自己血糖測定器のメーカープレゼン	看護師9名、薬局2名、事務2名、臨床工学技士2人
2015/10/20	各種自己血糖測定器のメーカープレゼン	看護師8名、薬局4名、事務2名、CE2名、リハ2名、医局2名、検査1名
2016/1/22	TOPシリンジポンプ保守点検研修	臨床工学技士6名、委託3名
2016/1/28	徐細動装置ハートスタートXL+の導入時研修	透析センター勤務看護師11名、CE3名
2016/2/18	テルモ輸液ポンプ、シリンジポンプメンテナンス研修TE161S,TE351	臨床工学部職員5名、委託職員3名
2016/2/19	テルモ輸液ポンプ、シリンジポンプメンテナンス研修TE-331,TE-131	臨床工学部職員3名、委託職員3名
2016/3/3	マスク換気V60の取扱い説明	ICU看護師5名、臨床工学技士3名

【所属学会】

(社) 日本臨床工学技士会	7名	(社) 日本体外循環技術医学会	2名
(社) 山口県臨床工学技士会	7名	(社) 日本臨床微生物学会	1名
(社) 日本臨床検査技師会	2名	(社) 日本環境感染学会	1名

【認定資格】

体外循環技術認定士 1名、透析技術認定士 1名、臨床ME 専門認定士 1名

# リハビリテーション部

## 【スタッフ】

医師	山下彰久				
理学療法士	安部裕美子	宮野清孝	長谷知枝	水野博彰	鐘井光明
	小林健治	内田景子	池田高超	高菅寛之	白幡雄大
	鈴木雅仁	宮田辰成	吉本幸代		
作業療法士	銭本公子	平佐田紘子	本村厚郎		
言語聴覚士	岩崎加津子				
助手	山瀬陽加	大下夏栄			

## 【理念】

安心、安全に早期リハビリテーションの充実・促進を図ることにより、早期回復を促し、患者様の退院・転院の橋渡しが的確にできるよう努める。

## 【方針】

当部においては、急性期のリハビリテーションの役割機能を担っていると考え、主として発症まもない患者様、手術後まもない患者様を対象とし、積極的にリハビリテーションを実施する。

また、入院患者様を主とした対象とし、退院後の治療継続が必要な患者様の外来でのリハビリテーションを実施する。以下に、主な対象疾患をあげる。

- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）  
脳出血・脳梗塞・頭部外傷・パーキンソン病など
- ・脳血管疾患等（廃用）リハビリテーション料（Ⅰ）  
廃用症候群（腎不全・腎盂腎炎・胆のう炎・脱水など）
- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）  
骨折・外傷・脊椎脊髄疾患・関節疾患・関節リウマチ・切断など
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）  
慢性閉塞性肺疾患・喘息・肺炎など
- ・心大血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）  
心筋梗塞・心不全・心大血管疾患術後等
- ・がん患者リハビリテーション料  
各種がん疾患・手術後・化学療法後など

## 【重点診療方針】

- ・早期リハビリテーションの充実・促進
- ・患者様の満足度向上
- ・チーム医療の充実

## 【施設基準】

- ・運動器疾患リハビリテーションⅠ
- ・脳血管疾患等リハビリテーションⅠ
- ・脳血管疾患等（廃用）リハビリテーションⅠ
- ・呼吸器疾患リハビリテーションⅠ
- ・心大血管疾患リハビリテーションⅠ
- ・がん患者リハビリテーション

## 【概要】

当院の基本方針・当部の重点診療方針に基づき、様々な疾患や外傷に伴って発生した障害をもつ患者様に対して、発症早期または手術後早期より積極的にリハビリテーションを実施した。

今年度は、作業療法士1名、言語聴覚士1名を増員し、理学療法士13名、作業療法士3名、言語聴覚士1名、助手2名の体制となった。これにより、リハビリテーション専門職による総合的なアプローチが可能となった。しかし、まだ十分な人員数ではなく、今後も検討が必要である。

H27年度の重点目標は、診療の質を高める点からも、『リスク管理の徹底』、『病棟との連携強化』を掲げた。ここ数年の人員の増員に伴い、若手療法士の占める割合も多くなり、専門職としての質の担保が喫緊の課題となる。院内外の研修会や学会への参加、部内での勉強会や症例検討等を積極的に展開し、幅広いニーズに対応できる臨床能力の高いセラピストの育成に努めた。『リスク管理の徹底』については、基礎知識の再確認と急変時対応の周知徹底を図った。『病棟との連携強化』については、これまで通り、各病棟と定期的なリハビリテーションカンファレンスを行い、情報の共有、目標・方針を確認し、獲得できた能力を生活場面でも最大限に活かせるよう連携を図った。また、退院前カンファレンスにも出席し、現在のADLの状況を報告し、ケアプランへの助言などを行った。必要に応じて退院前訪問も行い、身体能力に合わせた生活環境の評価を行い、安全に生活を送って頂くための動作指導や家屋改修・福祉用具の提案などを実施した。

今年度は、病院機能評価の受審を通じて、業務の見直しを図り、リハビリテーションの役割とは、単に疾患や障害の治療にとどまらず、患者、家族のニーズを中心に、生活の再建、社会への参加、心の問題への対応も含めて、包括的全人的にアプローチすることの重要性を再認識できた。また、患者中心の全人間的医療は、多職種が、それぞれの高い専門性をもって、業務を分担しながら連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供するチーム医療であることをあらためて実感することができた。

来年度は、DPCが導入され、より効率的な医療が求められる。更に、国による地域包括ケアシステムの構築が進み、在宅への退院支援が重要となり、その人らしい暮らしが再構築できるよう支援していかなければならない。

急性期のリハビリテーションを担う当院においても、早い段階から、退院後の生活を見据えたリハビリテーションが重要となる。早期の機能回復・改善を目指し、廃用症候群の予防を図り、できるかぎり機能が改善された状態で在宅や回復期へつなぐ使命がある。今後も、急性期のリハビリテーションが決して消極的なもので終わらないように、患者の



ADL・QOL を高めるためのスタートラインであることを念頭におき、治療にあたりたい。また、地域連携においても迅速かつ積極的に関わり、地域医療を円滑に支えるリハビリテーション専門職としての役割を果たしていきたい。

【治療実績：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月】

1) リハビリテーション処方数

平成 27 年度、リハビリテーション部に処方された患者は 2,331 人（前年より 23 人減、前年比▼0.1）で、その疾患内訳数は表 1 に示す。全体数の中で運動器疾患が 45%、脳血管疾患等が 12%、廃用症候群が 14%、呼吸器疾患が 6%、心大血管疾患が 15%、がん疾患が 8% を占めた。前年と比べて、やや運動器疾患の減少がみられる。

表 1 リハビリテーション処方数（疾患別）（単位：件,前年比：%,マイナス：▼）

疾患別名	処方数	前年比
運動器疾患	1,043	▼12.1
脳血管疾患等	288	13.4
廃用症候群	329	8.9
呼吸器疾患	147	1.4
心大血管疾患	346	17.3
がん疾患	178	4.1
合計	2,331	▼0.1

2) リハビリテーション実施延べ単位数

総数は 53,012 単位（前年より 2,923 単位増、前年比 5.8）。疾患・入院・外来別の内訳は、表 2 に示す。外来数の増加が著明である。また、対象疾患も増えている。これは、在院日数の短縮に伴い、外来フォローの件数・期間が増えたためと考える。

表 2 疾患別リハビリテーション実施延べ単位数（入院・外来別）

（前年比：%,マイナス：▼,\*：前年の実績なし）

	外来	前年比	入院	前年比	合計	前年比
リハビリテーション	5,635	20.6	47,377	4.3	53,012	5.8
運動器疾患	5,496	18.7	23,206	▼8.0	28,702	▼3.8
脳血管疾患等	76	90	9,854	21.6	9,930	21.9
脳血管疾患等（廃用）	29	*	5,776	34.7	5,805	35.3
呼吸器疾患	21	*	1,959	▼11.6	1,980	▼10.6
心大血管疾患	13	*	4,257	17.8	4,270	18.1
がん患者	0	*	2,325	18.1	2,325	18.1

表3 疾患別リハビリテーション実施延べ単位数（療法別）

（前年比：％，マイナス：▼，＊：前年の実績なし）

	理学療法	前年比	作業療法	前年比	言語聴覚療法	前年比
合計	42,768	0.3	7,919	6.12	2,325	＊
運動器疾患	25,499	▼5.3	3,203	9.69	0	＊
脳血管疾患等	4,028	0.4	4,067	▼1.67	1,835	＊
脳血管疾患等（廃用）	4,817	19.1	517	111	471	＊
呼吸器疾患	1,960	▼10.3	20	▼31	0	＊
心大血管疾患	4,251	18.5	19	▼34.5	0	＊
がん患者	2,213	18.7	93	▼9.71	19	＊

3) 退院患者数と自宅復帰率

自宅復帰率は、疾患別にみると増減はあるが、全体的には増加している。

表4 疾患別リハビリ退院患者数と自宅復帰率

（単位：人，前年比：％，マイナス：▼）

疾患別名	退院患者数	前年比	自宅復帰率	前年比
運動器疾患	1,179	▼4.8	55.9	0.72
脳血管疾患等	292	9.77	35.6	14.1
廃用症候群	321	15.05	49.6	▼2.94
呼吸器疾患	200	15・61	53.0	▼4.16
心大血管疾患	311	6.97	64.6	15.77
がん疾患	174	25.18	78.3	6.10
合計	2,477	3.04	56.2	4.46

4) 日常生活自立度の改善状況（BI値の変化）

各疾患において差はあるが、BI値利得は増えており、改善がみられたといえる。

	リハビリ介入時	⇒	退院・転院時
運動器疾患	34.5	⇒	75.0
脳血管疾患	25.7	⇒	54.0
廃用症候群	30.6	⇒	49.0
呼吸器疾患	37.1	⇒	51.0
心大血管疾患	35.4	⇒	74.0
がん患者	36.8	⇒	75.0

【ファシリテーター】

2015.8 がんのリハビリテーション研修会（山口）

「がんのリハビリを実践する上での問題点」

安部裕美子

【発表】

開催年月	演 題	発表者	学会名
2015.5	当院におけるがんのリハビリテーションの現状報告	安部裕美子	山口県緩和ケア研究会 (山口)
2015.9	小児 I 型糖尿病患者の理学療法について	池田高超	山口県理学療法士会下 関ブロック症例検討会 (下関)
2015.11	人工膝関節全置換術後の転帰に影響する要因の検討 —術後 1 週間での転帰予測—	高菅寛之	山口県理学療法士学会 (下関)
2015.11	当院における超高齢開心術後患者のリハビリテーション進行状況と転帰に関する検討	水野博彰	山口県理学療法士学会 (下関)

【社会貢献活動】

2015. 8 全国高等学校野球選手権山口大会  
サポートスタッフ 水野博彰・鐘井光明・高菅寛之
- 2015.10 第 15 回全国障害者スポーツ大会 (和歌山)  
山口県男子バレーボールチームトレーナー帯同 宮野清孝
- 2015.11 下関海響マラソン大会 2015  
サポートスタッフ 池田高超・宮野清孝・安部裕美子

【下関市生涯学習まちづくり 出前講座】

2015.4	転倒予防	白幡雄大・宮田辰成・安部裕美子
2015.4	転倒予防	安部裕美子
2015.5	転倒予防	水野博彰
2015.1	腰痛予防	池田高超
2015.9	転倒予防	白幡雄大・安部裕美子
2015.11	転倒予防	鈴木雅仁・安部裕美子
2015.11	腰痛予防	小林健治

# 栄養管理部

【理念】 『食べることを通じてチーム医療の一翼を担い、  
患者様の健康回復に貢献するよう努めます』

## 【概要】

栄養管理部は、平 俊明医師を部長とし、栄養士6名（うち管理栄養士5名、栄養士1名）の病院職員が栄養管理業務を担当している。給食業務は一部委託での運用である。入院患者の栄養管理では、患者の栄養・喫食状態に基づいて、管理栄養士が医師・看護師と共に栄養管理計画を作成している。患者に対する栄養管理内容の説明は、受け持ち病棟ごとに管理栄養士が行ない、併せて患者の嗜好や喫食状況などを把握し個別対応による食事提供を心がけている。また、1食1食の個別対応により、喫食量の増加に繋げるとともに、低栄養状態や治療による摂食障害の患者に対しては、多職種のスタッフで構成したNST（栄養サポートチーム）により栄養状態の改善に取り組んでいる。特に本年度からは言語聴覚士との定期的な話し合いにより、嚥下食の改善に取り組んだ。

給食管理においては、嚥下対応のソフト食のメニュー変更、誕生食、化学療法による食欲不振の方には、にこにこ食（緩和食）、リクエスト食を継続し、嗜好、形態の考慮と摂取量の増加に委託業者とともに取り組んだ。行事食も毎月行い、季節感を大切に献立作成に取り組んだ。また、毎週木曜に開設している niko café (にこカフェ)は延 2,515 人に利用していただいた。

入院・外来患者に対しての栄養指導では、病棟担当栄養士が入院時栄養指導に力を入れ、入院時から治療にあわせた食事を食べていただき、患者自らが食事改善できるよう、より実践的な指導を行なった。

重点項目として、各病棟診療科での14のカンファレンスへ参画し、チーム医療で患者の栄養管理について検討し、また、委員会活動は、栄養管理委員会をはじめ、感染管理、クリニカルパス、DPC、医療事務検討、NST、褥瘡対策、リスクマネジメント部会などに参加した。

## 【栄養管理部人員構成】 平成28年3月31日現在

平 部長（耳鼻咽喉科部長兼務）

管理栄養士	2名	パート管理栄養士	3名	パート栄養士	1名	
配茶配膳者	10名	補助員	2名			
〈委託〉	管理栄養士	1名	栄養士	4名	調理師	7名
	調理員	9名	調理補助	4名	食器洗浄	7名

## 【業務動向】

給食数は入院患者数の減少に伴い、前年度に比べて約5%減少した。しかし、特別食率は57.2→67.1%（9.9%）と増えており、特に臍臓食、肝B食、減塩食、腎臓病食、心臓病食、カロリーコントロール食などの食数が増加している。入院時からの栄養士介入で患者

にあった治療食への変更と治療における食事管理の重要性への他職種への認識向上の傾向が認められたものとする。

栄養指導件数は前年に比べて96%（2,701→2,580件）に減少した。外来患者への指導が54%（553→254件）減少したことによる。これは糖尿病教室への参加者の減少による。しかし、入院栄養指導は4%（2,148→2,231件）増加し、糖尿病699件の73件増、脂質異常症が87件の42件増となっている。

今後も、治療の一環としての栄養指導の件数増加につなげていきたい。

【給食実施状況(2015.4.1~2016.3.31)】

1. 食種別 患者給食数 (単位:食)

食種		合計	全体比%	
一般食	常食	21,907	8.8	
	軟菜(米-5分)	52,617	21.2	
	3分粥	609	0.2	
	流動	6,370	2.6	
	計	81,503	32.8	
特別食	非加算	幼児	2,786	1.1
		離乳	301	0.1
		離乳アレルギー	25	0.0
		アレルギー	116	0.1
		消化不良	300	0.1
		出産祝い膳	95	0.0
		低残渣	8,113	3.3
		減塩	19,019	7.7
		カロリー制限	573	0.2
		生もの制限	4,224	1.7
		嚥下食	9,832	4.0
		にこにこ食	1,034	0.4
		濃厚流動(非加算)	6,092	2.5
		検査前低残渣	164	0.1
		腸疾患(非加算)	17	0.0
		腸検査(非加算)	2	0.0
		検査後	1,318	0.5
	非加算計	54,011	21.8	
	加算食	術後	5,687	2.3
		潰瘍・吐血	2,469	1.0
		肝A高たんぱく	28	0.0
		肝B低脂肪	1,119	0.5
		肝C	133	0.1
膵臓		2,261	0.9	
加算食	腎不全	13,182	5.3	
	透析	8,444	3.4	
	ネフローゼ	1,263	0.5	
	小児腎	0	0.0	
	妊娠高血圧症	150	0.1	
	糖尿病性腎症	6,752	2.7	
	心臓病	26,538	10.7	
	カロリー制限	40,705	16.4	
	腸疾患・腸炎	1,154	0.5	
	濃厚流動(加算)	1,567	0.6	
腸検査(加算)	330	0.1		
貧血	626	0.3		
加算計	112,408	45.4		
特食計	166,419	67.2		
合計	247,922	100.0		

2. 栄養指導件数 (単位:件)

	合計	入院	外来
腎臓病	255	192	63
妊娠高血圧症	0	0	0
心・高血圧	740	729	11
糖尿病	771	710	61
小児肥満	1	0	1
アレルギー	42	0	42
肝臓病	23	21	2
膵臓病	35	34	1
胃潰瘍・術後	164	163	1
人工透析	117	110	7
脂質異常症	106	87	19
クローン・腸炎	12	9	3
糖尿病性腎症	123	108	15
その他	57	53	4
非:アレルギー他	47	26	21
非:糖尿病教室	80	2	78
非:母級学級	7	0	7
総件数	2,580	2,244	336

非:栄養指導非加算



嗜好に応じた個食対応  
例: 南蛮真ナ〜人参・魚・タマネギ  
・ピーマン・生姜・酢禁止



ひとりのためのこどもの日 お祝い



誕生日いろいろ



医師によるピアノ生演奏 大晦日



おこカフェ



口からの最初の食事〜STと栄養士で確認

【イベント食実施状況】 ☆は、メッセージカード付き

実施日		イベント	行事献立
毎月	1日		散らし寿司
4月	8日 ☆	お花見弁当	お花見弁当、一口デザート
5月	5日 ☆	こどもの日	柏餅、豆ごはん
6月	25日 ☆	あじさい弁当	あじさい弁当、寒天
7月	7日 ☆	七夕	そうめん、水ようかん
	24日 ☆	土用の丑	うなぎ料理
8月	13日 ☆	暑中見舞い	冷やしうどん
9月	23日 ☆	秋分の日	栗ご飯、茶碗蒸し
10月	15日 ☆	紅葉弁当	紅葉弁当、くずまんじゅう
11月	14日 ☆	世界糖尿病デー	糖尿病献立
12月	22日	(小児病棟クリスマスデザートプレート)	
	24日 ☆	クリスマス	クリスマスロフ、デザート
	31日	大晦日	年越しそば
1月	1日 朝☆	雑煮	
	1日 夕	おせち料理	
	7日 ☆	七草粥	七草粥
2月	3日 ☆	節分	炊き込みご飯、福豆
	9日 ☆	“ふく”の日	ふくの刺し身
3月	3日 ☆	ひなまつり	ひなまんじゅう、散らし寿司

## 行事食



# 薬剤部

## 理 念

『患者様への安心、良質、適切な優しい薬物療法に寄与します』

## 基本方針

1. 常に患者様中心の医療を考え、医薬品の適正使用の推進を使命とします。
2. 「くすりの専門家」としての専門知識を携え、医療チームの一員として、高度医療を支えます。
3. 高い知識と技能の水準を維持するよう研鑽に努めます。

## 【スタッフおよび業務動向】

平成 27 年度は、薬剤部長以下、総薬剤師数 13 名（前年対比 1 名増となったが、1 名退職あり 13 名を維持）・調剤補助員 2 名のスタッフで、調剤・注射調剤・院内製剤・無菌製剤・薬品管理・麻薬管理・治験薬管理業務・医薬品情報管理（D I）・薬剤管理指導業務（病棟業務）・チーム医療への参画（感染対策チーム、栄養サポートチーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、リスクマネジメント、糖尿病教室チーム）に従事した。

今年度より薬局から薬剤部へ部署名が変更となった。

さらに薬剤部内の改修工事が行われる中、薬剤師 1 名の退職により病棟担当薬剤師の変更も余儀なくされた。しかしながら、薬剤管理指導算定件数は平成 26 年度実績の前年比平均 557 件/月から 558 件/月を維持、持参薬鑑別業務も平成 26 年度実績 500 件/月から 499 件/月と、月平均で 1 件下回ったもの、ほぼ同件数を維持することができた。

昨年度は長期実務実習生を 2 名受け入れていたが、本年度は 4 名受け入れることができた。薬学生の病院見学や、高校生の病院薬剤師職場体験を行うことにより病院薬剤師の社会的貢献も周知させることができた。

下関市薬剤師会においても医療安全委員会がさらに充実し、調剤事故過誤報告書・処方変更による再調製の依頼と報告・再調剤の薬薬連携運用も下関市立市民病院の方式が基本となり、下関市薬剤師会で運用されている。これは医療安全に対する当院薬剤部の評価が高いことを示す。



【平成 27 年度実績】

常備医薬品数（平成27年5月現在）

内服薬	594 品目
外用薬	223 品目
注射薬	489 品目
合計	1,306 品目

後発医薬品院内採用品目数

内服薬	53 品目 (8.9%)
外用薬	14 品目 (6.3%)
注射薬	25 品目 (5.1%)
合計	92 品目 (7.0%)

平成27年度薬事審議会結果

新規採用	18 品目
削除	10 品目
後発切替	4 品目

払出し管理薬品数

麻薬	24 品目
毒薬	21 品目
向精神薬	12 品目
全身麻酔薬	5 品目
PGE <sub>1</sub> 膈坐剤	1 品目
血漿分画製剤	22 品目
合計	85 品目

院内製剤件数

院内製剤	品目数	製剤件数
注射剤	1	467
外用剤	30	1,095
内用剤	0	0
合計	31	1,562

無菌製剤処理件数

	処理件数
T P N	596
抗がん剤	2,264
合計	2,860

治験薬管理業務

治験実施件数	症例数
10	14

処方箋枚数 (枚)

		年間合計	1日平均
外来処方箋	院内処方箋	10,080	41.3
	院外処方箋	73,493	301.2
入院処方箋		43,016	117.9
注射処方箋(入院)		77,134	211.3
注射処方箋(外来)		12,453	51.2
注射処方箋(外来化療)		1,077	4.4
麻薬処方箋	内服・外用	880	2.4
	注射	4,852	13.3
合計		5,732	15.7

院外処方箋発行率	87.9%
----------	-------

薬剤管理指導算定件数

		合計	月平均
患者数(人)		4,062	339
薬剤管理 指導 (件)	総算定数	6,708	559
	ハイリスク薬	2,819	235
	一般薬	3,889	324
加算(件)	麻薬指導	161	13
退院時指導(件)		2,199	183

医薬品鑑別件数

件数	剤数
5,331	42,917

化療レジメン管理

レジメン数
202

外来患者薬剤情報提供件数

一般	手帳
3,188	3,188

血中濃度解析件数(抗MRSA薬)

初期投与設計	1
TDM解析	10

医薬品情報提供(紙媒体)

・医薬品集2015年度追補版4回発行
--------------------

長期実務実習生受入れ実績

3ヶ月間：4名
---------

【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2015.8.30	山口県の医療機関における「免疫抑制・化学療法によるB型肝炎再活性化」対策実施に関する現状と課題	平岡ひろ子	伊東真由子、岡智之、尾崎正和、木下英樹、蔵田康秀、塚原邦浩、光末尚代、山本武史、佐藤真也、古川裕之	山口県病院薬剤師会薬学研究会第184回例会	山口県セミナーパーク
2015.12.5	当院における簡易の現状と今後の課題	藤川雄也	高橋理恵、河野典子、増元智子、渡辺ルミ、佐藤美津子、岩崎加津子、中川初美、吉見文子、鈴木宏往、尾中貞夫	第8回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会	海峽メッセ 下関

【薬剤師の他の資格取得者】

日本病院薬剤師会	がん薬物療法認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会	生涯研修履修認定薬剤師	5名
日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師	3名
日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	4名
やまぐち糖尿病療養指導士		1名

## 地域医療連携室

当院では平成 14 年 5 月から地域医療連携室の活動をしています。

病病連携、病診連携を推進するために、以下のことを特徴とした業務を行っています。

【コンセプト】 地域の先生方との協力を推進する管制塔としての役割を果たす。

### 【業務】

1. 紹介患者の予約
2. 紹介患者の返書の徹底  
返書および退院サマリーの送付の徹底（把握と督促）
3. 逆紹介の把握
4. 他医療機関への紹介予約
5. 医療機関への診療情報提供の依頼
6. 病床管理
7. 退院調整・相談業務
8. 広報に関して
9. 奇兵隊ネット（連携医療機関へのカルテ開示）

【会議】 地域医療連携推進委員会

病床管理委員会

### 【紹介患者予約システムの特徴】

1. ベテラン看護師（スタッフ参照）が対応します（専用電話線・FAXにて対応）。  
診察医師の指定にも十分対応しています。  
疑問や不明な点があれば、何なりとご連絡ください。
2. **事前予約システムです。** ファックスなどで事前にご連絡頂ければ、おおよそ 5 分以内にご紹介頂ける患者の予約をします。連絡をいただいた時に、電子カルテの患者登録をいたします。そのための待ち時間はありません。
3. 紹介患者専用の受付窓口を設けました。紹介患者受付にお越しく下さい。  
保険証の確認等をさせて頂き、各外来までご案内いたします。
4. 予約頂いた時間に診察を開始いたします。診察開始まで約 30 分以内です。
5. **紹介頂いた先生方への返事を徹底します。**  
紹介状に対する返事の状態をチェックし、タイムリーに返事を送付いたします。  
平成 20 年 1 月から、退院サマリーの送付も徹底させています。
6. **逆紹介を推進します。** 紹介された患者は当院での医療が終了した時点で紹介元へ逆紹介します。

【スタッフ】

連携室室長（副院長）	坂井 尚二
副室長（副看護部長）	河田 うしを
副室長（社会福祉士）	金子 佳子
相談員	葛目 知沙 ・ 水永 佳歩 ・ 八垣 悦子 ・ 近藤 裕子
事務担当	竹中 順子 ・ 村上貴代美

【専用回線】

地域医療連携室	TEL：083-224-3860
	TEL：083-224-3861

【活動状況】

1. 紹介数

	2013年度	比率 (%)	2014年度	比率 (%)	2015年度	比率 (%)
連携室取り扱い予約	4,538	69	5,458	70	6,099	66
予約無しの紹介	2,021	31	2,364	30	3,117	34
合 計	6,559	100	7,822	100	9,216	100

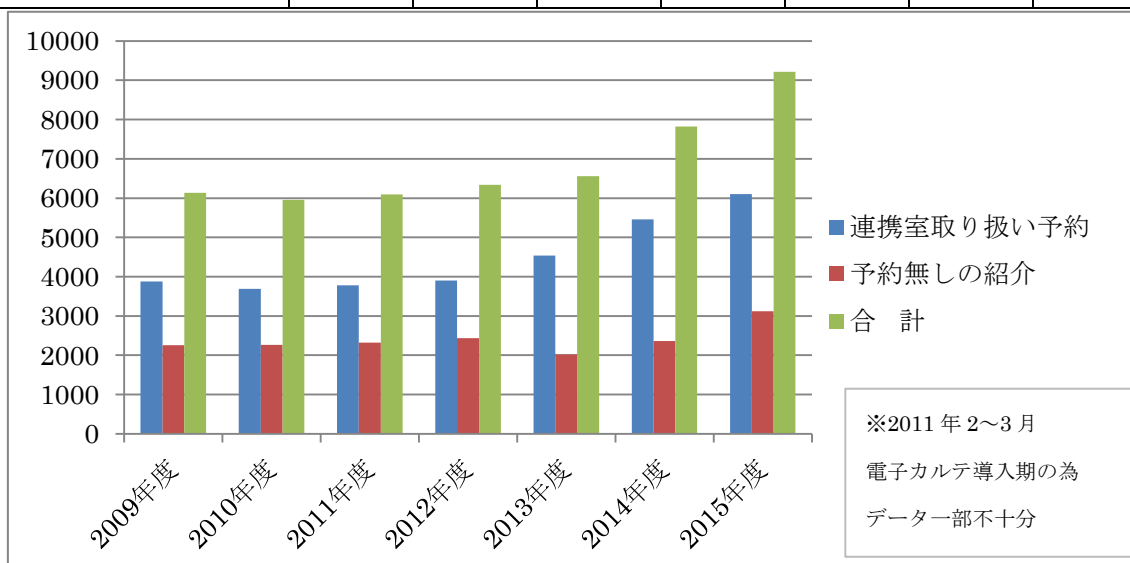
連携室の取り扱い（予約件数）は約70%で、地域の医療機関に活用されています。

当院の連携室のもう一つの特徴に、病床管理があげられます。各病棟の空床状況を把握していますので、入院依頼についてもすぐに対応することができます。

ご紹介頂いたその日の入院は、紹介の約60%です。

紹介総数

年 度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
連携室取り扱い予約	3,874	3,694	3,778	3,900	4,538	5,458	6,099
予約無しの紹介	2,258	2,266	2,320	2,435	2,021	2,364	3,117
合 計	6,132	5,960	6,098	6,335	6,559	7,822	9,216



## 2. 紹介率 (%)

	紹介率	逆紹介率
2012年度	32.9	43.4
2013年度	40.2	58.7
2014年度	46.6	102.3
2015年度	62.0	125.3

## 3. 奇兵隊ネットによるカルテ開示数

	施設数	総開示数
2013年度	8	101
2014年度	17	418
2015年度	17	459

## 4. 相談件数 (退院調整を含む)

	相談総数	がん相談
2014年度	6,164	472
2015年度	8,707	469

(内訳)

	全 体	医療療養 生活相談	がん相談	患者サポート
4月	582	514	68	
5月	612	579	33	
6月	666	625	41	
7月	653	580	50	23
8月	700	635	53	12
9月	602	545	40	17
10月	818	759	43	16
11月	828	771	41	16
12月	682	647	25	10
1月	777	715	23	39
2月	960	917	20	23
3月	827	783	32	12
合 計	8,707	8,070	469	168

## 5. 広報に関して

平成27年2月18日「下関市立市民病院 地域医療連携の会」を開催した。

他医療機関より74名の参加があり、当院より63名（医師・看護師・MSW・理学療法士・事務）が参加し、症例検討及び、交流会を行い、地域連携に努めることができた。

# 医療安全対策室

## 【概要】

医療安全を組織横断的に推進するために、平成19年4月1日「医療安全対策室」を設置した。医療事故の未然及び再発防止と発生時の適切な対応を図るため、システムやマニュアルの整備、医療安全に係る研修の企画・運営、各部門間の調整（調査）を中心になって行っている。さらに、平成27年度から各部署のリスクマネージャーによる医療安全RMラウンドを2回/月実施し、マニュアルやルールの周知状況や実践状況を確認するとともに、問題点の抽出を行い改善につなげるよう取り組んだ。

医療に関する患者からのクレームや有害事象発生時の対応では、医療安全対策室は患者と医療者を結ぶ医療対話推進者としての役割を求められている。インシデント事例は、各部署の分析に参加し、実行可能な対策を目指し再発防止につながるよう努めた。

チーム医療と医療安全推進のためにはよりよいコミュニケーションは不可欠であり、当院においても院内コミュニケーションの改善の必要性は高い。平成27年度は安全管理委員会の年間目標を「安全と安心のチーム医療」とし、昨年度に引き続き多職種間のコミュニケーションの改善に取り組んだ。目標達成のため医療安全対策室が核となって、教育・実施・評価までを関与した。

また、昨年度に引き続き毎朝室員によるミーティングとカンファレンスを行い、情報の共有とタイムリーな対応に努めた。

## 【医療安全対策室の構成】

室長：前田博敬（副院長）

室長補佐：河田うしを（副看護部長）

専従リスクマネージャー：大久保典子（主任看護師）

室員：大平佳子 4階西病棟師長

山中裕子 3階西主任看護師

吉田英子 5階東病棟主任看護師

三隅美津枝 放射線部技師長

城山恵介 医事グループ主任

（室員全員兼任）

## 【基本理念】

「みて きいて かんじて」

## 【基本方針】

- 1) 患者の安全を最優先に考える
- 2) 患者と医療従事者との対等な関係を築く
- 3) 院内の安全文化の向上
- 4) 組織全体のシステムの整備

【平成 27 年度の主な活動】

- ①「医療安全対策室だより」12 回発行
- ②医療安全院内巡視（医療安全RMラウンド・感染ラウンド・転倒転落防止啓発ラウンド他）
- ③「院内安全情報」12 回発行
- ④研修の企画・運営

開催日	テーマ	講師	参加者
H27.4.24	BLS 講習会	院内 BLS 講習会チーム	新採用看護師 20 名
H27.5.27	エコーガイド下血管穿刺法	池内 忠氏 (コビィディエンジャパン株式会社)	医師 9 名 看護師 2 名 臨床工学部 2 名
H27.6.11	コーチング流コミュニケーションによる医療人のやりがい作り～医療安全に向けて～	畑埜 義雄氏 (畑埜クロスマネジメン ト代表)	院内 136 名 院外 59 名
H27.6.24	知って得するMR I 造影剤 ～MR I 造影剤の副作用って？～	山田 真由氏 (バイエル製薬株式会社)	56 名
H27.7.2	医療事故調査制度について ～仕組みを把握する～	大江 和人氏 (田辺三菱製薬株式会社)	172 名
H27.7.21	糖尿病研修会	江口 透氏 (糖尿病内分泌代謝内科)	161 名
H27.7.22 H27.7.27 H27.7.28 H27.8.5	コメディカルのための BLS 講習会	院内 BLS 講習会チーム	18 名
H27.9.9	医療機関における情報セキュリティ	松山 征嗣氏 (トレンドマイクロ株式会社)	159 名
H27.10.8	病院医療安全の視点から考えた死亡診断書記載の問題点	池田 典昭氏 (九州大学大学院医学研究院 法医学分野教授)	院内 111 名 院外 13 名
H27.9 月 ～11 月	糖尿病勉強会 (部署毎に 12 回開催)	江口 透氏 (糖尿病内分泌代謝内科)	看護部
H27.11.25	医療安全とコミュニケーション	大江 和人氏 (田辺三菱製薬株式会社)	70 名
H28.2.10	第 12 回リスクマネジメント大会 インシデント事例より分析、改善発表・茶案劇 医療安全対策室よりトピックス報告		105 名

- ⑤患者クレーム対応など患者、家族への対応
- ⑥BLS ヘルスケアプロバイダーコース山口トレーニングサイト誘致 (BLS 1回・ACLS 1回)
- ⑦医療安全に関する院内研修会講師 (委託を含む全職員・研修医・新人看護師・看護助手・看護学生への研修会) 等

開催日	内 容	講 師
H27.4.2	新人オリエンテーション 医療安全研修会	大久保典子 (専従リスクマネージャー)
H.27.4.8	研修医早朝講義 医療安全	前田 博敬(副院長)
H27.5.7	5月採用者新人オリエンテーション	大久保典子 (専従リスクマネージャー)
H27.8.5	中学生体験学習 BLS講習	〃
H27.9.2	9月採用者新人オリエンテーション	〃
H27.9.15	臨地実習事前オリエンテーション (西南女学院大学保健福祉学部) 「医療安全研修」	〃
H27.10.2	10月採用者新人オリエンテーション	〃
H27.10.5	看護記録の書き方について (訴訟等をふまえて)	〃
H27.11.2	11月採用者新人オリエンテーション	〃
H27.11.4	臨地実習事前オリエンテーション (ウエストジャパン看護専門学校) 「医療安全研修」	〃
H27.11.13	高校生体験学習 BLS講習	〃
H28.1.4	1月採用者新人オリエンテーション	〃
H28.1.22	臨地実習事前オリエンテーション (下関看護リハビリテーション学校) 「医療安全研修」	〃
H28.1.29	臨地実習事前オリエンテーション (下関看護専門学校) 「医療安全研修」	〃
H27.9.28 ～10.30 (15回)	医療事故調査制度の仕組み ～その目的と私たちがすべきこと～	〃
H27.11.24 ～12.10 (12回)	医療安全とコミュニケーション	大久保典子 (専従リスクマネージャー) 城山 恵介 (医事グループ)



⑧調査

・肺血栓塞栓症リスク判定と予防策の指示出し調査（4回／年 定点調査）

⑨院外研修への参加

開催日	内 容	会 場	主 催	参加者
H27.5.26	第1回下関・長門・萩ブロック医療安全管理者交流会	萩域医療連携支援センター	山口県看護協会	大久保典子
H27.6.30	第1回下関ブロック医療安全管理者交流会	安岡病院	山口県看護協会	大久保典子
H27.7.10	苦情・クレーム・難クレーム対応研修会	損保ジャパン日本興亜岡山ビル	公私病連共済	城山 恵介
H27.7.31	医療安全管理者養成研修公開講座	山口県看護研修会館	山口県看護協会	大久保典子
H27.8.7	医療安全管理者養成研修公開講座	山口県看護研修会館	山口県看護協会	大久保典子
H27.8月 ～9月	医療安全管理者養成研修（45時間）	山口県看護研修会館	山口県看護協会	柴田優理恵
H27.8.22 ～23	臨床コーチングの実践 ～技から心へ～	神戸大学医学部 神緑会館	日本臨床コーチング研究会	大久保典子
H27.8.30	院内事故調査の手法を学ぶ	京都府医師会館	医療安全全国共同行動	大久保典子
H27.9.14	医療事故調査制度について	広島国際会議場・広島県合同庁舎	厚生労働省 中国四国厚生局	大久保典子
H27.9.15	第2回下関ブロック医療安全管理者交流会	安岡病院	山口県看護協会	大久保典子
H27.9.28	医療事故調査制度について (弁護士による講演)	下関医療センター	下関医療センター	大久保典子
H27.10.31	管理者のための医療安全セミナー	グランキューブ大阪	パラマウントベッド株式会社	谷畔 由香 大久保典子
H27.11.17	第3回下関ブロック医療安全管理者交流会	安岡病院	山口県看護協会	大久保典子
H27.12. 14～15 H28.1.31 ～2.2	平成27年医療安全ワークショップ	広島国際会議場・広島県合同庁舎	厚生労働省 中国四国厚生局	大久保典子

開催日	内 容	会 場	主 催	参加者
H28.1.16	ナースのうつ病とシステムづくり	博多	学研メディカルサポート	湯本ひとみ 坂本由紀子
H28.1.17	医療事故調査制度と看護管理者の役割	山口県看護研修会館	山口県看護協会	大久保典子
H28.1.19	第4回下関ブロック医療安全管理者交流会	安岡病院	山口県看護協会	大久保典子
H28.2.12	第2回下関・長門・萩ブロック医療安全管理者交流会	長門総合病院	山口県看護協会	大久保典子
H28.2.21	クレーム院内暴力対応研修	損保ジャパン日本興亜ビル	日本看護協会	小戸美智子 下野 美奈 大久保典子
H28.2.27	医療事故・紛争対応研究会年次カンファレンス	パシフィコ横浜	医療事故・紛争対応研究会	大久保典子
H28.2.28	医療安全管理者スキルアップ研修	山口県看護研修会館	山口県看護協会	大久保典子

⑩研究活動（雑誌掲載）

論文・症例・原著等	著 者	雑誌名等	発行所
医療安全管理“おひとりさま”の工夫 周りを巻き込むコミュニケーションで“脱！おひとりさま”	大久保典子	病院安全教育 隔月刊誌（10－11月号） 2015年10月20日発行	日総研出版

# ドクターズクラーク室

## 【概要】

医師事務作業軽減のために 10 名配置された。  
(医師事務作業補助体制加算 2 の届出区分 40 対 1)

## 【主な業務実績（平成 27 年 1 月～12 月）】

主な業務内容	件数
診断書作成補助	6,353
実施済み注射・処方代行入力	44,184
サマリー作成補助	405
外科系・心臓血管外科症例登録補助（NCD）	651
循環器内科症登録補助（J-PCI・J-EVT）	330
心臓血管外科開心術症例登録補助（JACVSD）	123
心臓血管外科術式登録補助	261
手術部位感染データベース登録補助	378
麻酔チャート登録補助（日本麻酔科学会）	1,296
外来診療補助	—

6 階西ドクターズクラーク室にて診断書、上記各種症例登録補助などを行った。

8 月より呼吸器外科・整形外科、9 月より腎臓内科外来配置が開始された。12 月現在で合計 4 名が配置された(整形外科 2 名 呼吸器外科 1 名 腎臓内科 1 名)。

医師事務作業補助者は、行ってよい業務と行ってはならない業務が定められており、定められた内容に基づき当院でのルールに従って業務を行った。配置されている者は主に午前中は外来診療補助を行い、午後から診断書、症例登録補助を行った。

# 薬事審議会

## 【目的・委員】

当審議会は医薬品の診療上の有効性及び安全性及び経済効率を考えた合理的運営を図ることを目的とし、常備医薬品の選定や当院で使用する医薬品の問題を審議する為に設置されている。

当審議会は、院長、副院長 4 名、医局幹事、感染管理委員会代表、医局選出医師 13 名、歯科医師、看護部長、事務部長、事務部 4 名、薬剤部長、薬剤師 2 名の総数 30 名の委員で構成されている。

## 【動向】

平成 27 年度は、5 月、9 月、11 月、2 月の 4 回審議会を開催し、常備医薬品に 18 品目新規採用し、10 品目を削除した。長期不使用薬や、複数規格、同種同効薬の整理を積極的に行い、採用品目数の適正化に尽くした。なお、後発薬の採用は 4 品目であった。

## 【平成 27 年度 薬事審議会実績】

	品目数
新規採用	18 品目
削除	10 品目
後発切替	4 品目

# 感染管理委員会

当委員会は患者様や職員の交叉感染を防ぐため活動を行っています。また感染症法上、当院は第2種感染症指定医療機関施設であり、次の新型インフルエンザ等に備えています。

かねてより全国で数少ない日本環境感染学会の教育認定施設、また日本感染症学会の認定施設として多数の感染症専門医を輩出しています。これを中心とした地域のネットワーク造りの実績が地域連携につながり、現在も地域で中心的役割を果たしています。院内では研修回数を増やし、出前セミナーも行っています。

さらに日本化学療法学会の抗菌化学療法指導医の2人目が誕生しました。抗菌薬の届出制に加え、許可制を行っており、アフターケアまで抗菌薬ラウンドにて行い、Antimicrobial Stewardship Program（抗菌薬適正使用）を実践しています。

次から毎月の定例会、感染セミナーおよび業績（発表、論文）について報告します。

## 1. 定例会

毎月、感染情報レポートと抗菌薬使用状況から開始される。主要なトピックを振り返る。

### ● 感染情報レポート

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、ノロウイルス、クロストリジウム・ディフィシル感染症（いわゆる偽膜性腸炎、抗菌薬関連下痢症）、インフルエンザなどについて毎月報告される。院内の病棟で集中して発生している場合、リアルタイムで介入している。

### ● 抗菌薬使用状況

許可制としている広域剤（カルバペネム系、セフェピームなど）や届出制としている抗MRSA薬について報告している。その指標としてWHOによる抗菌薬使用密度（AUD）を用い、地域の近隣病院と比較して多寡による検討を行っている。

### ● 地域連携

10年余、下関耐性菌研究会として医師・検査技師の地域連携活動を行ってきた。これを認定看護師、薬剤師を含めて発展的に解消し「感染対策ネットワーク下関」とし、11月15日に学術集会を開催した。反響が大きく、演者のスライドを当院の公式Webページにて開示することとした。

### ● 環境整備

透析センターや外来化学療法室を含む新館が秋にオープンした前後、米国疾病予防センター（CDC）ガイドラインなどに基づいた環境整備を準備・点検した。

### ● アウトブレイク対策

季節性インフルエンザが季節外れに発生することがあったが、発熱の鑑別で常に本症の検査を行っており、最小限の流行で食い止めた。

### ● 渡航外来・海外感染症

法律上の使命もあり、中東呼吸器症候群（MERS）の韓国アウトブレイクにおいて、日夜を問わず感染症病棟における発熱外来にて対応した。この遂行において、管轄の保健所と密接な連携をとった。

## 2. 感染管理チーム（ICT）・抗菌薬適正使用（ASP）ラウンド

毎週火曜日、ICT 会議を行うと共に、ASP ラウンドをカルテ上および病室訪問で行っている。許可制・届出制の前提は抗菌薬投与前の血液培養検査採取などであり、これらの培養結果に基づくデ・エスカレーション（狭域化）についても点検している。

## 3. ICT・環境ラウンド

毎週木曜日、全部署をチェックリストを利用して、点検している。

## 4. 感染セミナー

開催年月日	テーマ
2015. 01. 05	看護部新規採用者研修感染防止
2015. 01. 05	日常の感染防止対策
2015. 01. 15	1階東病棟での感染対策
2015. 01. 20	手指衛生の推進
2015. 02. 02	看護部新規採用者研修感染防止
2015. 02. 09	膿胸の診断と治療
2015. 02. 26	手指衛生
2015. 02. 27	手指衛生
2015. 03. 02	手指衛生
2015. 03. 03	結核管理
2015. 03. 03	手指衛生
2015. 03. 07	結核対策
2015. 03. 10	感染防止の基本
2015. 03. 11	結核対策
2015. 03. 11	感染防止の基礎
2015. 03. 11	手指衛生
2015. 04. 01	当院の感染管理
2015. 04. 03	結核について
2015. 04. 08	感染防止の基本 職業感染予防
2015. 04. 21	血管造影室における感染防止
2015. 04. 22	HIV 針刺し対策
2015. 04. 27	結核症例呈示と対応
2015. 05. 07	感染防止の基本 職業感染予防
2015. 05. 07	結核について
2015. 05. 07	脊椎術後感染症
2015. 05. 20	感染管理
2015. 05. 26	結核について
2015. 05. 27	抗菌薬
2015. 05. 27	ノロウイルス感染症

2015.06.09	MERS 感染症対策
2015.06.11	MERS 感染症対策
2015.06.15	発熱外来時について
2015.06.15	MERS 感染症対策
2015.06.16	MERS 感染症対策
2015.06.17	感染症病棟での対応
2015.06.18	MERS 感染症対策
2015.06.18	感染防止の基本
2015.06.18	MERS 感染症対策
2015.06.18	感染症病棟での対応
2015.06.18	MERS 感染症対策
2015.06.19	感染症病棟における清掃
2015.06.19	感染症病棟での対応
2015.07.02	N95 マスクの取り扱いについて
2015.07.13	抗菌薬について
2015.07.16	外来における職業感染防止
2015.07.22	N95 マスクの取り扱いについて
2015.08.04	個人防護具の適切な使用
2015.08.06	最近の感染症事情とその予防対策
2015.08.12	手指衛生について
2015.08.17	感染経路別予防策
2015.08.17	手指衛生について
2015.09.02	感染防止の基本 職業感染予防
2015.10.02	感染防止の基本 職業感染予防
2015.10.02	ノロウイルス感染症
2015.11.04	感染防止の基本
2015.11.05	新興感染症
2015.11.16	検査室での感染予防
2015.11.17	整形外科領域における感染管理
2015.11.17	中東呼吸器症候群、その前と後
2015.11.19	中東呼吸器症候群、その前と後
2015.12.04	中東呼吸器症候群、その前と後
2015.12.07	感染対策の実際
2015.12.08	感染対策の実際
2015.12.09	感染対策の実際
2015.12.10	感染対策の実際
2015.12.11	整形外科領域における術後感染予防抗菌薬
2015.12.14	感染対策の実際
2015.12.10	感染対策の実際

2015. 12. 17	病院で働く人にとってリスクとなる感染症
2015. 12. 18	インフルエンザワクチン

## 5. 業績

### <発表、論文>

開催年月日	演題名	筆頭演者	学会名	場所
2015. 02. 21	施設における個人防護具の使用および手指衛生の現状	浅野郁代	日本環境感染学会	神戸国際展示場
2015. 06. 08	抗菌薬使用密度と2014年4病院緑膿菌の感受性	吉田順一	感染対策ネットワーク下関	下関市立市民病院
2015. 07. 18	Surgical site infection (SSI) について	吉田順一	九州大学病院グローバル感染症センター人材育成プログラム	九州大学病院
2015. 09. 20	(Clostridium difficile Prevention and Treatment) Phase 3 Double-Blind Study of Bezlotoxumab (BEZ) Alone & with Actoxumab (ACT) for Prevention of Recurrent C. difficile Infection (rCDI) in Patients on Standard of Care (SoC) Antibiotics (MODIFY II)	Junichi Yoshida (共著)	ICAAC/ICC 2015	San Diego, California

### <論文>

論文・症例・原著等	著者	共同著者等	雑誌名等	年度
Tuberculosis in and after chest surgery: A-15patient study in a Japanese community hospital	Junichi Yoshida	Masaaki Inoue Masatoshi Kanayama Yukiko Harada Daisei Yasuda Nobuyuki Hirose	日本外科感染症学会雑誌 12巻1号 1頁～8頁	2015
結核の外科治療、日本の現状と問題点	吉田順一		ラジオ NIKKEI 感染症 TODAY	2015
MERS 拡大 県内も警戒			山口新聞 2015年6月17日	2015



## 保険委員会

保険委員会では、病院の経営上最も重要な収入である診療報酬の保険請求について、毎月1回会義を開催し、検証、検討を行なっている。

主な活動として、保険請求を行った診療のうち、減点査定されたものに対し査定の適否を検討し、不当と思われる査定に対しては、審査支払機関へ再審査を依頼している。

また、減点査定一覧表を各医師に配布することで審査の動向を把握し、適宜減点査定されないよう注意喚起を行なっている。

なお、平成27年度の診療報酬保険請求査定減点状況は以下のとおりで、外来及び入院診療を合わせた査定減点率は前年並みであったが、査定減点件数については前年を大きく下回り、良好な成績であった。

社会保険審査支払基金及び国保連合会では、査定の強化、厳正化を進めており、当院としても請求前点検の実施強化など、引き続き、査定減の縮小化に向け取り組む必要がある。

【査定減点数】

(件数)

	外来	入院	合計
4月	167	302	469
5月	205	298	503
6月	188	198	386
7月	157	224	381
8月	126	176	302
9月	144	202	346
10月	147	213	360
11月	134	148	282
12月	155	157	312
1月	151	192	343
2月	183	205	388
3月	139	202	341
合計	1,896	2,517	4,413
前年	1,991	3,671	5,662

【減点率】

(%)

外来	入院	合計
0.30	0.47	0.43
0.25	0.56	0.49
1.00	0.27	0.46
0.39	0.41	0.41
0.61	0.34	0.41
0.18	0.59	0.48
0.14	0.37	0.31
0.17	0.27	0.24
0.65	0.21	0.32
0.24	0.28	0.27
0.43	0.52	0.50
0.30	0.34	0.33
0.39	0.39	0.39
0.26	0.44	0.40

# 輸血療法委員会

## 【構成】

委員長：上野 安孝 副院長

委員：13名（院長、副院長、医師、看護師長、看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務局より構成。自己血責任医師2名、学会認定自己血輸血看護師2名、認定輸血検査技師1名および医療安全対策室専従リスクマネージャーを含む）

## 【活動状況】

今年度は病院機能評価受審準備を含め、血液製剤の適正使用の推進と輸血療法の安全性向上、院内における運用に関する整備や見直し・改善を目標として活動を行った。

輸血療法は多職種・多部署の連携と協力によってはじめて安全で円滑に業務が遂行できることを念頭に置き、情報提供や啓発活動に積極的に取り組み、年間6回の委員会だけでなく、医局会、師長会などをはじめ、委員会における協議内容の周知にも注力した。

（主な協議内容）

1. 血液製剤の依頼・使用状況に関する解析、報告
2. 適正使用に関する啓発
3. 輸血同意書の改定（輸血及び血漿分画製剤の使用に関する説明と同意書）
4. 輸血チェックリストの運用案追加
5. 外来輸血患者に対する副作用発症時の対応
6. 自己血貯血・輸血件数の増加に伴う諸問題への対応
7. 緊急輸血への対応
8. 異型適合血輸血への対応
9. 輸血依頼に関する諸問題への対策
10. 院内輸血運用に関する見直し
11. 看護師への輸血に関する実態調査の実施
12. 輸血前後感染症検査実施の啓発活動
13. インシデント事例の検証と再発防止対策
14. 病院機能評価受審にかかる準備等

## 【輸血療法関連実績】

1. 血液製剤等使用量（平成27年4月～平成28年3月）

輸血依頼総件数	2,442 件	
輸血患者数（述べ数）	615 名	
血液製剤総使用量	10,271 単位	(3,689 本)
赤血球製剤（Ir-RBC-LR）	3,620 単位	(1,812 本)
新鮮凍結血漿（FFP-LR）	1,374 単位	(684 本)

血小板製剤 (Ir-PC-LR)	4,470 単位	(447 本)
自己血 (貯血式)	807 単位	(746 本)
自己血 (回収式)	90,602mL	(167 件)
アルブミン製剤	9387, 5g	(853 本)

## 2. 貯血式自己血貯血量 (平成27年4月～平成28年3月)

症例数	226 例	
自己血貯血量	822 単位	(756 本)

## 3. 輸血管理料

前年に引き続き、輸血管理料 I および輸血適正使用加算の算定条件を十分に満たしている。同種血輸血については、1人当たりに対する輸血量は減少しているが、全体的に症例数が増加していること、また自己血輸血のみ使用する手術症例数が増加したことより、算定件数は昨年度よりも増加し、1,027 件が対象となった。貯血式自己血輸血管理体制加算も算定条件を満たしており、対象件数は 212 件であった。

### 【副作用監視状況】

#### 1. 輸血副作用報告

輸血副反応ガイド (日本輸血・細胞治療学会) に沿って、症状を 17 項目に分類、製剤ごとの報告とした。輸血中・後の副作用報告は 83 件、いずれも非溶血性副作用のみであり、またグレード 1 (非重篤) に分類されるものであった。

個々の報告例について解析を行ったが、現疾患に起因するものや手術後の発熱等と鑑別ができないものが主体であり、特に原因検索や日赤への副作用報告を要する例は認めなかった。

対象製剤種		RBC	FFP	PC	自己血	計
対象製剤本数		42	2	13	26	83
患者数 (重複あり)		36	2	8	23	69
症状項目		報告数 (重複あり)				
1	発熱	32	1	6	24	63
2	悪寒・戦慄	2	0	0	0	2
3	熱感・ほてり	3	1	1	1	6
4	掻痒感・かゆみ	8	1	3	0	12
5	発赤・顔面紅潮	3	1	1	0	5
6	発疹・蕁麻疹	3	0	4	0	7
7	呼吸困難	0	0	0	0	0
8	嘔気・嘔吐	0	0	0	2	2
9	胸痛・腹痛・腰背部痛	0	0	0	0	0
10	頭痛・頭重感	0	0	0	2	2
11	血圧低下	0	0	0	0	0

12	血圧上昇	1	0	1	1	3
13	動悸・頻脈	1	0	0	0	1
14	血管痛	0	0	0	0	0
15	意識障害	0	0	0	0	0
16	赤褐色尿（血色素尿）	0	0	0	0	0
17	その他	0	0	0	1	1

## 2. 輸血前後感染症マーカー検査

厚生労働省「輸血療法の実施に関する指針」「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」にのっとり、輸血前感染症マーカー検査 458 件、輸血後感染症マーカー検査 156 件を実施した。輸血後肝炎をはじめとした感染性輸血副作用は認められなかった。

## 3. 遡及調査

日本赤十字社からの通知による遡及調査対象は2件であった。

前年度同様、すべて日本赤十字社の献血者血液適合判定基準引き上げに伴うものであり、受血者の健康被害につながるものは認められなかった。

当該製剤の調査対象時期が平成15年および20年と輸血後期間が経過しているものであったが、輸血用血液製剤の使用記録保管と検索システムの強化、輸血部門における情報保管により、いずれの製剤においても当該製剤の使用状況と対象患者の情報について追跡調査することが可能であった。

## 【その他の活動】

### 1. 教育活動

院内職員を対象に、輸血療法に関する研修を行い、輸血療法委員会委員がその教育活動に講師として参加・協力した。

輸血に関する新人看護師研修	主任 看護師 学会認定自己血輸血看護師 副主任 看護師 学会認定自己血輸血看護師	柴田 千春 田村 將子
輸血検査に関する注意点	主任 臨床検査技師 認定輸血検査技師	大藪 優子
輸血療法に関する病棟説明会	主任 臨床検査技師 認定輸血検査技師	大藪 優子

### 2. 対外活動

#### (1) 山口県輸血療法委員会合同会議への出席

山口県健康福祉部薬務課主催の山口県輸血療法委員会合同会議へ出席し、山口県内の献血および血液製剤の供給・使用状況について協議を行った。

また、薬務課の依頼により、当院の自己血貯血・輸血に関する状況についての発表

を行った。

演題：「自己血輸血に関する院内での取り組み」

演者：田村 将子（副主任 看護師、学会認定自己血輸血看護師）

(2) 輸血用血液の供給に関する懇談会への出席

山口県赤十字血液センター主催の懇談会へ出席し、中四国ブロック赤十字血液センターの広域運営体制に関する諸問題、および山口県赤十字血液センター西部供給出張所（下関市・山陽小野田市を管轄）による血液製剤供給体制に関する問題点について、県内医療機関の代表者とともに協議した。

(3) 各種調査への協力

厚生労働省をはじめとする種々の輸血療法関連調査について、調査協力および回答を行った。

遡及調査と使用状況・受血者情報調査	日本赤十字社
血液事業の広域運営体制に関する調査	日本赤十字社
輸血療法の実施に関する調査	山口県健康福祉部薬務課
山口県における供給体制変更に関する調査	山口県赤十字血液センター
山口県輸血療法委員会合同会議事前調査	山口県健康福祉部薬務局
血液製剤使用実態調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血業務に関する総合的調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血製剤年間使用量に関する総合的調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課

# 治験審査委員会

## 【目的】

医薬品の臨床試験の実施に関する省令(GCP)により、病院長による設置が義務付けられ、治験依頼者（製薬会社）が立案した治験計画が、科学的、倫理的及び医学的に適正であるか、また更に被験者の立場に立ち、その妥当性等、治験を実施するに当たり必要な事項について審議する。

## 【委員構成】

医師 3 名、薬剤師 1 名、看護師 1 名、事務局職員 2 名、外部委員 2 名の 計 9 名

## 【平成 27 年度開催実績】 年 1 2 回

## 【平成 27 年度実績】

昨年度から実施の治験に加えて、セレン欠乏症に対する FPF3400、関節リウマチに対する BMS-188667 および YLB113、C.difficile ワクチン、慢性腰痛症に対する Tanezumab 1059 / 1063 (2 試験) が新規に承認され開始された。

治験名称	依頼会社名	診療科
原発性骨粗鬆症による急性期脊椎圧迫骨折に対する SJ-11001-A と SJ-11001-B の安全性及び有効性を評価する多施設共同治験	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社メディカルカンパニー	整形外科
日本人の MRSA 感染症（皮膚・軟部組織感染症又はそれに伴う敗血症）患者における BAY 1192631 の有効性及び安全性についてリネゾリドと比較検討することを目的とした多施設共同、前向き、実薬対照、無作為化、非盲検比較試験	バイエル薬品株式会社	感染管理室 (呼吸器外科)
OPT-80 第 3 相試験 - Clostridium difficile 関連下痢症患者 (CDAD) を対象としたバンコマイシン (VCM) 対照二重盲検無作為化並行群間比較試験 -	アステラス製薬株式会社	感染管理室 (呼吸器外科)
市中肺炎患者を対象とした T-4288 の臨床第 II 相試験 - ランダム化、多施設共同、二重盲検試験 -	富山化学工業株式会社	感染管理室 (呼吸器外科)
セレンの補充を必要とする患者を対象とした FPF3400 の長期投与試験 - 多施設共同オープン試験 -	藤本製薬株式会社	救急科
メトトレキサートに対して効果不十分な活動性関節リウマチ患者を対象としたアバタセプトのメトトレキサート併用療法とメトトレキサート単独療法の有効性及び安全性を検討する多施設共同ランダム化二重盲検試験 (第 IV 相臨床試験)	ブリストル・マイヤーズ株式会社	内科

治験名称	依頼会社名	診療科
クロストリジウム・ディフィシル感染のリスクにさらされている被験者を対象としたクロストリジウム・ディフィシルトキソイドワクチンの有効性、免疫原性、安全性試験	サノフィ株式会社	感染管理室 (呼吸器外科)
A Comparative Study to Assess the Efficacy, Safety and Immunogenicity of YLB113 and Enbrel for the Treatment of Rheumatoid Arthritis 関節リウマチ治療における YLB113 およびエンブレルの有効性、安全性、免疫原性を評価する比較試験	YLB バイオロジクス株式会社	内科
成人の慢性腰痛症患者を対象とした Tanezumab の鎮痛効果および安全性を評価する第3相多施設共同無作為化、二重盲検、プラセボおよび実薬対照、並行群間比較試験	ファイザー株式会社	整形外科
日本人成人の慢性腰痛症患者を対象とした Tanezumab の長期皮下投与時の安全性および有効性を評価する第3相、多施設共同、無作為化、二重盲検、実薬対照比較試験	ファイザー株式会社	整形外科

なお、GCP 第28条により、治験業務手順書、治験審査委員会委員名簿、治験審査委員会の審議概要を平成21年4月から当院のホームページで公開している。

# 検体検査管理委員会

## 【精度管理調査】

平成 27 年度、日本臨床衛生検査技師会、日本医師会をはじめ、多くの精度管理調査に参加した。

日本臨床衛生検査技師会の成績は、臨床化学、免疫血清、微生物、一般、病理、細胞、血液、輸血、生理において 99.1%であった。日本医師会の成績は、総合標点 99.8 点であった。

また、会議を平成 28 年 3 月 8 日に開催し、精度管理調査成績報告を行った。

## 主な院内精度管理

生化学検査	:	市販コントロール血清 (毎日)
血清学検査	:	市販コントロール血清 (毎日)
一般検査	:	市販コントロール試料 (毎日)
血液検査	:	市販コントロール試料 (毎日)
血中薬物検査	:	市販コントロール血清 (1 回/週)
血液ガス分析検査	:	市販コントロール試料 (1 回/週)
凝固線溶検査	:	市販コントロール血漿 (毎日)
輸血関連検査	:	市販コントロール試料 (毎日)

## 外部精度管理

日本臨床衛生検査技師会精度管理調査	(1 回/年)
日本医師会精度管理調査	(1 回/年)
血液学的検査	: QAP (シスメックス 2 回/年)
	: 山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回/年)
生化学的検査	: QAP (シスメックス 1 回/月)
	: 山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回/年)
微生物学的検査	: 山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回/年)
組織・細胞検査	: 日本細胞学会精度管理調査 (1 回/年)
	: 山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回/年)
輸血検査	: 山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回/年)
生理検査	: 山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回/年)

上記以外にも、多くのメーカー精度管理を実施、参加した。

## 【検体検査管理加算】

当院は、検体検査管理加算Ⅱを届出ている。



**【精度保証施設認証】**

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会が認定している「精度保証施設認証」を、2014年4月1日より2年間(2年更新)、精度保証施設として認証を受け、来期も更新予定である。

# 診療録管理委員会

当委員会は診療録の管理に関する諸問題を解決するための活動を行っている。

平成 27 年度は病院機能評価受審を契機に、マニュアル等の整備やカルテの質的監査を開始した。以下に平成 27 年度の主な活動を記す。

- (1) 「診療録記載指針」の作成（平成 27 年 11 月）  
これまで設けられていなかったため、新規に作成した。
- (2) 「診療録記載マニュアル」の作成（平成 27 年 11 月）  
電子カルテに対応するため、新規に作成した。
- (3) 第 1 回入院診療録の質的監査の実施（平成 28 年 1 月）  
50 例の入院カルテについて、医師及び看護師がそれぞれ医師記録及び看護記録の内容を監査した。
- (4) 退院時要約の監査と督促  
診療録管理体制加算 1 算定要件（全ての入院患者の要約が作成され、退院後 14 日以内に 90%以上が完成されていなければならない）を充たすことを目的に退院時要約の作成状況を診療情報管理室で監視し、3 段階で主治医に督促を行っている。図 1 が運用フローである。図 2 に示すように 90%以上の完成率を保っている。
- (5) 「下関市立市民病院医療情報システム運営管理要綱」、「下関市立市民病院診療録取扱要領」の作成（平成 28 年 2 月）  
これまで設けられていなかったため、新規に作成した。
- (6) 診療録記載率の監視を開始（平成 27 年 7 月開始）  
医師毎に「診療録記載日数／入院日数」を監視、医局会で報告し、毎日の記載を促している。



図1 退院時要約の監査と通知の流れ

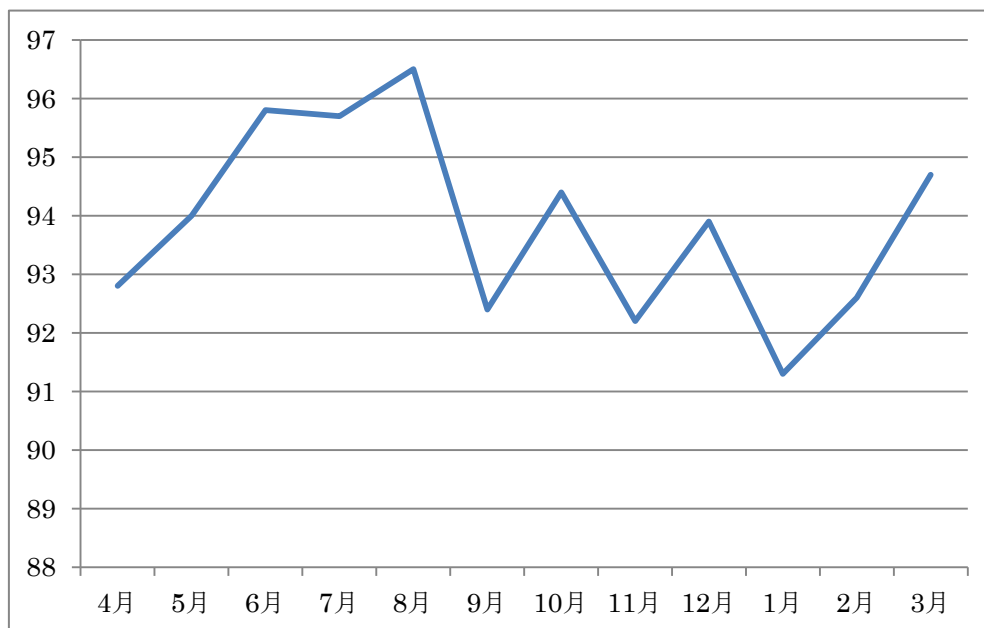


図2 平成27年度 14日以内退院時要約作成率 (%)

# 安全管理委員会

## 1. 安全管理委員会（毎月第4水曜日開催）12回／年開催

医療事故を防止するためには、医療に係る各職員がその必要性和重要性を自分の課題と認識して事故防止に努め、医療の質の向上を図るとともに事故防止体制を確立することが必要である。この目的に鑑み、当委員会は平成14年に発足し、以下の5つの部会 1) リスクマネジメント部会 2) インシデント事例検討部会 3) 各種ワーキングチーム 4) ヒヤリ・ハットミーティング 5) 医療案件検討部会を基盤としている。

平成27年度の安全管理委員会の大目標として「安全と安心のチーム医療」、中目標として「多職種間のコミュニケーションの改善」を掲げ、関わりのある多職種で小目標と具体的な行動を決め取り組んだ。平成24年度より医療安全推進のためには、院内コミュニケーションの改善が不可欠であるという考えのもと、「松本宣言」を病院全体で実践することを推奨し、スタッフ間の円滑で積極的なコミュニケーションの醸成を目指している。今年度はさらに、多職種間のより良いコミュニケーションにより、横のつながりを強くして、誰もが自由に意見を言い合うことができる風通しの良い垣根の低い環境を作り出すことが真のチーム医療を実現する第一歩ととらえ、組織全体で取り組んだ。各部署の目標と評価はホームページに掲載した。

医療安全対策室を活動母体としては以下の業務を行った。

平成27年度はリスクマネジメントマニュアルを医療安全管理マニュアルと改名し、医療安全管理指針をはじめ、マニュアルや手順書の大幅な改正を行った。主な改正項目は以下のとおりである

- 医療安全管理に関する指針
- 安全管理委員会設置要項
- リスクマネジメント部会設置要項
- 医療安全対策室設置要項及び医療安全対策室業務手順
- 医療事故発生時対応マニュアル
- 医療上の事故等の公表に関する指針
- 説明と同意に関する指針
- 救急カート運用マニュアル
- 患者確認に関するマニュアル
- 指示だし指示受けの基準
- 転倒転落事故防止に関する手順
- 身体抑制に関するガイドライン

また、平成27年10月1日の医療事故調査制度施行を受けて、以下のものを新規に作成した。

- 医療事故調査制度による下関市立市民病院における“医療に起因する（疑いを含む）

予期せぬ死亡又は死産”への対応フロー図

○医療事故調査委員会設置要項

○医療事故調査委員会における外部委員のお願い及び自己申告書、誓約書さらに倫理委員会臨床部会と提携し「DNAR 指示に関する指針」を作成

安全管理委員会主催の講演会は次のとおりである。

その他の研修会は、医療安全対策室より報告する。

#### 【医療安全講演会】

①平成 27 年 6 月 11 日

「コーチング流コミュニケーションによる医療人のやりがい作り～医療安全に向けて～」 (参加者：院内 136 名、院外 59 名)

講師：畑埜 義雄氏 (畑埜クロスマネジメント代表)

②平成 27 年 10 月 8 日

「病院医療安全の観点から考えた死亡診断書記載の問題点」

(参加者：院内 111 名、院外 13 名)

講師：池田 典昭氏 (九州大学大学院医学研究院 法医学分野 教授)

#### 【リスクマネジメント大会】

平成 28 年 2 月 11 日

「第 12 回 リスクマネジメント大会」

発表部署：救命センター・手術部・医局(研修医)

3 階東病棟・栄養管理部・検査部

医療安全対策室より年間報告及びトピックス報告

## 2. リスクマネジメント部会 (毎月第 2 木曜日開催) 12 回/年開催

安全管理・医療事故防止などに関する重要事項について、院内全部署から選ばれたリスクマネージャーが真剣に討議し、有効な対策を提案し安全管理委員会に議案を提出、決定事項については安全管理委員会よりリスクマネジメント部会および院内に広報した。

インシデント事例報告については、高リスクレベルあるいは発生頻度が多い事例についてインシデント事例検討部会で検討し、部会に通知した。また適宜、インシデント報告の状況を報告した。

また、昨年度までは看護部のみで行っていた院内ラウンドを、医療安全 RM ラウンドとして各部署のリスクマネージャーによって、隔週で行い結果を部会で報告した。

## 3. インシデント事例検討部会 (毎月第 3 金曜日開催) 12 回/年開催

提出されたすべてのインシデント・アクシデント報告 (ヒヤリハット報告含む) について、安全管理委員会委員長ほか 11 名のメンバーが全事例を確認し、対策の必要度をトリアージしている。取り上げた事例について関連部署で SHELL 分析し、リスクマネジメント部会で報告した。また、ヒヤリ・ハットミーティング報告事例は事例検討部会に還元した。

インシデント・アクシデント報告 (転倒転落事故報告含む) の 27 年度集計は後半に示す。

#### 4. リスクマネジメント・マニュアル部会

本部会は、医療安全対策室と協力し、リスクマネジメント部会を充実させるための企画立案を行っていく重要な役割を担っている。組織横断的に事故防止のシステム作りに生かしていくマニュアル案の作成が主たる業務である。本年度も、主として各ワーキングチームで取り組んだ。

平成 27 年度は下記のワーキングチームで、現状調査やマニュアルの作成、改正を行った。

- ①肺血栓塞栓症／深部静脈血栓塞栓症予防ガイドラインの改正チーム
- ②B L S 講習会チーム
- ③転倒転落防止対策チーム
- ④インスリン関連ワーキングチーム

#### 5. 医療案件検討部会（開催は必要に応じて随時） 5 回／年

平成 27 年度は緊急案件 5 件を審議検討した。

部会メンバーは、安全管理委員会委員及び関係診療科・部署の責任者とした。

リスクレベル 3 以上の事例、または対応に苦慮している事例、他部署から疑義が出た事例について、病院としての考え方、対応のあり方、倫理上の問題を組織横断的に検討した。開催した事例の関連科の医師・看護師からは、有意義な会であったとの評価を得た。

#### 6. ヒヤリ・ハットミーティング（毎月第 1・3 月曜日開催） 22 回／年

（平成 22 年 11 月より開始）

インシデント・アクシデント報告のうち、リスクレベルの高いもの、早期に対応を要する事例、医療上のクレームなどを選択し、幹部職員に報告、早期に指示を得ることを目的として開催している。内容によっては早めの方針決定や医師への周知が必要なものがあり、My Web や関連会議で周知・確認を行った。また、早期対策の実施につながった。

#### 7. インシデント・アクシデント報告数：1,475 件／年（転倒転落を含む）

リスクレベル分類の 0～5 については多くの施設が採用している分類である。

当院では、患者に実施されるものではない医療に関連したクレーム、医薬品の紛失・破損、医療従事者に発生したもの、分類困難なもの等、広く収集するためにリスクレベル 6 を設定している。

（別項に報告）

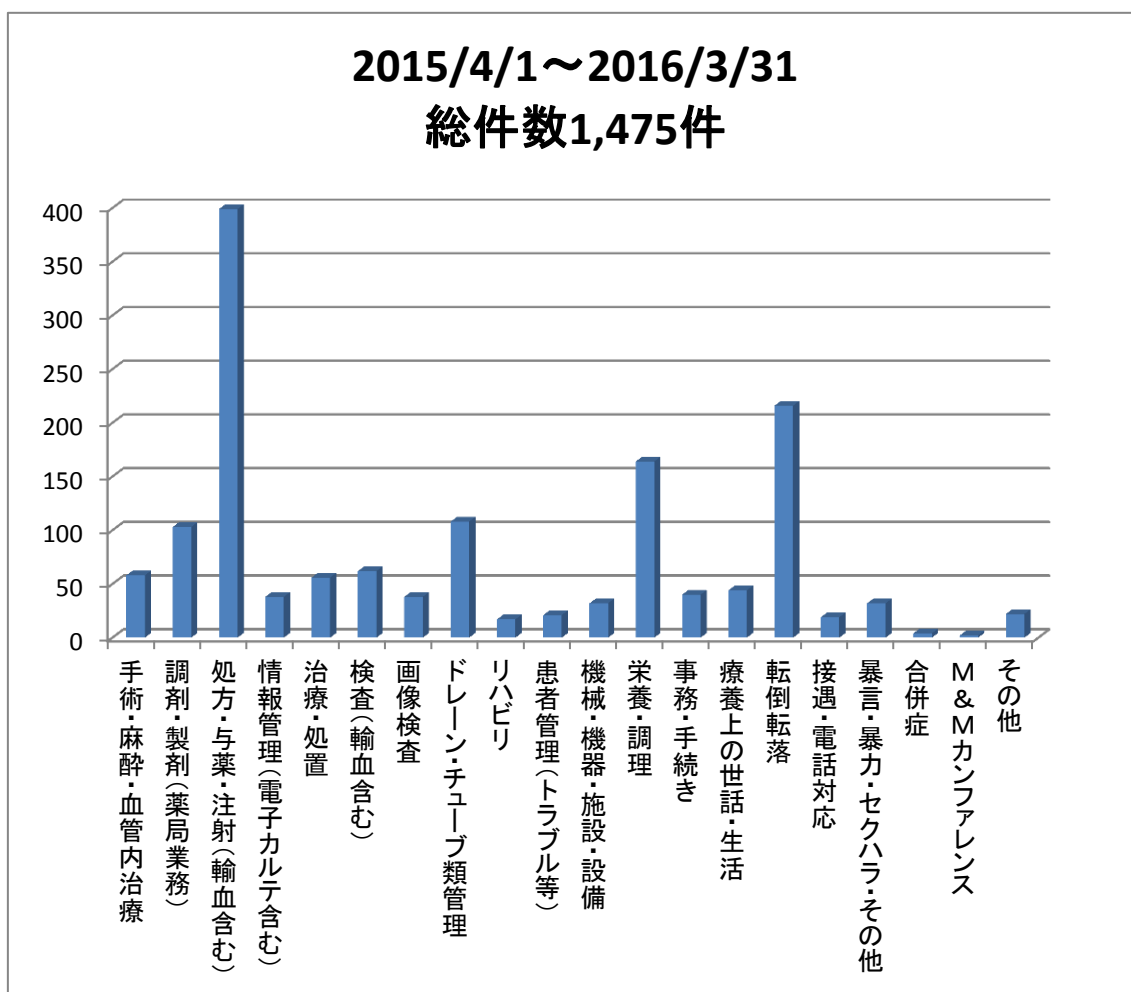
## 安全管理委員会委員名簿

平成27年6月1日現在

委員会役職名	氏名	院内役職名	備考
委員長	前田博敬	副院長・医療安全対策室室長	
副委員長(第一)	上野安孝	副院長・医療機器安全管理責任者	
副委員長(第二)	河田うしを	医療安全対策室長補佐・副看護部長	
委員	田中雅夫	院長	
〃	大久保典子	医療安全対策室専従リスクマネージャー	
〃	真弓武仁	副院長	
〃	坂井尚二	副院長	
〃	白澤建藏	副院長	
〃	篠原正博	副院長	
〃	吉田順一	感染管理室・室長	
〃	山下彰久	医局幹事	
〃	川元博之	検査部技師長	
〃	湯本ひとみ	看護部長	
〃	松岡宏	薬剤部長・医薬品安全管理責任者	
〃	池永博文	参与	
〃	吉田初巳	事務部長	
〃	秋枝淳司	事務部次長(医事グループ長)	
〃	水野直	経営企画グループ長	
〃	城山恵介	医事グループ主任	

SafeProducer単純集計

集計期間(報告日時)		2015/4/1～2016/3/31	
出来事の領域分類	件数	出来事の領域分類	件数
手術・麻酔・血管内治療	58	機械・機器・施設・設備	32
調剤・製剤(薬局業務)	103	栄養・調理	164
処方・与薬・注射(輸血含む)	399	事務・手続き	40
情報管理(電子カルテ含む)	38	療養上の世話・生活	44
治療・処置	56	転倒転落	216
検査(輸血含む)	62	接遇・電話対応	19
画像検査	38	暴言・暴力・セクハラ・その他	32
ドレーン・チューブ類管理	108	合併症	4
リハビリ	17	M&Mカンファレンス	2
患者管理(トラブル等)	21	その他	22
件 数 計			1,475





# 褥瘡対策委員会

## 【目的】

入院患者様に安全で快適な療養環境を提供するために、褥瘡予防・治療上における各職種の専門性を生かした対策を検討し、全職員へ周知、徹底させる。

## 【活動概要】

褥瘡対策委員会は毎月 1 回定期的に開催し、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士および理学療法士等、多職種で構成されており、褥瘡対策に関する協議、症例検討を行っている。

カンファレンス、回診を週に 1 回行い、患者一人ひとりに応じた褥瘡治療・ケアを提供している。

平成 27 年度は「褥瘡発生 0」をめざし、ポジショニング、フットケア、離床促進の 3 グループで活動を行った。

## 【平成 27 年褥瘡に関する数値】

院内褥瘡発生率 0.07%

<年間発生数>

院内発生	77 件
院外発生	71 件

<転帰>

	死亡	治癒	自宅	転院
院内発生	25 件	32 件	3 件	17 件
院外発生	9 件	25 件	7 件	27 件

院内発生褥瘡について

<疾患別>

がん	骨・関節疾患	脊髄疾患	循環器疾患	脳血管疾患	肺炎	腎疾患	その他
21 件	12 件	8 件	11 件	4 件	7 件	4 件	10 件

<部位別>

仙骨	踵	大転子	腸骨	尾骨	坐骨	背部	その他
31 件	16 件	7 件	0 件	0 件	5 件	6 件	12 件

## 【平成 27 年度研修内容】

「そのマットレス 患者さんに合っていますか？」

「ポジショニングの基本」

「おむつの正しい当て方」

「フットケアをはじめよう」

# 栄養管理委員会

## 【目的】

当委員会は、院内における栄養管理業務の円滑な運営と、その質の向上を図ることを目的としている。

## 【構成】

委員長：平 俊明 耳鼻咽喉科部長（栄養管理部長兼務）

副委員長：前田 博敬 副院長

委員：医師 3名、主任看護師 3名、主任管理栄養士 1名、事務局 3名

## 【活動状況】

会議は3回の定例会議を開催した。審議内容は以下のとおりである。

### ◇給食業務の委託業者の今後の契約について

契約方法と今後のスケジュールについて、現委託の状況と他施設への状況確認のためのアンケート調査をし、プロポーザルでの契約を決定し、2月に新業者に決定。

3月に新業者への今後の運営についての聴取と要望を行った。

### ◇平成27年度事業計画の進捗状況

事業計画を実施するための具体的な内容検討を行った。

- ①言語聴覚士との相談による基準にあった嚥下食の見直し
- ②各病棟・診療科のカンファレンスに栄養士の参加
- ③栄養サポートチーム加算の早期体制整備
- ④地域連携のための退院時サマリー作成の増加
- ⑤機能評価受審のための業務改善

### ◇治療食栄養基準成分表の改訂について

日本人の食事摂取基準2015年版の公示を受け、当院の食事基準成分表の検討を行った。塩分は現行通り常食、軟菜食は10g。カロリーコントロール食の糖質エネルギー費は55%に改める。

### ◇入院患者の食事アンケート結果について（H27.9とH27.12）

栄養管理部で行った入院患者に対する年2回の食事アンケートの結果、みんなの声について評価を行った。

アンケート結果では、現在の病院給食に払える金額は平均466.7円であり来年度からの自己負担額増額(260→360円、30年度460円)に向けて検討材料とする。

食事の満足度も5点満点を評価いただける方が65.4%と多くあった。

◇機能評価の評価項目の確認と受審報告

受審に向けてのマニュアルの改訂審議、嚥下食の評価基準の作成と使用の協力依頼。  
評価 2 項目を自己評価 S 評価での提出審議。  
機能評価受審報告～おおむね評価は良好。

◇平成 28 年度予算要求、組織目標について

来年度の組織目標を決め、その運営に必要な経費である食材料費、食器、材料費、研修費の計上内容の検討。

診療報酬の改訂に伴い栄養指導の算定対象の拡充、指導料の増額あり。今後も栄養指導件数の増加による患者のサービスに努める。

このうち、審議内容やその結果により院内への周知が必要な事項については、関係各部署への周知を行った。

# 広報年報委員会

(対象：平成 27 年 (2015 年 1～12 月))

当委員会は(1)広報活動として広報誌「まごころ」とインターネット上の公式サイト、また(2)各部署の年報を編集する任務を果たしています。

平成 27 年 4 月に理事長・院長の交代があり、これを含めて広報と年報の活動をしました。

## 1. 広報活動

### ● 病院広報紙「まごころ」

原稿を編纂し、3 ヶ月ごとに印刷し、近隣病院など 300 余に発送しています。その際、新聞折り込みのように随時「外科だより」などトピックに合わせたプリントを差し込んでいます。

電子版のバックナンバーの一覧は、<http://shimonosekicity-hosp/index61.html> に掲載しています。

平成 26 年発刊分から、特集を記載します：

2 月 15 日号：肺癌治療

5 月 15 日号：妊婦喫煙の実体と絶対禁煙！のススメ

8 月 15 日号：関節超音波検査って何だろう？

11 月 15 日号：がんについて、知ろう、学ぼう

### ● 公式サイト

#### 1) メールマガジン

メール会員が毎月受け取られ、内容としては更新ページのお知らせと速報を掲載しており、会員ご希望のかたは[下関市立市民病院 メールマガジン]で検索、または、<http://shimonosekicity-hosp/index71.html> からご登録ください。なお同ページにて過去のバックナンバーにリンクがあります。

#### 2) メールリングリスト

現在「感染対策ネットワーク下関」の会員のかたがたに無償で提供しています。なお会員ご希望のかたは、約定がありますので、当委員会または感染管理委員会までお知らせください。

## 2. 年報

電子化して公式サイトに掲載するように改革し、27 年に編纂した 26 年版は、公式サイト <http://shimonosekicity-hosp/> の検索窓において、[年報]で検索すると各診療科・部署のページにおいて示されます。

## 3. その他の広報活動

### ● 院内広報

電子カルテのオンライン上で電子掲示板を運用しており、電子カルテに権限のある職員は発信することができます。また各委員会のマニュアルも格納しており、検索窓から検索することができます。さらに議事録なども掲示する記事において電子ファイルにリンクを貼ることができ、緊急対応においても流言を防ぎ、速報性を高める危機管理のツールとして役立っています。

● 院外広報

公共性の高い情報は、本市の「市報しものせき」においても広報しています。その例として、採用情報の案内があります。

# 衛生委員会

本委員会は、労働安全衛生法の規程に基づき設置される委員会です。

委員会では

- 1 職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること
- 2 職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること
- 3 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生にかかるものに関すること

などを調査審議しています。

平成 27 年度も毎月第 2 金曜日に衛生委員会を開催し、ラウンドで院内の衛生、危険箇所について点検を行い、その対応について協議を行いました。

また、過重労働対策として月に 80 時間以上の時間外勤務を行った職員の疲労度チェックを実施し、必要に応じて産業医の面談を行うこととしています。

その他、平成 25 年 7 月から実施された敷地内禁煙対策や、介助者の腰痛を予防することを目的とした腰痛予防対策に取り組み、職員の心のケアを図る目的でメンタルヘルス相談等にも取り組んでいます。

今後も職員の労働安全衛生に取り組んで参ります。

# 倫理委員会

## 【研究部会】

平成 27 年 1 月から 12 月までの開催回数は 10 回、審査件数は 22 件であった。

研究の侵襲性や個人情報の保護、インフォームド・コンセントが適切であるかなどについて検討し、全て承認となった。詳細については、議事録として保存した。

## 【臨床部会】

当院の倫理委員会は臨床研究について審議する機関として設けられていたが、昨今、臨床現場において倫理的問題が発生した時、現場での解決が困難な場合があることから、病院としてこの問題に取り組むことが求められるようになった。そこで病院機能評価受審をきっかけに、倫理委員会・臨床部会を新設し、従来の倫理委員会は倫理委員会・研究部会とした。

倫理委員会・臨床部会の役割は以下の 2 点である。

- (1) 臨床現場で起こる様々な倫理的問題のうち、現場の協議では解決できない問題について協議する。
- (2) しばしば遭遇する代表的な臨床倫理的問題に対する病院としての方針を決定する。

## 部会開催実績：

平成 27 年 9 月 16 日 家族が人工呼吸の中止を求めた件に対する対応を協議

平成 27 年 12 月 10 日 通院中の末期患者が在宅死した場合の対応について協議

平成 28 年 1 月 21 日

1. 「臨床倫理に関する指針」を策定し、ホームページ、職員ハンドブック等に掲載
2. 「臨床倫理に関する対応」 代表的な倫理的課題についての方針を検討した
3. 「DNAR 指示に関する指針とチェックリスト」を整備
4. 「終末期医療に関する基準」が癌緩和ケアチームより提出され、承認された

平成 28 年 1 月 27 日 「臨床倫理に関する対応」を承認。

My Web、医師業務マニュアルに掲載。代表的な倫理的課題に対する病院としての方針を示した。

平成 28 年 2 月 3 日 暴言を吐く透析中の結核患者に対する対応について協議

平成 28 年 2 月 25 日 暴言を吐く孤独な末期がん患者への対応について協議

## 研修会：

平成 28 年 2 月 22 日 第 1 回倫理研修会開催

「倫理的問題の把握と対応について」（講師：上野 安孝 副院長）

# 研修管理委員会

当委員会は、下関市立市民病院群の臨床研修について具体的な事項の立案・計画を行うことを目的とし、6人の外部委員を含む29名の委員で構成されている。

平成27年度における活動実績は、次のとおりであった。

## 1. 初期臨床研修医数

- (1) 基幹型 1年次 3名  
2年次 2名
- (2) 協力型 1年次 1名 (九州大学)  
2年次 1名 (九州大学)

## 2. 歯科医師臨床研修医

- (1) 8月～11月 1名 (九州歯科大学)
- (2) 12月～3月 1名 (九州歯科大学)

## 3. 協力病院での研修

精神科 医療法人水の木会下関病院

## 4. 協力施設での研修

地域医療 下関市立豊田中央病院  
医療法人社団松涛会安岡病院  
特定医療法人茜会昭和病院  
医療法人社団李朋会王司病院

## 5. 活動状況

- (1) 早朝講義 (研修医及び院内関係者が受講。内容は別表のとおり)
- (2) 研修医合同説明会への参加
  - レジナビフェア (7/5 大阪、3/6 福岡)
  - e レジフェア (12/13 福岡)
  - 九州ブロック初期臨床研修進路説明会 (2/13 福岡)
- (3) 九州大学病院群及び山口大学病院群の病院説明会への参加
- (4) 病院見学会 (12回)



## 平成27年度 早朝講義日程表

時間 7:50～8:20

場所 健康相談室

月日	曜日	講義項目		担当
4/6	月	医療人としてのマナー		田中院長
4/7	火	保険診療	保険医	上野副院長
4/8	水	医療安全	医療安全	前田副院長
4/9	木	蘇生法	救急科	中原部長
4/10	金	基本輸液	外科	石光部長
4/13	月	泌尿器科の救急疾患	泌尿器科	吉弘部長
4/14	火	呼吸不全について	呼吸器外科	井上部長
4/15	水	耳鼻咽喉科のプライマリーケア	耳鼻咽喉科	平部長
4/16	木	輸血について	血液内科	久保医長
4/17	金	AMIと急性左心不全	循環器内科	金子部長
4/20	月	小児の救急患者対策(1)	小児科	坂田医師
4/21	火	小児の救急患者対策(2)	小児外科	大森医師
4/22	水	小児の救急患者対策(3)	小児科	河野部長
4/23	木	皮膚科の救急疾患	皮膚科	内田部長
4/24	金	脳外科から当直の先生へ	脳神経外科	中村部長
5/7	木	急性腹症	外科	篠原副院長
5/8	金	消化器病の救急	消化器内科	具嶋医長
5/11	月	心臓血管外科領域の救急疾患	心臓血管外科	栗栖部長
5/12	火	眼科の救急疾患	眼科	登根医長
5/13	水	摂食・嚥下ケア	看護部	高橋認定看護師
5/14	木	整形外科の初期治療	整形外科	白澤副院長
5/15	金	産婦人科の救急疾患	産婦人科	川崎部長
5/18	月	糖尿病の薬物療法	内科	真弓副院長
5/19	火	クスリのリスク	薬剤部	松岡薬剤部長
5/20	水	感染管理	感染管理室	吉田部長
5/21	木	救急のCT	放射線診断科	箕田部長
5/22	金	緊急検査のピットホール	検査部	川元技師長
5/25	月	研修医の先生方へお願い	放射線部	三隅技師長
5/26	火	口腔外科領域の救急治療について	歯科	入学部長
5/27	水	抗菌薬について	感染管理室	吉田部長
5/28	木	創傷管理	看護部	藤重認定看護師
5/29	金	栄養について	栄養管理部	中川主任

# CS推進委員会

## 【みんなの声】

CS推進委員会は、例年のごとく毎月第3水曜日に開催し、「みんなの声」の投書に対する回答を含め、病院のCSに関する改革について検討している。

平成27年度みんなの声投書数…313件

## 【接遇研修会】

外部講師を招き、9月と12月に全職員を対象に実施した。

### ・第1回テーマ

「医療現場におけることばと人間関係」

コミュニケーションについて考えてみませんか

### ・第2回テーマ

「クレーム対応の基本と応用」

## 【患者さまアンケート】

例年は、外来患者さま・入院患者さまに対して当院独自のアンケート調査を2回実施しているが、27年度においては、他病院と比較することを目的に外部の専門業者へ委託し、11月に1回実施した。

下記のとおり全体的に、他の参加病院平均を上回る結果となった。

しかしながら、接遇や職員のマナー、患者さまの待ち時間短縮などの課題もあるため、今後も改善に向けた検討が必要である。

<主要項目の結果（100点満点）>

### ・入院診療の満足度

当院 87.3点（参加病院平均 84.0点）

### ・外来医療に対する満足度

当院 78.8点（参加病院平均 76.0点）

# クリニカルパス推進委員会

本委員会は、以下のことを審議・実施することを使命として、活動している。

- (1) 新たなクリニカルパスの作成に関する事項
- (2) 使用中のクリニカルパスの見直しに関する事項
- (3) その他クリニカルパスの推進に関する必要な事項

平成 27 年度の委員会は、医師 6 名、看護師 18 名、事務職員（診療情報管理士を含む）5 名、理学療法士 2 名、検査技師・放射線技師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー各 1 名、計 36 名、他職種から集まって構成されている。

活動内容としては、次のとおりであった。

- # 月 1 回の委員会会議
- # それぞれの分担下での、クリニカルパス管理
- # 大腿骨頸部骨折・脳卒中地域連携パス（下関市の研究会に参加）・がん地域連携パスを通して、地域医療連携に関与
- # 日本クリニカルパス学会主催の教育セミナー（8 月 1 日、於；大阪市・大阪国際交流センター）に参加（委員の中より 2 名）。

本年度内に作成された新規クリニカルパスは、③診療科での 6 種であったが、既存のパスにも精力的に見直しを行い、整理・改良を加えた。また、患者説明用に患者用パスの整備も行った。

現在当院で作成・使用中のクリニカルパスは、以下のとおり計 104 種・15 診療科であり（\*は、患者用パス；未整備分。昨年度末は、計 101 種・16 診療科）、全入院患者の 35～40% のケースで使用されていた。

科	パス	
糖尿病内科	糖尿病教育入院（*）	
消化器内科	ポリペク	内視鏡的胃粘膜下層剥離術クリニカルパス
	胃瘻造設	
循環器内科	血管造影検査	下肢動脈形成術
	冠動脈形成術	ペースメーカー植え込み術
	ペースメーカー電池交換	
腎臓内科	PET（腹膜機能検査）	内シャント PTA
	内シャント造設術	腎生検クリニカルパス（右穿刺）
	腎生検クリニカルパス（右穿刺） 当日入院	腎生検クリニカルパス（左穿刺）

科	パ ス	
腎臓内科	腎生検クリニカルパス（左穿刺） 当日入院	
外 科	ラパコレ	鼠径ヘルニア
	虫垂切除術	腹腔鏡下結腸切除術
	乳房部分切除術	乳房切除術（全摘）
	E R C P	
呼吸器外科	胸腔鏡下肺切除術（悪性）	胸腔鏡下肺切除術（良性）
	胸腔鏡下肺切除術（気胸）	肺切除術（開胸）
心臓血管外科	腹部大動脈瘤人工血管置換術	下肢静脈瘤（ルンバール）
	下肢静脈瘤（全身麻酔）	下肢血管手術
	ステントグラフト内挿術（胸部）	ステントグラフト内挿術（腹部）
脳神経外科	両側・慢性硬膜下血腫手術（前日入院）	両側・慢性硬膜下血腫手術（当日）
	慢性硬膜下血腫手術（前日入院）	慢性硬膜下血腫手術（当日）
	脳梗塞	当日アンギオ
	脳血管撮影	脳出血（手術なし）
産婦人科	緊急帝王切開	腹式帝王切開
	初産	経産
	子宮脱	子宮筋腫腹式手術
	子宮癌初期	円錐切除
	腹腔鏡補助下卵巣腫瘍摘出術	
小児科	低身長検査 A 検査アルギニン負荷	低身長検査 B 検査 4 者負荷試験
	インバギ空気整復治療	感染性胃腸炎
	気管支喘息	食物負荷試験
	小児インフルエンザ	免疫グロブリン補充療法
小児外科	2泊3日手術	小児虫垂切除術（*）
整形外科	右 T H A	左 T H A
	B K P : 経皮的椎体形成術	右上腕骨遠位端骨折骨接合（*）
	左上腕骨遠位端骨折骨接合（*）	胸・腰椎圧迫骨折/コルセット治療
	右大腿骨骨接合術	左大腿骨骨接合術
	右大腿骨人工骨頭置換術	左大腿骨人工骨頭置換術
	抜釘術（上肢）	抜釘術（下肢）
	1泊2日脊髄造影（ミエロ CT）	腰椎後方椎体間固定術
	低侵襲腰椎側方椎体間固定術	腰椎椎弓形成術
	内視鏡下髄核摘出術	右 T K A（人工膝関節置換術）
	左 T K A（人工膝関節置換術）	右 U K A（人工膝関節単顆置換術）
	左 U K A（人工膝関節単顆置換術）	右 H T O（下腿骨切り術）

科	パ ス	
整形外科	左 HTO（下腿骨切り術）	右膝関節鏡（半月板縫合）（*）
	左膝関節鏡（半月板縫合）（*）	関節鏡（膝半月板切除）（*）
	頸椎椎弓形成術	
泌尿器科	前立腺生検	TUR BT
	TUR P	
眼 科	右両眼白内障	右片眼白内障手術
	左両眼白内障	左片眼白内障手術
	右眼瞼手術	左眼瞼手術
	右局麻硝子体手術	左局麻硝子体手術
耳鼻咽喉科	扁桃摘出術	内視鏡下副鼻腔手術（両 ESS）
	喉頭鏡下微細手術	眩暈（*）
	鼓膜チュービング術	小児扁桃腺摘出術

# N S T 運営委員会

## 【目的】

栄養管理はすべての疾患治療のうえで共通する基本的医療の一つであり、栄養管理をおろそかにするといかなる治療もその効力を発揮できず、逆に栄養障害に起因する種々の合併症を発症してしまうことがあります。適切な栄養療法が行われるためには医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師などの多くの職種が、各々の知識と技能を持ち寄って栄養管理を行っていかねばなりません。栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施することを栄養サポートと言い、この栄養サポートを職種の壁を乗り越えて実践する集団（チーム）を NST と言います。当院にもこの NST があり、平成 18 年度より全科型で開始しました。NST は嚥下チームも兼ね合わせ、栄養療法として最善の形で経口摂取が出来ることを目標に関わっています。

平成 27 年度は委員長である尾中脳神経外科医長のもと、活動に取り組みました。昨年に引き続き、口腔ケア・摂食嚥下障害看護・経腸栄養グループでの活動を積極的に行うようにしました。各グループでの活動を増やし、目標を挙げ、年間計画を立案し実践・評価を行うようにしました。3 月には、褥瘡対策委員会と合同で各グループ活動の報告会を開催し、委員会のメンバーだけでなく、院内スタッフを交えた活発な意見交換が行われました。

## 【主な活動内容】

- 毎月 1 回 委員会を開催
- 毎週 1 回 回診と症例検討会を開催
- 3 月にグループ活動報告会を開催
- 第 8 回日本静脈栄養学会中国支部学術集会 2 題発表  
学会参加

## 【実績】（2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）

回診：患者数 114 名

## 緩和ケア委員会

### 【目的】

現代医療では、緩和ケアを病気の初期の段階から適用し、患者・家族の QOL を良好に保つようにすることが求められています。がんと診断された患者に対しては、治癒を目指して化学療法、放射線療法、手術療法などを組み合わせた治療が行われています。

緩和ケアはより良く生きるための医療であり、患者やそのご家族一人ひとりの身体や心などの様々なつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアです。そのために、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなど多職種で患者さんに、最期を迎えるその瞬間まで人間らしく、毎日の生活をよりその人らしく送ることが出来ることを目指してサポートをしています。

平成 27 年度は緩和ケアチームから緩和ケア委員会となり、委員長である篠原副院長のもと、活動に取り組みました。

### 【主な活動内容】

- ・ 毎月 1 回委員会を開催
- ・ 毎週 1 回(金曜日) 院内回診

### 【実績】(2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)

回診：患者数のべ 120 名

# ボランティア活動

## 【概要】

平成12年6月から、市民参加によるボランティア活動開始。

目的は、市民の方のボランティア活動を通して、開かれた病院づくりを目指す。地域の方とのつながりを大切にする。

## 【活動について】

### 1. 登録人数 27名

#### (1) 活動内容

##### ① 外来ボランティア（月曜日～金曜日の平日、8：45～11：15）

活動人員 11名

受診科案内、車イス介助、再来受付、代筆など

##### ② 図書ボランティア（毎週水曜日、13：00～14：00）

活動人員 16名

移動図書「ふくふく文庫」など

#### (2) 年間活動

##### ① ボランティア連絡協議会…偶数月 5回／年

##### ② ボランティア交流会…1回／年

##### ③ 「市報しものせき」によるボランティア募集公募…1回／年



## 出前講座

### 【平成 27 年度実績】

テーマ	実施日	会場	参加者数	講師
転倒予防教室	4月12日	後田ふれあい プラザ	25人	リハビリテーション部 安部裕美子技師長 白幡雄大理学療法士 宮田辰成理学療法士
転倒予防教室	4月23日	J A 下関 王喜支所	60人	リハビリテーション部 安部裕美子技師長
転倒予防教室	5月18日	J A 下関 吉見支所	40人	リハビリテーション部 水野博彰理学療法士
親と子のかかわり	7月23日	安岡公民館	46人	看護部小児病棟 久木山久美子副主任
腰痛予防教室	7月28日	勤労福祉会館	130人	リハビリテーション部 池田理学療法士
転倒予防教室	9月2日	差葉町民館	20人	リハビリテーション部 白幡雄大理学療法士
腰痛予防・転倒予 防教室	11月9日	白滝公会堂	15人	リハビリテーション部 安部裕美子技師長 鈴木雅仁理学療法士
腰痛予防教室	11月19日	社会福祉センター	30人	リハビリテーション部 小林健治理学療法士